

## [2012/2013] 九州大学附属図書館研究開発室年報表 紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/27257>

---

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2012/2013, 2013-09. 九州大学附属図書館  
バージョン：  
権利関係：

---

# 九州大学附属図書館 研究開発室年報

---

Kyushu University Library,  
Research and Development Division  
Annual Report

---

2012 / 2013

---



## 目 次

### 【論文】

濱文庫に所蔵される南潯戲単の由来について－附：濱一衛著「劉氏の嘉業堂」－ .....	中里見敬	1
卓上型 RFID リーダの基本特性の評価 .....	藤崎清孝・新美孟	11
学生 SD のためのデータ解析の可能性と重要性－学生の仕事力養成のための 1 つのアプローチ－ .....	南俊朗	18
ウェブ上で提供されている医療・健康情報の実態と非主題カテゴリへの分類のための考察 ...	石田栄美	28

### 【報告】

本を通して仲間を知る－コアセミナーでの試み－ .....	副島雄児・田尾周一郎・ 平井康丸・金山素平・木村俊道・堀優子・井川友利子・大村武史・宮嶋舞美・工藤絵理子	34
中央図書館における生物被害とその対策について－シバンムシ被害を中心として－ ...	羽賀真記子	44

### 【目録】

濱文庫所蔵唱本目録稿（七） .....	中里見敬・山根泰志・中尾友香梨	49
---------------------	-----------------	----

<b>研究開発室の設置</b> .....	67
<b>平成 2 4 年度における研究開発</b> .....	68
<b>平成 2 5 年度研究開発室研究開発事項</b> .....	79
<b>沿革・会議日誌</b> .....	81
<b>論文・発表・関連講演会等</b> .....	82
<b>学会活動</b> .....	85
<b>調査・視察等</b> .....	86
<b>関連規則等</b> .....	87



濱文庫に所蔵される南潯戯単の由来について  
 — 附：濱一衛著「劉氏の嘉業堂」 —

中里見 敬†

<抄録>

九州大学附属図書館の濱文庫に所蔵される中国演劇の戯単（芝居番付）183枚（ほかに説明書3枚）のうち、上海および湖州南潯鎮の戯単計8枚は、濱一衛がいつどのようにして入手したのか来歴が不明であった。このたび濱一衛が1969年に書いた「劉氏の嘉業堂」という文章が見つかり、南潯訪問および観劇の経緯が明らかになった。本稿では濱一衛著「劉氏の嘉業堂」の全文を再録し、また「濱文庫所蔵戯単目録（第二版）」も掲載する。

<キーワード> 濱文庫, 浜文庫, 濱一衛, 浜一衛, 戯単, 芝居番付, 南潯, 劉承幹, 嘉業堂, 董康, 施維藩

Nanxun Playbills in the Hama Collection of Kyushu University Library  
 — With a Supplement of “Jiaye Tang Library of the Lius” by Hama Kazue —

NAKAZATOMI Satoshi

1. 濱文庫所蔵戯単の枚数および内訳

九州大学附属図書館の濱文庫には、中国演劇の戯単（芝居番付）が約180枚所蔵されている。これは元本学教養部教授で中国演劇研究者であった濱一衛（1909～1984）が主として1934～36年の北平（現在の北京）留学中に収集したものからなり、中国の戯単のコレクションとしては国内最大のものである<sup>1</sup>。うち120枚の戯単は濱の留学期間と重なることから、その多くは濱自身が観劇した際に持ち帰ったものだと考えられる。

筆者は前稿「濱文庫所蔵戯単編年目録」で、これらの戯単を年月日順に整理するとともに、その内訳を北平170枚（話劇2枚を含む）、奉天（現在の瀋陽）1枚、天津1枚、開封2枚、上海6枚（戯報2枚を含む）、湖州南潯鎮2枚、地点不明4枚の計186枚とした<sup>2</sup>。その後の調査により、地点不明としたうちの1枚は北平・開明大戲院のものだと判明した（図1～3）<sup>3</sup>。ただし、一般の戯単と異なり、2枚二つ折り、全8頁からなる小冊子形態で、内容も写真、本事、劇詞、広告からなる。残る3枚（浜文庫/集181/49, 68, 115。前2枚は同一）は、そのうち1枚が中丸均卿・濱一衛著『北平的中国戯』39頁に「梅派女優陸素娟の説明書」とのキャプション付きで掲載されていることから、劇場の戯単とは区別して、演目の特色・梗概・劇詞などを解説した説明書として扱うのが適当であろう（図4, 5）。

以上の結果をふまえて前稿を修正すると、濱文庫に所蔵される戯単の枚数は全183枚となる。その内訳は、北平171枚（話劇2枚を含む）、奉天1枚、天津1枚、開封2枚、上海6枚（戯報2枚を含む）、湖州南潯鎮2

枚である。そして、別に演目の説明書3枚（うち2枚は同一）が所蔵される。



図1（左）北平・開明大戲院 表紙「騎山救母 花蕊夫人劇本/尚藝員小雲便影」18.7×13.3cm（浜文庫/集181/未整理）

図2（右）同 口絵「尚藝員小雲花蕊夫人劇影」

（浜文庫/集181/未整理）

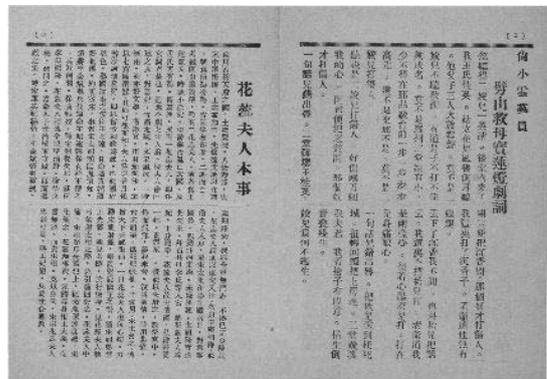


図3 同 2～3頁「尚小雲藝員/騎山救母實蓮燈劇詞」「花蕊夫人本事」（次頁「花蕊夫人劇詞」）（浜文庫/集181/未整理）

† なかざとみ さとし 九州大学言語文化研究院准教授, 附属図書館研究開発室室員 E-mail: naka@flc.kyushu-u.ac.jp



図4「俊襲人」(陸素娟主演) 説明書 24.1×31.5cm  
(浜文庫/集 181/49)



図5「金瓶女」(李世芳唱) 説明書 20.9×27.9cm  
(浜文庫/集 181/115)

## 2. 濱文庫所蔵戯単のうち由来不明のもの

北平以外の戯単に関して、天津・中原公司遊芸場の戯単1枚および開封・永安舞台の戯単2枚については、濱自身による旅行記に以下のような記述があることから、旅行中に観劇した際の戯単であることがわかる<sup>4</sup>。

午前十一時五十分汽車は天津に着いた。総領事館パスポートで執照を受取って、夜の汽車の時間までを中原会社の遊芸場で過した。三層の落子館、四層の評戲場電影、五層の大劇場と皆観て二毛というから廉い。(中略)大劇場の皮簧は玉堂春を演っていて、しばらく覗いて観たが別に変わった事も無いし、四層の評戲も北平の評戲と全然変りが無いので、三層の落子館を聴く事にした。(pp. 198-197)

其晩食後相国寺境内にある永安舞台へ行って、老義成班の河南梆子(土戲)を聴いた。馬双枝、王潤枝、張心田等の一座で、女優が中心の様であった。(中略)最初の日には後本梅降雪、二日目には頭本紫金鑊を見たが何れも只管物語が進んで行く丈で芸の見せ処が無い。(pp. 189-188)

一方、奉天、上海、湖州南潯鎮の戯単については、これまで濱一衛がどのような経緯でこれらの戯単を手にしたのかは不明であった。奉天、上海といった大都市はともかく、なぜ湖州南潯鎮の戯単が残されているのか、もし濱自身が観劇したのであれば、なぜわざわざこの南方の小鎮を訪問したのか、こうした疑問を解く手がかりはこれまで得られていなかった。このたび、濱一衛自身の文章により、一連の経緯を確定することができたので以下報告したい。

## 3. 濱一衛著「劉氏の嘉業堂」による由来の解明

筆者は最近、九州大学学術情報リポジトリを検索していて、偶然にも濱一衛著「劉氏の嘉業堂」(『図書館情報：九州大学附属図書館月報』vol. 5, no. 7/8, 1969. 8. いま <http://hdl.handle.net/2324/18023> で公開)というエッセイを発見した。この文章は、公刊されている濱の2種類の研究業績表のいずれにも採録されておらず、忘れられていたといつてよいものである<sup>5</sup>。筆者は2009年5月に九州大学附属図書館中央図書館で開催された展示会「濱一衛と京劇展：濱文庫の中国演劇コレクション」の準備や図録作成にあたり、また2011年3月に花書院より濱文庫所蔵の未刊原稿を『中国の戯劇・京劇選：濱一衛著訳集』として刊行するにあたり、可能な限り濱の書いた文章を博搜しようと試みた。にもかかわらず、迂闊なことに「劉氏の嘉業堂」という文章の存在には気づかないままであった。この文章を含む『図書館情報：九州大学附属図書館月報』の巻号がリポジトリに登録されたのが2010年9月10日であったことも筆者の見落としの一因であったかもしれない。いずれにせよ、この「劉氏の嘉業堂」という一文により、上述の戯単の由来に関する疑問は水解することとなったのである。

「嘉業堂をたずねたのは昭和十一年春のことであった」と始まるように、このエッセイは濱が1936年6月の帰国直前に、南潯の劉氏嘉業堂を訪問したことを回顧したものである。嘉業堂とは蔵書家・劉承幹(1882-1963)の私設蔵書楼であり<sup>6</sup>、1920年代には約60万巻の書籍を擁し、しかも宋元刻本91種、明刻本841種、明清抄本741種もの善本を誇るなど、当時最大の私家蔵書楼であった<sup>7</sup>。だが、濱の訪問した1936年にはすでに蔵書の売却が始まっており、徐々に嘉業堂の衰退が始まる時期であった。

濱はこの旅行の行程を次のように記している。「この時は一月あまりの旅行で、北京を出て天津、大連、瀋陽(奉天)と東北をまわり、大連から船で上海に出て、杭州により蘇州に出た。嘉業堂のある南潯は蘇州の閶門から呉興(湖州)への運河の途中で下りる。」この記述により、上海の戯単6枚、すなわち

- 1936年4月26日 上海・更新舞台  
(浜文庫／集181／43)
- 1936年4月26日 上海・栄記大世界(戯報)  
(浜文庫／未整理209)<sup>8</sup>
- 1936年4月27日 上海・天蟾舞台  
(浜文庫／未整理210)
- 1936年4月27日 上海・劇世界(上海版)(戯報)  
(浜文庫／未整理211)
- 1936年5月3日 上海・金城大戲院  
(浜文庫／集181／44)
- 年月日不詳 上海・天蟾舞台  
(浜文庫／未整理267)

は、南潯に到る途中で観劇した際の戯単または戯報であることが確認される。日付の記載がない戯単1枚についても、この旅行中のものと見なして間違いあるまい。ついで、南潯の戯単2枚、すなわち

- 1936年5月6日 南潯・張王廟橋民衆教育館  
(浜文庫／集181／52)(図7)
- 1936年5月7日 南潯・張王廟橋民衆教育館  
(浜文庫／集181／51)(図8)

も、同じ旅行で観劇したものであることが判明する。一方、奉天の戯単1枚、すなわち

- 1935年5月31日 奉天・共益舞台  
(浜文庫／集181／35)

は、この旅行とは別の、前年のものである。また、天津の戯単1枚は、これに先立つ同年2～3月の曲阜徐州開封洛陽西安旅行の途中で観劇したものであることは上に述べたとおりである。

濱一衛は董康(1867-1947)<sup>9</sup>の紹介状を携えて、嘉業堂で本を見るために南潯を訪問した。そして、そのときたまたま南潯で巡業公演していた蘇州・文全福一座の崑曲を観劇する機会に恵まれたのである。濱は次のように記している。

この嘉業堂に何日ご厄介になったかは記憶にはないが、一日や二日でなかったことは確かである。それはちょうどこの町に巡業に来ていた蘇州の「文全福」という一座の「崑曲」(京劇を歌舞伎とすると能に当る)に二日つづけて案内されたからである。座頭は朱伝茗で、演劇史上に不朽の名をのこした「崑曲伝習所」の出身で、一座の俳優にもみな伝の字がついていた。この系統の南方崑曲(日本来演の韓世昌は北方崑曲)を江南の地できけたことは、たいへんな僥倖だと思っている。

中国側の資料にはさらに詳しい事情が記されている。

1936年5月3日 日本京都文化会的日濱一衛持董康介绍函至上海刘宅，欲至南潯书楼参观，刘承幹作书交代施韵秋予以接待。

[日本の京都文化会の濱一衛が、董康の紹介状を持って上海の劉宅を訪れ、南潯で蔵書楼を參觀したいとのこと。劉承幹は手紙を書いて、施韻秋に應對するよう言い渡した。]<sup>10</sup>

濱はまず5月3日に上海で劉承幹に面会し、參觀許可を得たうえで、劉承幹が蔵書楼の編目部主任・施維藩(1897～1944、字・天遊、号・韻秋)宛にしたためた手紙を持って南潯の嘉業堂を訪れたのである。そして、中国の演劇を研究しているとでも自己紹介したのであろうか、濱は5月6日、7日の両日たまたま当地で巡業していた崑曲上演に案内されたのである。ちなみに、かつて中国では客人を招いて芝居を鑑賞することは、接待の常套であった。

現在、濱文庫に所蔵されている『嘉業堂善本書影』(上海：劉氏嘉業堂，1929。浜文庫／史13／1)には、「濱一衛先生惠存／丙子立夏日海門施維藩持贈」との書き込み、および「韻秋」という朱印が見える(図9,10)。旧暦の「丙子立夏日」は、新暦の1936年5月6日にあたる。これにより江蘇省海門出身で嘉業堂の編目部主任(楼主任)を務めていた施維藩(韻秋)より、この訪問時に贈られたものであることがわかる<sup>11</sup>。ほかに、濱文庫に所蔵される絵葉書(濱文庫／追2008／49)のうち、「上海風景繪葉書」「杭州西湖三十二景」「蘇州十六景」「虎邱古蹟風景」はこの旅行中に入手したものであろう。一方、「奉天故宮博物館照片」第1～6輯には「奉天博物館 康德2年5月30日」の押印があることから、前述した1935年5月31日奉天・共益舞台の戯単を入手した前年の旅行で購入したことが確認される。以上が、濱一衛「劉氏の嘉業堂」、および関連資料によって明らかになった南潯訪問および南潯での観劇の経緯である。

これまでに濱一衛は北平留学中、周作人(1885～1967)邸に寄寓していたこと、また1956年中国訪日京劇代表団の福岡公演を機に歐陽予倩(1889～1962)と交流のあったこと等は明らかになっていたが<sup>12</sup>、今回新たに董康、劉承幹という一流の政治家・蔵書家より厚遇を受けていたことがわかった。弱冠27歳の濱が当時69歳の董康および54歳の劉承幹の知遇を得たことは、濱自身の人柄や向学心によることはいまでもなからう。だが、このエピソードをたんなる日中文化交流の佳話として片付けることはいささかナイーブなように思われる。事実、濱訪問の翌1937年7月に盧溝橋事件、8月に第二次上海事変が発生し、濱の文章にあるとおり、11月19日にはついに南潯および嘉業堂も

日本軍の占領下に置かれることになったのである<sup>13</sup>。



図6 南潯周辺地図

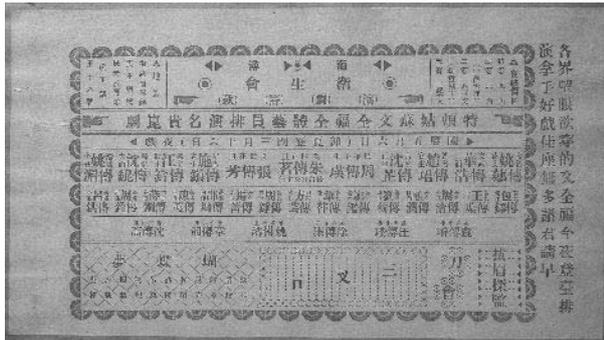


図7 南潯・張王廟橋民衆教育館

1936年5月6日 20.8×37.5cm (浜文庫/集181/52)

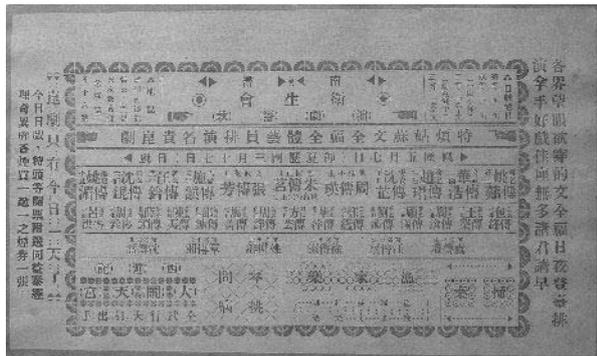


図8 南潯・張王廟橋民衆教育館

1936年5月7日 21.9×37.1cm (浜文庫/集181/51)



図9 (左) 『嘉業堂善本書影』見返しの書き込み  
(浜文庫/史13/1)

図10 (右) 同 封面 (浜文庫/史13/1)

#### 4. 濱文庫所蔵戯単の由来による4分類

以上の考察により、濱文庫所蔵の戯単全体はおおむねその由来が明らかになった。まとめるとほぼ以下の4類に分けることができるだろう。

第1類：1934年5月13日より1936年6月15日までの濱一衛の北平留学期間に、北平で観劇した際の戯単。濱文庫所蔵戯単の中核を占めるコレクションであり、約120枚からなる。ただし、南潯旅行の期間と重なる1936年5月4日の北平・中和戲院の戯単が所蔵されることから推測されるように、請求番号の付されていない未整理分には、濱自身が観劇したとは限らない戯単が含まれているようである。

第2類：1936年2月29日より曲阜・徐州・開封・洛陽・西安を旅行した際に観劇したもの。以下の3枚が含まれる。

1936年2月29日 天津・中原公司遊芸場

1936年3月3日 開封・永安舞台

1936年3月4日 開封・永安舞台

第3類：本稿で明らかになった1936年4月より約1ヶ月にわたって天津・大連・奉天・上海・杭州・蘇州・南潯と旅行した際に観劇したもの。前節で見たように、上海6枚、南潯2枚の戯単が含まれる。

第4類：濱一衛の留学期間に含まれない戯単。1934年5月13日以前のもので2枚、1936年6月15日以降のもので58枚あり、すべて北平のものである。うち51枚は請求番号が付されていない濱文庫未整理の戯単で、しかも大半が華樂戲院の戯単である。筆者は前稿で、1939年7月から8月にかけて濱が北京を再訪した際、誰かに収集を依頼していた戯単を持ち帰ったのではないかと推測した<sup>14</sup>。特定の劇場の戯単に偏っていることから、劇場関係者であったかもしれない。

以上の考察をふまえて作成した「濱文庫所蔵戯単目録(第二版)」を本稿篇尾に掲載する。前稿の「濱文庫所蔵戯単編年目録」では、請求番号が付されて台紙に貼付された「濱文庫(整理済み分)戯単編年目録」と、請求番号が付与されず台紙にも貼付されていない「濱文庫(未整理分)戯単編年目録」とに分けて別々に目録を編纂したために、全体を年月日順に通覧できない憾みが残った。そこでこの第二版ではすべての戯単をまとめて年月日順に配列し、年月日不詳のもののみ末尾に置いた。戯単自体には年月日の記載がないものの、本稿で同じ旅行中のものと推定した上海の戯単1枚は、旅行の行程にあわせて配列した。また第一版の誤りを正したものについては、備考欄にその旨を注記した。

次節には、濱一衛著「劉氏の嘉業堂」の全文を再録する。写真2点も原文に掲載されていたものである。

## 附：濱一衛著「劉氏の嘉業堂」

### 劉氏の嘉業堂

濱一衛

嘉業堂をたずねたのは昭和十一年春のことであった。何しろ三十年の昔話で恐縮ではあるが、ここに収蔵の書物は宋元の善版本であってみれば書物の方も古いということでごしんぼう願いたい。

この時は一月あまりの旅行で、北京を出て天津、大連、瀋陽（奉天）と東北をまわり、大連から船で上海に出て、杭州により蘇州に出た。嘉業堂のある南潯は蘇州の閶門から呉興（湖州）への運河の途中で下りる。ところが出発の前夜になって呉興への入境許可の旨が旅券に記入してないことに気づいたのだが、せっかく北京で董康氏（もと大蔵大臣、司法大臣で出版文化事業に大きい功績を残されたかた）より嘉業堂への丁重なお手紙をいただいていたし、今度の旅行の大きい目的の一つでもあったので、万一途中で検問にひっかかれればその時のことと意を決して、朝も早い七時の船にのった。前日から多量の新聞を買いこんで船中で相客に話しかけられて、警乗の巡警に気づかれることのないようにするつもりであった。この船は運河の割にしては大きく、長さも二十米はあったろうか、六人ぐらい坐れる船室がいくつもならんでいた。出発の時にも途中でも、幸い乗客の一人一人に対する検問はなかった。大きい客船をひき船が曳いてゆくのだが、眼鏡橋の下を通りぬける時など十種の余裕もないようであった。南潯へは三時すぎについた。

南潯の船着場でも見とがめられることなく一キロ余りの道を挑夫（赤帽）もやとわず目立たないようにして、南柵にある蔵書楼に急いだ。刑務所のように高い白壁の塀が延々とつづき、その上には高圧電流を通した電線が張りめぐらされ、正門は頑丈な大きい鉄の開き戸になっていた。ベルを押すと故障かと思うほどながく待たされて、その鉄扉の小さいのぞき窓が開く。紹介状をわたすとまた小まどがしまつて長く待たされる、これにはうんざりした。ここで泊めてくれねばどうしようかというあせりがあった。やっと小門よりいれられ、いくつかの門を通過して本館についた。正門よりは百何十米かはあったろう。表で随分待たされたはずである。

客間で主任の施維藩さんにお目にかかり、早速旅館の紹介を請うたところ、ここは町の方からも遠いし、幸い館員の一人が帰郷しているから寝台が一つ空いている、それをお使いなさいという。有難かった。

旅券のないものが旅館に泊まれるはずもない。館員さんと同室でやすむのであるが、中国の人は人見しりをしないから、永年の知己のように話してくれる、紹介状一本で飛びこんで来た外国人をである。しばし雑談して、さあねましようというとその館員さんは、さつと全裸になりそのまま寝台にもぐり込んだ。使用を許された寝台もそうかと思うと些かの気おくれがしないでもなかったが、もとより文句のいえようはずもない。

翌朝七、八人の館員さんと卓子を囲んで朝食をとり、そのあと、主任は閲覧についての二、三の注意事項を述べられたが、驚いたのは書庫は全部開いてあるから自由にご覧なさいといわれたことである。それは一般の書物のことで、善本室は別であると思いでいたが、善本室の方も開いていた。いつもこのようにして開放するのだそうである。主任は読書人は人の書物も自分の書物と同じように大切にします、といわれる。大きな二階建の善本書庫にはいった。楠木の正面には嘉業堂蔵書楼の文字を浮き彫りにした本箱が、千年の歴史の重さをたたえて整然とおかれ、えもいわれぬ書香が充満していた。

さてこの嘉業堂というのは呉興の人、劉承幹の書室で、書庫の正面には金色燦然たる御筆の大きい横額がかかっている。蔵書は光緒、宣統の間に十数年をかけておもむろに収集したものというが、宋元善本は袁芳暎旧蔵のもの多く、天一閣本や四明盧氏抱經堂本もその基底になっているという。わが静嘉堂の蔵書の中心をなすものは、清末に四大蔵書家に数えられていた陸心源の二詠宋楼の旧蔵であるが、嘉業堂もこのたぐいの蔵書なのである。各地また各代に収集されたものが或いはまとめられたままに、或いは散逸して後の世に伝えられて来ているのである。

この嘉業堂に何日ご厄介になったかは記憶にはないが、一日や二日でなかったことは確かである。それはちょうどこの町に巡業に来ていた蘇州の「文全福」という一座の「崑曲」（京劇を歌舞伎とすると能に当る）に二日つづけて案内されたからである。座頭は朱伝茗で、演劇史上に不朽の名をのこした「崑曲伝習所」の出身で、一座の俳優にもみな伝の字がついていた。この系統の南方崑曲（日本来演の韓世昌は北方崑曲）を江南の地でできたことは、たいへんな僥倖だと思っている。

この芝居を見た日に甘酒をいただいている。夏至の厄払いだというようにきいたのであるが、歳時記をくっても夏至にちまきというのがあるが「醴」というのは見当らぬ。ともかくおいしかった。酒にしる豆腐にしる、日、中に同じものは多いが、味の方は概はちがっている。ところがこの甘酒だけは堅ねりの日本

のもの寸分ちがわぬ美味であった。とはいえこれも三年離れた日本の味に舌の採点が甘かったのかも知れない。

また、ここではその一隅にあった木版の製作所を見学した。嘉業堂では稀見の古書や、今人の名著を多数刊行しているが、その木版をつくっていた。日本のそれと同じ形式で、洗濯のはり板のような長い版木である。

劉氏は蘇州で質屋を経営しているとか、塩で産をなしたとかきいたようであったが、その資産がこういうかたちで還元されているのであろう。先年の戦争ではここにも日本兵が入ったとかきく。無きずであれかしと祈るのみである。

(はま・かずえ：教養部教授，中国語)



書庫正面の金色の横額 [額]<sup>15</sup>



嘉業堂蔵書楼の本箱

## 参考文献

- [1] 濱一衛，“劉氏の嘉業堂，” 図書館情報：九州大学附属図書館月報，vol. 5, no. 7/8, pp. 41-42, 1969. 8. <http://hdl.handle.net/2324/18023> 参照.
- [2] 中丸均卿・濱一衛，北平の中国戯，東京：秋豊園，1936.
- [3] “濱一衛教授略歴および研究業績，” 文学論輯（九州大

学教養部文学研究会）vol. 20, pp. i-iv, 1973.

- [4] “濱一衛教授研究業績，” 中国文学論集（九州大学中国文学会），vol. 4, pp. 4-5, 1974.
- [5] 目加田誠，“浜さんのこと，” 中国文学論集，vol. 4, pp. 6-7, 1974.
- [6] 上尾龍介，“那須さんの北京語：中国語の達人たち” 中国文学論集，vol. 11, pp. 7-20, 1982.
- [7] 中里見敬，“濱文庫所蔵戯単編年目録”，中国文学論集（九州大学中国文学会）vol. 37, pp. 155-168, 2008.
- [8] 中里見敬・中尾友香梨，濱一衛と京劇展：濱文庫の中国演劇コレクション，福岡：九州大学附属図書館，2009.
- [9] 濱一衛著，中里見敬整理，“曲阜徐州開封洛陽西安旅行記”，言語文化論究（九州大学大学院言語文化研究院）vol. 25, pp. 178-200, 2010.
- [10] 中里見敬，“濱文庫所蔵の歐陽予倩致濱一衛書簡について，” 中国文学論集，vol. 39, pp. 150-164, 2010.
- [11] 濱一衛著，中里見敬整理，中国の戯劇・京劇選：濱一衛著訳集，福岡：花書院（九州大学大学院言語文化研究院 FLC 叢書 3），2011.
- [12] 中里見敬，中尾友香梨，山根泰志，“濱文庫の概要と現状：1930年代を中心とする中国演劇資料の宝庫，” 九州大学附属図書館研究開発室年報，2011/2012, pp. 14-23, 2012.
- [13] 松浦恒雄，濱文庫所蔵戯単劇目俳優データベース，大阪市立大学大学院文学研究科重点研究・個別研究プロジェクト「二〇世紀中国演劇史における戯単・特刊の基礎的研究」，2008.
- [14] 松浦恒雄，“京劇戯単の変遷，” 新中国建国前後における伝統劇の多角的研究（平成 18-19 年度科学研究費補助金・基盤研究(C) 研究成果報告書（課題番号 18520273），2008.
- [15] 杜広沛収蔵，婁悦撰文，旧京老戯単：從宣統到民国，北京：中国文聯出版社，2004.
- [16] 中塚亮，“青木文庫蔵戯単目録，” 名古屋大学中国語学文学論集（名古屋大学中国語学文学会）vol. 20, pp. 1-20, 2008.
- [17] 中塚亮，“韓世昌による崑曲来日公演とその背景について：満鉄の弘報活動との関係から，” 名古屋大学附属図書館研究年報（名古屋大学附属図書館研究開発室）vol. 6, pp. 21-37, 2007.
- [18] 繆荃孫・呉昌綬・董康撰，呉格整理点校，嘉業堂蔵書志，上海：復旦大学出版社，1997.
- [19] 応長興・李性忠主編，嘉業堂志，北京：国家図書館出版社，2008.
- [20] 顧志興，浙江蔵書史，杭州：杭州出版社，2006.
- [21] 李性忠，“周子美与施韻秋：記南潯嘉業蔵書楼的両任主任，” 図書館研究と工作（杭州：浙江省文化庁）2007(1), pp. 73-75, 2007.
- [22] 柴田清継，“松崎鶴雄(1867-1949)と中国：あるテレビ番組をめぐって，” 日本と中国の基本的人間文化：その普遍と個別，西宮：武庫川女子大学関西文化研究センター，pp. 51-78, 2008.
- [23] 熊達雲，近代中国官民の日本視察，東京：成文堂，1998.
- [24] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（一），” 就實語文（就実女子大学日本文学会），vol. 12, 1991.
- [25] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（二），” 就實語文，vol. 13, 1992.
- [26] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（三），” 就實語文，vol. 14, 1993.
- [27] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（四），” 就實語文，vol. 15, 1994.
- [28] 芳村弘道，“董康『書舶庸譚』訳注（五），” 就實語文，vol. 16, 1995.

- [29] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』訳注 (六),” 就實語文, vol. 17, 1996.
- [30] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』訳注 (七),” 就實語文, vol. 19, 1998.
- [31] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』訳注補訂,” 就實語文, vol. 20, pp. 213-258, 1999.
- [32] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (一),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 1, pp. 83-96, 2007.
- [33] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (二),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 2, pp. 67-79, 2008.
- [34] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (三),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 3, pp. 65-87, 2009.
- [35] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (四),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 5, pp. 25-40, 2011.
- [36] 芳村弘道, “董康『書舶庸譚』九卷本譯注 (五),” 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, vol. 6, pp. 53-64, 2012.

## 謝辞

濱一衛著「劉氏の嘉業堂」を再録するにあたり、濱先生のご令嬢・藤本康子氏よりご許可いただいた。大阪市立大学教授・松浦恒雄先生より濱文庫所蔵資料について種々のご教示を賜り、今回も戲単整理の問題について再考する機会を与えられた。濱一衛著「劉氏の嘉業堂」のリポジトリ登録の時期について、九州大学附属図書館 e リソースサービス室リポジトリ係の小柳真弓氏よりご教示いただいた。図版の掲載にあたり、九州大学附属図書館よりご厚意を賜った。

以上、謹んで謝意を表したい。

<sup>1</sup> ほかに国内所蔵の中国戲単として、名古屋大学附属図書館青木(正児)文庫に所蔵される1925~28年の戲単29枚が知られている。中塚亮「青木文庫蔵戲単目録」参照。

<sup>2</sup> 「濱文庫所蔵戲単編年目録」において紙幅の都合で掲載できなかった戲単の図版は、九州大学学術情報リポジトリに「戲単図録：完全版」として掲載した (<http://hdl.handle.net/2324/13200>)。そこでは都市・劇場別の戲単枚数を表に整理して掲げた。

<sup>3</sup> 2009年2月13日付け大阪市立大学教授・松浦恒雄先生の私信により、開明大戲院は蘇州の劇場ではないかのご指摘をいただき、あわせて杜広沛収蔵、婁悦撰文『旧京老戲単：從宣統到民国』をご教示いただいた。しかし当時、北平にも同名の劇場があり、しかも戲単に記載された「前外西珠市口」という地名と一致することから、北平の開明大戲院だと判断される。「老北京網」の記事「開明大戲院」を参照(2013年5月15日確認, <http://cn.obj.cc/article-5300-1.html>)。『旧京老戲単』の第57, 66, 90, 113, 116番に北平・開明大戲院の戲単が掲載されているが、濱文庫所蔵の2枚二つ折り、8頁からなる小冊子形態の戲単とは様式が異なる。同書は第85番に蘇州・開明大戲院、第128番には上海・開明大戲院の戲単も収録している。

<sup>4</sup> 濱文庫に所蔵される未刊の自筆旅行記(濱文庫/日文戯曲/21)を整理・発表した濱一衛著、中里見敬整理「曲阜徐州開封洛陽西安旅行記」を参照。この旅行記には引用箇所の前後に、詳細な観劇記録があり、当時の上演を知るうえで貴重なものである。

<sup>5</sup> 一つは『文学論輯』第20号(九州大学教養部文学研究会, 1973)所収の「濱一衛教授略歴および研究業績」、もう一つは『中国文学論集』第4号(九州大学中国学会, 1974)所収の「濱一衛教授研究業績」である。濱は1969年4月より1973年3月の定年退官まで、附属図書館教養部分館長の職にあった。そのため図書館広報誌の巻

頭エッセイ執筆のお鉢が回ってきたものと考えられる。

<sup>6</sup> 劉承幹の祖父・劉墉(1825~1889)は生糸の卸売業で財を成し、父・劉錦藻(1862~1934)は1894年進士に及第した。劉承幹は清末から各地の蔵書家の蔵書を巨資で買い、近代中国有数の蔵書家となった。嘉業堂は1920年より4年がかりで建造された。解放後、蔵書は浙江図書館に寄贈され、嘉業堂蔵書楼は2001年に国務院より第5批全国重点文物保护单位の指定を受けている。

<sup>7</sup> 呉格「前言」(『嘉業堂蔵書志』所収)による。

<sup>8</sup> 請求番号の付与されていない未整理の戲単については、「濱文庫所蔵戲単編年目録」で付した201番以降の番号を記す。

<sup>9</sup> 董康は1890年の進士。1905年に刑部候補郎中として日本の裁判・監獄制度を視察した。1907年修訂法律館提調となり、法律草案の起草にあたった。1911年、日本に留学して法律を修めた後、1914年帰国。まもなく大理院院長、その後、司法総長、財政総長等を歴任し、刑法・民法・訴訟法・監獄法等の起草・修訂に関わり、法律家・政治家として活躍した。濱が北平に留学した時期には北京大学法科教授の職にあり、前後して数回、中国法制史を講じるために日本を訪れている。その間の日本での訪書記録を綴った日記が『書舶庸譚』である。董康は著名な蔵書家でもあり、『誦芬室読曲叢刊』などを刊行している。また戯曲の故事来歴・作者等を考証した『曲海総目提要』をはじめ、戯曲史・詞学・版本目録学でも多大の功績を残した。日本傀儡政権で要職に就いたため、戦後、漢奸として獄死した。なお、董康は繆荃孫、呉昌綬の後を継いで蔵書目録『嘉業堂蔵書志』の編纂にもあたっており、劉承幹とは深い交流があった。

<sup>10</sup> 徐曉軍「嘉業堂大事記」(応長興・李性忠主編『嘉業堂志』p. 16)。徐曉軍は出典を明記していないが、劉承幹の日記『求恕齋日記』(稿本)によっている可能性がある。『求恕齋日記』は北京の国家図書館出版社より2013年8月以降に出版予定とのことである。

<sup>11</sup> 施維藩の生没年は、李芳「第六章 人物」(応長興・李性忠主編『嘉業堂志』p. 252)による。李性忠「周子美与施韻秋：記南潯嘉業蔵書楼の両任主任」も参照。施維藩が年長者に対する「敬贈」ではなく、「持贈」という語を濱に対して使っていることから、施が濱より年長であることがわかる。施維藩は嘉業堂創建以来の職員で、蔵書の管理や副本の抄写にあたり、後期には戦争から蔵書を守り、さらに蔵書の売却にも立ち会った。

<sup>12</sup> 目加田誠「浜さんのこと」、上尾龍介「那須さんの北京語：中国語の達人たち」、中里見敬・中尾友香梨『濱一衛と京劇展』、中里見敬「濱文庫所蔵の欧陽予倩致濱一衛書簡について」等参照。

<sup>13</sup> 劉承幹と交流のあった元満鉄大連図書館司書・松崎鶴雄が、第9師団司令部附の牧次郎・陸軍少将に対して行った進言により、日本軍は嘉業堂の蔵書を保護したとされる。応長興「第一章 綜述」(応長興・李性忠主編『嘉業堂志』pp. 77-84)、および柴田清継「松崎鶴雄(1867-1949)と中国」参照。

<sup>14</sup> 中里見敬「濱文庫所蔵戲単編年目録」p. 166。

<sup>15</sup> 「飲んで嘉業に若ふ」と揮毫され、九龍で縁取られた金字の扁額は、清朝の末代皇帝・溥儀より賜ったもの。この2枚の写真は、カメラを愛用した濱自身が当時撮影したものかもしれない。

本稿は日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C)「濱文庫所蔵唱本目録の作成」(2011~2015年度、課題番号：23520437)による成果の一部である。



図11 蘇州横塘子橋  
『蘇州十六景』(濱文庫/追2008/49)より

演文庫所蔵戯単目録(第二版)

第三版目録番号	演文庫目録番号	請求番号	西暦年	民国年	陽曆	陰曆	星期	昼夜の別	城市	劇場	戯班・科班	備考
1	1	演文庫/集181/50	1931	20	8月25日			白	北平	第一舞台		
2	2	演文庫/集181/50	1934	(23)	4月6日			白	北平	広徳劇院		
3	3	演文庫/集181/102	1934	(23)	6月30日			夜	北平	吉祥大戲院		
4	4	演文庫/集181/62	1934	(23)	8月17日			夜	北平	吉祥大戲院		
5	5	演文庫/集181/62	1934	(23)	8月18日			夜	北平	吉祥大戲院		吉祥大戲院劇報 第148期第2種
6	6	演文庫/集181/8	1934	(23)	9月1日			夜	北平	開明大戲院		開明大戲院劇刊 第89期
7	7	演文庫/集181/103	1934	(23)	9月1日			夜	北平	吉祥大戲院		
8	8	演文庫/集181/66	1934	(23)	9月8日			夜	北平	吉祥大戲院		
9	9	演文庫/集181/69	1934	(23)	9月8日			夜	北平	開明大戲院		
10	10	演文庫/集181/134	1934	(23)	9月30日			白	北平	華泰園		
11	11	演文庫/集181/58	1934	(23)	10月4日			白	北平	吉祥大戲院		
12	12	演文庫/集181/58	1934	(23)	10月5日			夜	北平	第一舞台		
13	13	演文庫/集181/37	1934	(23)	10月5日			白	北平	吉祥大戲院		
14	14	演文庫/集181/37	1934	(23)	10月6日			夜	北平	第一舞台		
15	15	演文庫/集181/61	1934	(23)	10月7日			白	北平	吉祥大戲院		
16	16	演文庫/集181/66	1934	(23)	10月7日			夜	北平	吉祥大戲院		
17	17	演文庫/集181/63	1934	(23)	10月15日			白	北平	中和大戲院		
18	18	演文庫/集181/63	1934	(23)	10月19日			白	北平	吉祥大戲院		
19	19	演文庫/集181/59	1934	(23)	10月20日			白	北平	吉祥大戲院		
20	20	演文庫/集181/4	1934	(23)	10月30日			夜	北平	廣和樓		吉祥大戲院劇報 第209期第2種 ※第一版で1936年10月20日とした誤りを修正
21	21	演文庫/集181/76	1934	(23)	11月2日			夜	北平	廣和樓		
22	22	演文庫/集181/112	1934	(23)	11月5日			白	北平	廣和樓		
23	23	演文庫/集181/7	1934	(23)	11月10日			日	北平	廣和樓		
24	24	演文庫/集181/70	1934	(23)	11月10日			日	北平	廣和樓		
25	25	演文庫/集181/78	1934	(23)	11月15日			白	北平	三慶大戲院		
26	26	演文庫/集181/78	1934	(23)	11月18日			白	北平	三慶大戲院		
27	27	演文庫/集181/101	1934	(23)	11月23日			白	北平	吉祥大戲院		
28	28	演文庫/集181/77	1934	(23)	11月23日			夜	北平	吉祥大戲院		
29	29	演文庫/集181/120	1934	(23)	12月19日			夜	北平	廣和樓		
30	30	演文庫/集181/120	1934	(23)	12月19日			夜	北平	廣和樓		
31	31	演文庫/集181/72	1934	(23)	12月23日			日	北平	廣和樓		
32	32	演文庫/集181/94	1935	(24)	1月4日			日	北平	廣和樓		
33	33	演文庫/集181/85	1935	(24)	1月8日			夜	北平	廣和樓		
34	34	演文庫/集181/84	1935	(24)	1月8日			夜	北平	廣和樓		
35	35	演文庫/集181/93	1935	(24)	1月13日			夜	北平	廣和樓		
36	36	演文庫/集181/93	1935	(24)	1月13日			夜	北平	廣和樓		
37	37	演文庫/集181/39	1935	(24)	1月26日			白	北平	中和大戲院		
38	38	演文庫/集181/123	1935	(24)	1月26日			白	北平	廣和樓		
39	39	演文庫/集181/122	1935	(24)	3月2日			白	北平	華泰大戲院		
40	40	演文庫/集181/133	1935	(24)	3月2日			白	北平	華泰大戲院		
41	41	演文庫/集181/133	1935	(24)	3月8日			夜	北平	華泰大戲院		
42	42	演文庫/集181/121	1935	(24)	3月10日			夜	北平	華泰大戲院		
43	43	演文庫/集181/10	1935	(24)	3月16日			白	北平	華泰大戲院		
44	44	演文庫/集181/87	1935	(24)	3月16日			白	北平	華泰大戲院		
45	45	演文庫/集181/87	1935	(24)	3月24日			白	北平	中和大戲院		
46	46	演文庫/集181/124	1935	(24)	3月24日			白	北平	華泰大戲院		
47	47	演文庫/集181/124	1935	(24)	3月31日			白	北平	華泰大戲院		
48	48	演文庫/集181/125	1935	(24)	4月7日			夜	北平	華泰大戲院		
49	49	演文庫/集181/92	1935	(24)	4月13日			夜	北平	廣和樓		
50	50	演文庫/集181/83	1935	(24)	4月21日			白	北平	廣和樓		
51	51	演文庫/集181/75	1935	(24)	4月21日			白	北平	廣和樓		
52	52	演文庫/集181/75	1935	(24)	4月29日			白	北平	廣和樓		
53	53	演文庫/集181/99	1935	(24)	4月29日			白	北平	廣和樓		
54	54	演文庫/集181/116	1935	(24)	4月29日			白	北平	廣和樓		
55	55	演文庫/集181/54	1935	(24)	5月12日			白	北平	吉祥大戲院		
56	56	演文庫/集181/54	1935	(24)	5月12日			夜	北平	吉祥大戲院		
57	57	演文庫/集181/35	1935	(24)	5月21日			白	北平	華泰大戲院		
58	58	演文庫/集181/35	1935	(24)	5月21日			夜	北平	華泰大戲院		
59	59	演文庫/集181/88	1935	(24)	5月21日			白	北平	華泰大戲院		
60	60	演文庫/集181/74	1935	(24)	5月21日			白	北平	華泰大戲院		
61	61	演文庫/集181/74	1935	(24)	5月21日			白	北平	華泰大戲院		
62	62	演文庫/集181/56	1935	(24)	6月11日			白	北平	廣和樓		
63	63	演文庫/集181/56	1935	(24)	6月11日			白	北平	廣和樓		
64	64	演文庫/集181/95	1935	(24)	7月2日			白	北平	廣和樓		
65	65	演文庫/集181/95	1935	(24)	7月10日			白	北平	廣和樓		
66	66	演文庫/集181/126	1935	(24)	7月11日			白	北平	廣和樓		
67	67	演文庫/集181/96	1935	(24)	7月13日			白	北平	廣和樓		
68	68	演文庫/集181/96	1935	(24)	7月13日			白	北平	廣和樓		
69	69	演文庫/集181/57	1935	(24)	7月15日			白	北平	廣和樓		
70	70	演文庫/集181/46	1935	(24)	7月21日			白	北平	廣和樓		
71	71	演文庫/集181/46	1935	(24)	7月21日			白	北平	廣和樓		
72	72	演文庫/集181/117	1935	(24)	7月30日			白	北平	華泰大戲院		
73	73	演文庫/集181/5	1935	(24)	8月3日			白	北平	華泰大戲院		
74	74	演文庫/集181/89	1935	(24)	8月5日			白	北平	華泰大戲院		
75	75	演文庫/集181/81	1935	(24)	8月7日			夜	北平	廣和樓		
76	76	演文庫/集181/81	1935	(24)	8月11日			夜	北平	廣和樓		
77	77	演文庫/集181/82	1935	(24)	8月12日			夜	北平	廣和樓		
78	78	演文庫/集181/98	1935	(24)	8月19日			白	北平	廣和樓		
79	79	演文庫/集181/73	1935	(24)	8月19日			白	北平	廣和樓		
80	80	演文庫/集181/73	1935	(24)	8月23日			夜	北平	廣和樓		
81	81	演文庫/集181/32	1935	(24)	8月23日			夜	北平	廣和樓		
82	82	演文庫/集181/32	1935	(24)	8月24日			夜	北平	廣和樓		
83	83	演文庫/集181/60	1935	(24)	8月25日			夜	北平	廣和樓		
84	84	演文庫/集181/60	1935	(24)	8月28日			夜	北平	廣和樓		
85	85	演文庫/集181/40	1935	(24)	8月28日			夜	北平	廣和樓		
86	86	演文庫/集181/40	1935	(24)	8月29日			夜	北平	廣和樓		

※第一版での配列ミスを修正 ※第一版での配列ミスを修正 ※第一版での配列ミスを修正



148	235	1938	27	6月11日	六	白天	北平	華樂劇院	富運成
149	236	1938	27	6月13日	一	白天	北平	華樂劇院	富運成
150	237	1938	27	6月20日	一	白天	北平	華樂劇院	富運成
151	238	1938	27	6月23日	四	白天	北平	華樂劇院	富運成
152	239	1938	27	6月25日	六	白天	北平	華樂劇院	富運成
153	240	1938	27	6月25日	六	白天	北平	華樂劇院	富運成
154	241	1938	27	6月26日	日	白天	北平	華樂劇院	富運成
155	242	1938	27	6月30日	四	白天	北平	華樂劇院	富運成
156	243	1938	27	7月2日	一	白天	北平	華樂劇院	富運成
157	244	1938	27	7月4日	三	白天	北平	華樂劇院	富運成
158	245	1938	27	7月12日	二	白天	北平	華樂劇院	富運成
159	246	1938	27	7月15日	五	白天	北平	華樂劇院	富運成
160	247	1938	27	7月23日	六	白天	北平	華樂劇院	富運成
161	248	1938	27	7月26日	一	白天	北平	華樂劇院	富運成
162	249	1938	27	8月2日	二	白天	北平	華樂劇院	富運成
163	250	1938	27	8月7日	日	白天	北平	華樂劇院	富運成
164	251	1938	(27)	8月9日	二	夜戯	北平	吉祥劇院	富運成
165	252	1938	(27)	8月9日	二	夜戯	北平	廣和劇院	富運成
166	253	1938	27	8月13日	六	白天	北平	華樂劇院	富運成
167	254	1938	27	8月16日	二	白天	北平	華樂劇院	富運成
168	255	1938	27	8月21日	日	白天	北平	華樂劇院	富運成
169	256	1938	(27)	9月1日	四	白天	北平	廣和劇院	富運成
170	257	1938	27	10月2日	日	白天	北平	華樂劇院	富運成
171	258	1938	27	10月9日	日	白天	北平	華樂劇院	富運成
172	259	1939	28	1月21日	六	白天	北平	華樂大戲院	富運成
173	260	1939	28	2月6日	一	夜戯	北平	華樂大戲院	富運成
174	261	1939	28	2月21日	二	白天	北平	新新大戲院	富運成
175	262	1939	28	2月22日	三	夜戯	北平	新新大戲院	富運成
176	263	1939	28	2月27日	一	白天	北平	華樂大戲院	富運成
177	264	1939	28	3月18日	六	白天	北平	華樂劇院	富運成
178	265	1939	28	3月26日	日	白天	北平	中和劇院	富運成
179	266	1939	28	5月4日	四	夜場	北平	中和劇院	富運成
180	113	不明	不明	今晚		夜場	北平	中和劇院	富運成
181	114	不明	不明	不明	五	准8時上場	北平	開明大戲院	富運成
182	117	不明	不明	不明			北平	開明大戲院	富運成
183	268	不明	不明	不明			北平	開明大戲院	富運成

以下、説明書3点

184	115	不明	不明	不明	日	夜場	(説明書)	梅蘭芳秘本、徐鏡人、陸素明、法文庫/集181/68と同じ、『北平的中国戯』39頁に掲載
185	116	不明	不明	不明	日	夜場	(説明書)	梅蘭芳秘本、徐鏡人、陸素明、法文庫/集181/49と同じ、『北平的中国戯』39頁に掲載
186	118	不明	不明	不明			(説明書)	梅蘭芳秘本、徐鏡人、陸素明、法文庫/集181/49と同じ、『北平的中国戯』39頁に掲載

凡例

1. 戯単目録番号とは、「演文庫所蔵戯単編年目録」(『中国文学論集』37,2008)で付した番号である。整理済み分には201~268の番号を付した。未整理分には118の番号を、未整理分には201~268の番号を付した。
2. ( )で括弧したものは、戯単そのものには記載がなく、編者が推定したことを示す。
3. 網かけしたものは、演一衛が2度の旅行で観劇した際に入手した戯単を示す。
4. 日本占領期は北京と称したが、ここではすべて北平に統一した。

小冊子、八面、※第一版で城市を不明としたのを修正

梅蘭芳、馬連良  
手笛、劇目附説明  
話劇、北平五仲伝習所戯劇系第三次公演

# 卓上型 RFID リーダの基本特性の評価

藤崎 清孝<sup>†</sup> 新美 孟<sup>‡</sup>

## <抄録>

RFID システムは、図書の自動貸出・自動返却等の図書館業務の効率化を図る上で核となる技術である。本報告では、卓上型の RFID リーダの基本性能を調査すべく、標準的な構造をもつ卓上リーダの性能を評価した。また、卓上リーダを設置する台が金属の場合に、これが卓上リーダのタグの読み取り性能に与える影響を評価した。

<キーワード> RFID, 非接触 IC タグ, 自動貸出・自動返却, 図書館システム

## Evaluation of the basic characteristic of a table type RFID reader

FUJISAKI Kiyotaka NIIMI Takeru

### 1. はじめに

テレビ、ラジオに始まった無線技術の急速な進歩は、我々の生活を劇的に変えた。携帯電話、無線 LAN など通信技術の無線化は、様々な場所で活動する我々が、距離や場所に関係なく遙か遠方にいる友人といつでもコミュニケーションすることを可能とし、世界中に散らばっている情報に容易にアクセスすることを実現した。最近では遠距離における利用だけでなく、近接した状況においても、様々な人や物から非接触で即座に情報を読みだそうとする、近距離無線通信技術に注目が集まっている。

この技術の代表的なものの 1 つに RFID (Radio Frequency Identification) 技術[1]がある。この技術は、電磁気作用を利用することで、非接触で RFID タグ内の情報を読み出したり、タグに情報を記憶したりすることを可能とし、タグを貼付したものの管理・運用を効果的に行うことを実現する。この技術を図書館業務の電子化、自動化に適用することで、業務の効率化を図ることが可能となる。具体的には、RFID タグを蔵書に貼り付けることにより、非接触で蔵書の情報を読み書きでき、この RFID タグ 1 つで、タトルテープによる盗難防止機能とバーコードによる蔵書情報の管理といった 2 つの機能を実現することも可能となる。この結果、(1) 図書貸出/返却窓口の作業の効率化、(2) 図書検索時間の短縮、(3) 無人ゲートによる入退館管理、(4) 蔵書管理の効率化などが期待できる。さらには、センサネットワークやスマートフォンなどの技術と組み合わせることで、館内での図書の利用状況を調査したり、利用者にとってより利便性の高い図書館サービスを提供したりすることも期待できる。

九州大学附属図書館では、平成 12 年度にはこの RFID の技術に着目し、RFID システムを用いた図書館運用に関する研究・調査を開始し、取り組んできた。また平成 14 年度には、システムの実用性を大学図書館の実運用の中で評価し、より最適な図書館システムへと改良すべく、株式会社チェックポイントジャパンおよび三菱マテリアル株式会社との共同研究として、筑紫分館に 13.56MHz 帯の RFID システムを実験的に導入した[2]。これまでの実験運用により、タグを貼付する図書がタグに与える影響によって読み取り性能にばらつきを生じさせ、特に薄い図書が複数重なっている場合に読み取り性能が大きく低下しやすいなどの問題を明らかにしてきた。また、13.56MHz 帯 RFID タグシステムを用いて、RFID タグが図書や近接するタグによってどのように影響をうけるかを実験により調査し、周りの環境がタグの交信性能に大きく影響することを明らかにし、図書館用 RFID システムの設計においては、この変動の大きさを考慮しておく必要があることを示した[3]。さらに、RFID を用いたシステムを構成する機器の基本性能を評価すると共に高性能化を目指した研究も進めている。

図書に貼付するタグは、サイズや厚さ、コストなど運用上の制約が大きく、タグの改良により性能向上を図ることは容易ではない。一方、RFID リーダについては、サイズや構造の変更は比較的容易であり、自由度も大きい。そこで RFID リーダを改良することにより RFID システムの読み取り性能の向上を図ることを検討する。本報告では、その初段階として、既存の卓上型の RFID リーダ (以下卓上リーダ) を用いて、卓上リーダから放射される電磁界の広がりとその強度を調査 [4]し、タグの読み取り性能を評価する。また、

<sup>†</sup> ふじさき きよたか 九州大学大学院システム情報科学研究所 (〒819-0395 福岡市西区元岡 744 番地) E-mail: fujisaki@ait.kyushu-u.ac.jp

<sup>‡</sup> にいみ たける 九州大学大学院システム情報科学府修士課程 2013 年 3 月修了

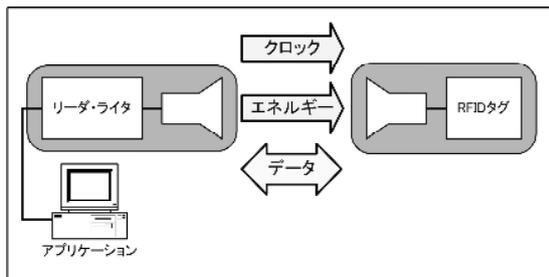


図1 RFIDシステムの基本概念

周りの環境が卓上リーダの性能に与える影響を評価すべく、ここでは卓上リーダを設置する台が金属板である場合の性能を評価する。そうして、卓上リーダから放射される電磁界は卓上リーダ中心部の読み取り性能を最大限にすべく、設計されていること、金属板上に近接して卓上リーダを設置した場合、その性能が大幅に低下するが、金属板と卓上リーダの間に若干の空間を設けることで、性能はほぼ改善されることを示す。

## 2. RFID とは

RFID とは、自動認識技術の1つで、無線技術により非接触でデータを送受できる半導体チップをつかった個体識別技術である。自動認識技術とは、「人間を介さず、ハード、ソフトを含む機器により自動的にバーコード、磁気カード、RFIDなどのデータを取込み、内容を認識する（社団法人 日本自動認識システム協会）[5]」技術であり、この技術には、RFID以外にもバーコード、バイオメトリクス、磁気ストライプ、OCR、マシンビジョンなどがある。

RFID システムは、図1に示すように情報を読み書きするためのリーダー・ライターとこれを記録するタグにより構成される。通常、タグは電源を持っておらず、データの交換だけでなく、タグを駆動するための電力およびクロックの供給もリーダー・ライターから磁界または電磁波を用いて非接触で実現される。

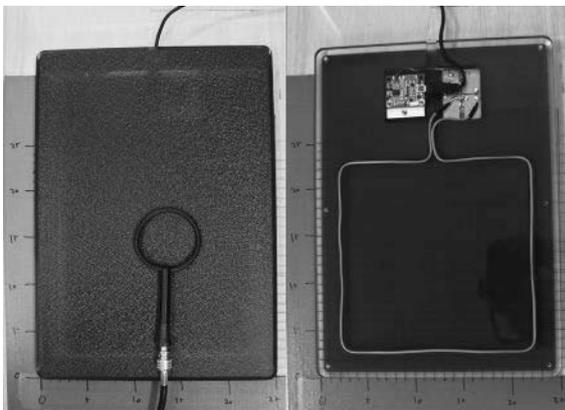


図2 卓上型リーダ

## 3. 実験方法

今回、市販の13.56MHz帯を使用した卓上リーダとして図2に示すSOFEL社製ST-RW01(筐体サイズ25cm×35cm)を用いて、卓上リーダ上の電磁界分布及びタグの読み取り性能を評価した。磁界測定用のアンテナにはELECTRO-METRICS社製EM-6993の直径が6cmのループアンテナを用い、スペクトルアナライザにはHEWLETT PACKARD社製HP8560Eを用いた。図2に示すとおり、卓上リーダ内には大凡20cm×20cmの矩形方のループが形成されていることが分かる。このループがアンテナであり、近傍におかれたタグと通信を行う役目を持つ。本実験では、このアンテナ部より放射される電磁界を観測し、電磁界の分布やその電力の大きさ等、タグとの通信性能に影響する点を調査する。

## 4. 測定法

測定は、以下の基準を定め、行った。図3(a)に示すように、卓上リーダの左下隅を原点0、横方向をx軸、縦方向をy軸とし、図3(a)に示す測定用アンテナ下端

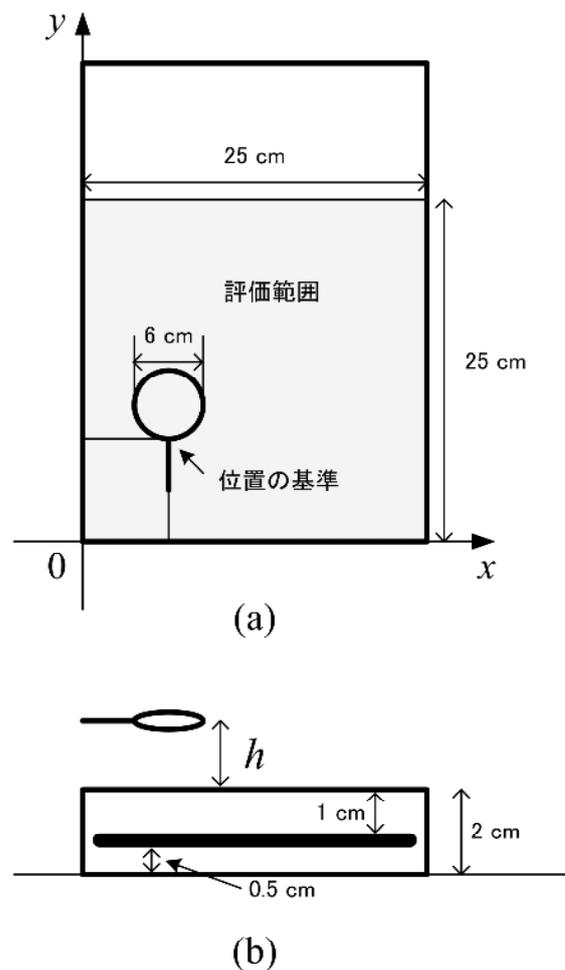


図3 測定状況

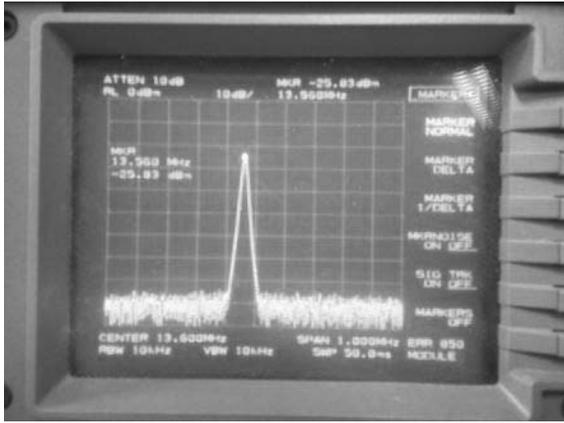


図4 スペアナの画面

を測定時の評価位置の基準とし、1cm刻みで各点の電力を測定した。卓上リーダと測定用アンテナの距離については、図3(b)に示すとおり、卓上リーダの筐体上面から測定用アンテナまでの高さ $h$ を卓上リーダとアンテナ間の距離として定めた。なお、卓上リーダの筐体の厚さは2cmであり、その内部は底面から0.5cmの高さの位置に卓上リーダ用アンテナがあり、そのアンテナから筐体の上面までには約1cmの空間をもつ。

図4は、卓上リーダから放射される電磁界の電力を、スペクトラムアナライザを用いて測定したときの状況を示している。画面の横方向が周波数を、縦方向が測定用アンテナでとらえられた電力を示している。この写真より、丁度13.56MHzの周波数のところを中心に強く電磁界が放射されている状況が分かる。本評価では、この13.56MHzの周波数の電磁界の強さを各評価点において測定している。

## 5. 卓上リーダ上の電力分布と読み取り可能範囲の評価

### 5.1. 卓上リーダ上の電力分布の評価

前節で説明した方法を用いて、卓上リーダ上の電磁界の電力を測定した。まず測定用アンテナの高さを変更し、各高さにおける電磁界の電力の分布を測定した結果を図5~7に示す。縦軸は1mWの電力を基準として何倍の大きさであるかをdB(デシベル)(基準の $a$ 倍になるとき、dB値は $10 \log a$ で得られる)を単位として表現したもので、dBmと表記される。これらの結果より、卓上リーダと測定用アンテナの距離が最も近い図5においては、卓上リーダのアンテナ線より少し内側で電磁界が最も強くなっているが、図6,7に示す様に卓上リーダのアンテナから測定アンテナが離れるにつれて、中心部の電磁界が周辺よりも大きくなっていることが分かる。勿論、観測される電力は、卓上リーダから距離が離れるに従って、低下している。なお、

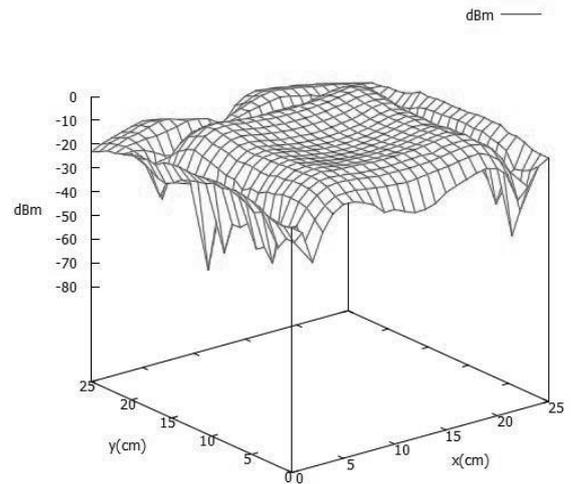


図5 卓上リーダ上の放射電力の分布

—  $h = 0 \text{ cm}$  —

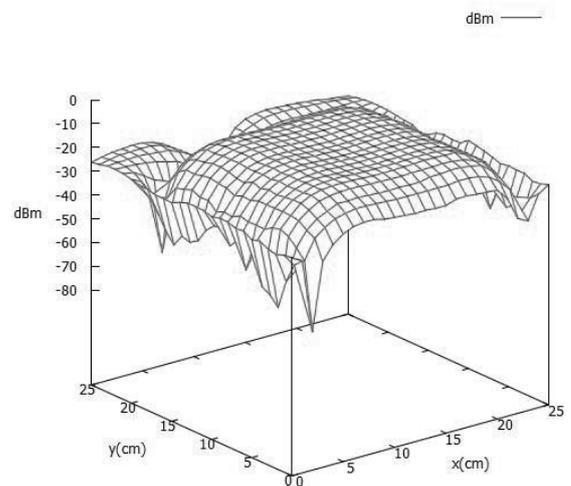


図6 卓上リーダ上の放射電力の分布

—  $h = 2 \text{ cm}$  —

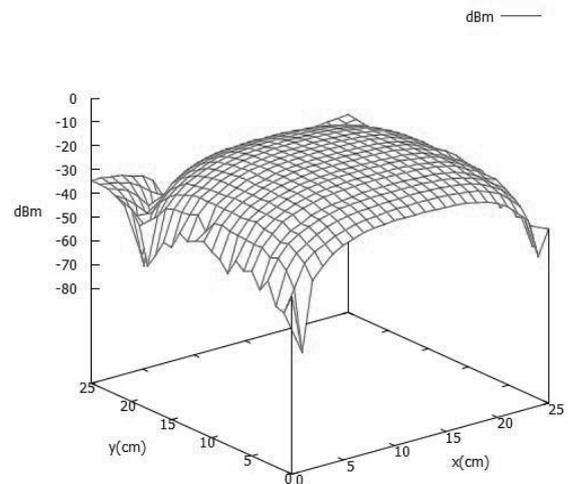


図7 卓上リーダ上の放射電力の分布

—  $h = 6 \text{ cm}$  —

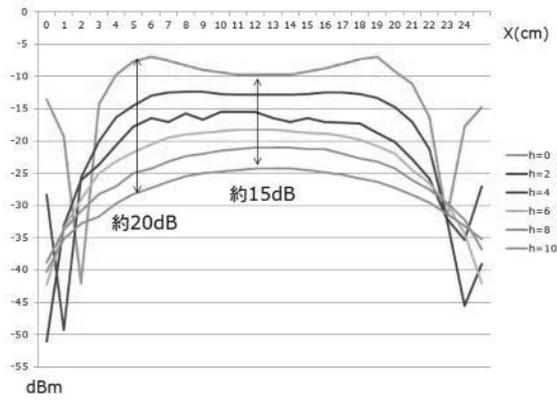


図8  $y = 5 \text{ cm}$  の点で見た放射電力の分布

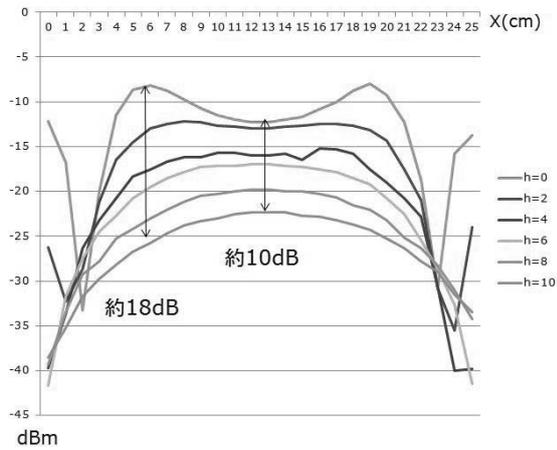


図9  $y = 10 \text{ cm}$  の点で見た放射電力の分布

卓上リーダー上のアンテナ線のある部分で信号が大きく減衰しているのは、測定用アンテナを通過する電磁界の向きがアンテナ線を中心として対称となり、互いに打ち消し合うためである。

この電磁界の強さの変化を確認するため、 $y = 5, 10 \text{ cm}$  の各点で  $x$  軸方向の電磁界の分布を観測した結果を図8,9に示す。これらの結果より、卓上リーダーか

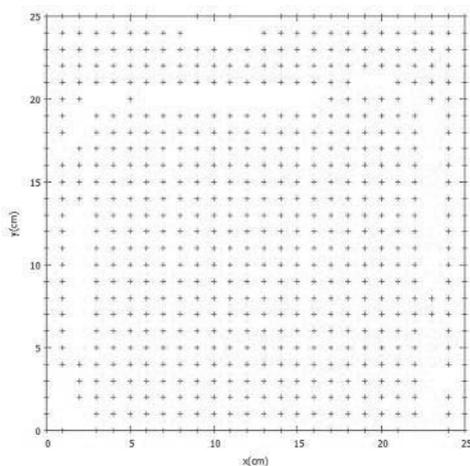


図10 卓上リーダー上の読み取り可能地点の分布  
—  $h = 0 \text{ cm}$  —

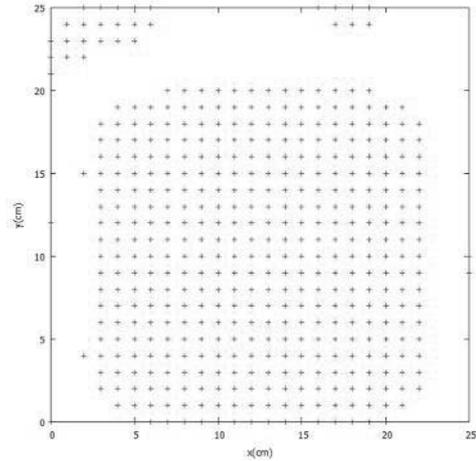


図11 卓上リーダー上の読み取り可能地点の分布  
—  $h = 2 \text{ cm}$  —

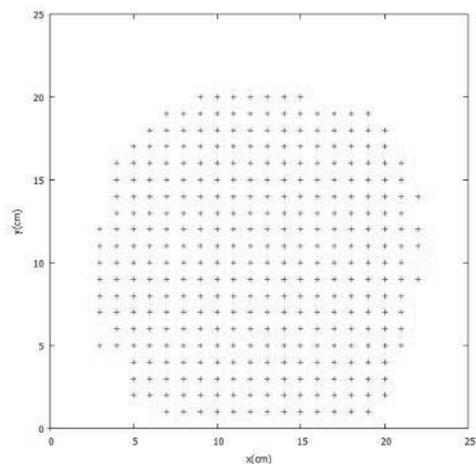


図12 卓上リーダー上の読み取り可能地点の分布  
—  $h = 6 \text{ cm}$  —

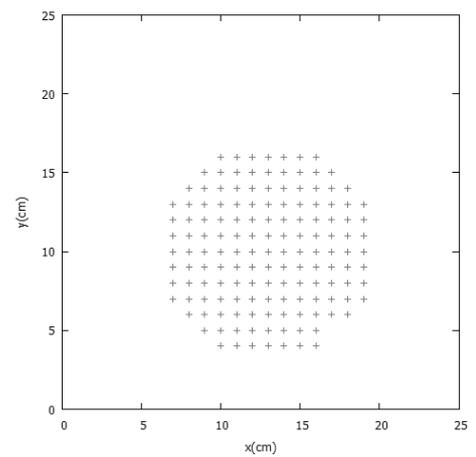


図13 卓上リーダー上の読み取り可能地点の分布  
—  $h = 10 \text{ cm}$  —

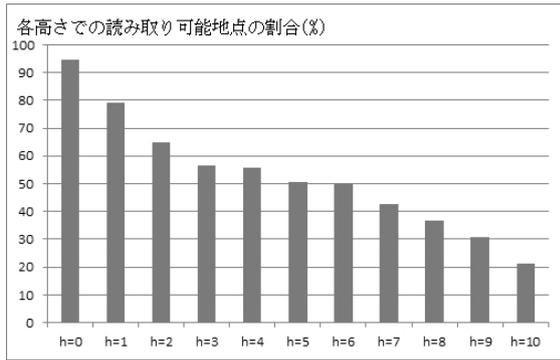


図 14 卓上リーダ上の読み取り可能地点の割合

ら測定用アンテナが離れるにつれて、電磁界の強さが低下するが、その大きさは10cm離れると中心部で1/10から1/30に、周辺部では1/100の大きさに減少することが分かる。

### 5.2. 卓上リーダ上の読み取り可能範囲の評価

次に、測定された電力を元に卓上リーダ上のタグの読み取り可能範囲を評価した。本実験で用いたタグは、タグでの受信電力が-25dBmより小さくなると読み落としが発生しやすくなることを確認している。この結果を用いて、各測定点で受信される電力が-25dBmの基準を上回るか否かで卓上リーダ上の読み取り可能エリアを評価した。なお、本実験環境において、受信電力に基づいた読み取り性能の評価が、実際にタグを用いた場合の評価と同等の結果を示すことは予備実験にて確認済みである。この評価結果を図10～13に示す。

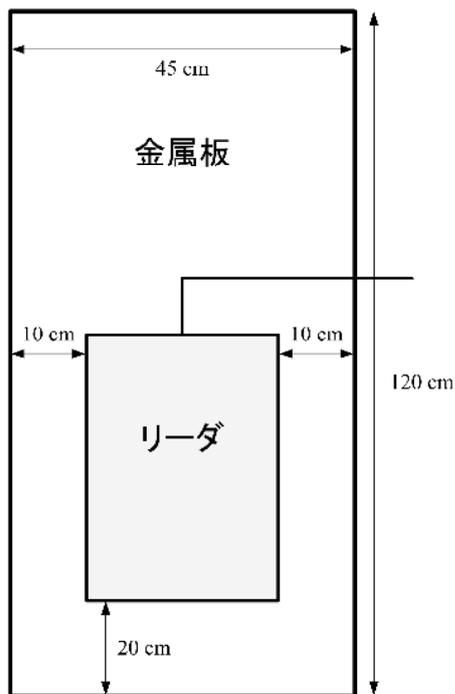


図 15 金属板と卓上リーダの位置

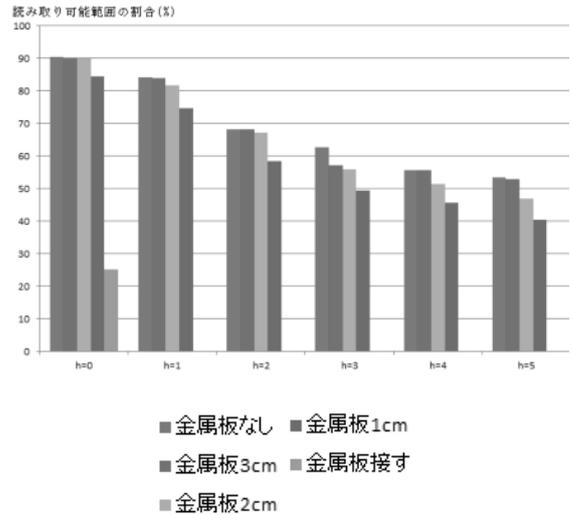


図 16 卓上リーダ上の読み取り可能地点の割合

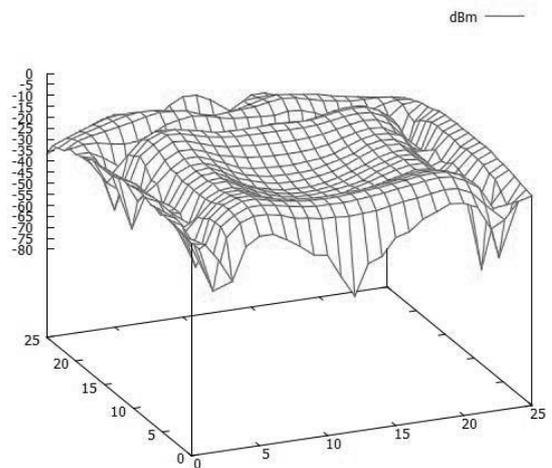


図 17 金属板と卓上リーダが接しているときの放射電力の分布

図の“+”のマークは、タグの読み込みが可能であった点を示している。

これらの結果より、卓上リーダとタグの距離が離れるに従い、読み取り可能範囲が中心部分に狭まってしまふことが分かる。また、 $h = 0\text{cm}$ のときでもアンテナ線をまたぐようにタグを置いた場合、アンテナ直前であるにも関わらず電磁界の打ち消し合いが発生し、タグに十分な電力が供給されず、読み込みが出来ないことが分かる。図14は、卓上リーダ上の各高さにおいて読み取りが可能な地点の割合を調査した結果を示す。この図から分かるとおり、評価に用いた卓上リーダは、評価エリア内において直前で約95%、タグとの距離が5cm程度離れたときに約50%、10cmで約20%の読み取り性能をもつことがわかる。

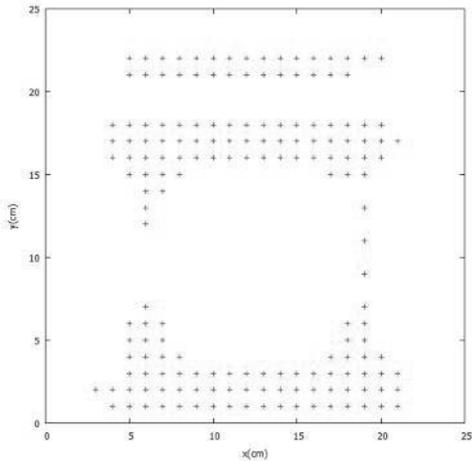


図 18 金属板と卓上リーダーが接している時の  
卓上リーダーの読み取り可能地点  
—  $h = 0 \text{ cm}$  —

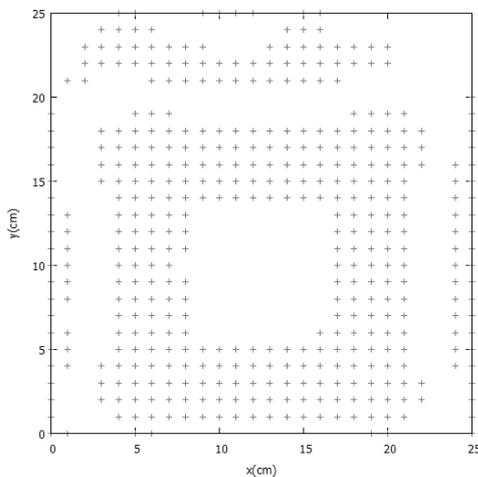


図 19 金属板と卓上リーダーが接している時の  
卓上リーダーの読み取り可能地点  
(電力分布を基準としたときの評価)  
—  $h = 0 \text{ cm}$  —

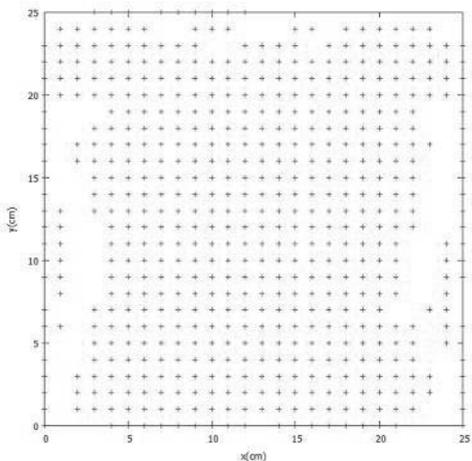


図 20 金属板と卓上リーダー間に 1cm の隙間を  
空けたときの卓上リーダーの読み取り可能地点  
—  $h = 0 \text{ cm}$  —

## 6. 金属板が卓上リーダーの読み取り性能に与える影響の評価

最後に、卓上リーダーが金属板上に配置されている場合に、金属板が卓上リーダーの読み取り性能に与える影響を評価した。実験では、図 15 に示すように大きさが  $120\text{cm} \times 45\text{cm}$  の鉄製の板を用意し、この上に卓上リーダーを置いてその特性を評価した。

図 16 は、金属板と卓上リーダー間の隙間を変えたときのタグの読み取り性能を、実際にタグを用いて評価したものである。金属板と卓上リーダーが接している場合には、卓上リーダー上にタグを置いた状況 ( $h=0$ ) でも読み取り可能な地点は 20%程度しか無く、タグと卓上リーダーを 1cm 以上離すと読み取り地点は 0 となった。このときの卓上リーダーから放射されている電力の分布を図 17 に示す。図 5 と同様の形状はしているが、図 5 と比べて、測定用アンテナでとらえられる電力は大きく減衰していることがわかる。図 18 は、このときのタグの読み取り性能を実際に評価した結果である。この結果より金属板に卓上リーダーを直接置いたとき、20%程度の点でしかタグとは通信できないことが分かる。

一方、図 19 はスペクトラムアナライザで観測された電力からタグの読み取り性能を予測したものである。この場合、60%程度の点でタグと通信できるとの結果となり、図 18 に示した実際の結果とは大きく食い違う。これは、金属板が電磁界成分を反射してしまう性質があるため、直接の電磁界と反射して届く電磁界の 2 つがタグのある空間に存在し、これらが合成されることで、測定用アンテナでとらえられる電力が大きくなったり、小さくなったりする。この結果、2 つの電磁界が強め合ったとき、見た目の電力は通信に必要な電力をもつが、反射して届く電磁界は時間遅れで直接の電磁界に混ざりタグに届くため、情報をやりとりする波の形が大きく崩れ、タグが卓上リーダーから届く情報を認識できない状況になっていることを意味する。これらの結果より金属など電磁界を乱すものがある環境下においては単純に受信電力だけでタグの読み取り性能を評価することはできないことが分かる。一方、金属板と卓上リーダー間に 1cm 以上の隙間をもたせるようにして卓上リーダーを設置すると、読み取り性能は大きく改善し、3cm 以上の空間を確保した場合には、金属板がない場合とほぼ同じ結果が得られることが示された。図 20 は、金属板と卓上リーダーの間に 1cm の空間を空けたときの  $h = 0\text{cm}$  の点での卓上リーダー上のタグの読み取り状況を示したもので、この状況でも読み取り性能が大きく改善されていることが分かる。図 21 は、金属板と卓上リーダーの間に 3cm の空間を確保した状態で、タグの高さを変えたときの読み取り可能地点の割合を

実測した結果と観測された電力から推定した結果を比較したものである。3cmの空間を確保した場合、反射した電磁界成分の影響はほとんどなく、電磁界分布から読み取り率を問題なく予測できることがわかる。

## 7.まとめ

本報告では、卓上リーダから放射される電磁界の広がりや強度、及び周りの環境が卓上リーダの性能に与える影響を評価した。その結果、卓上リーダから放射される電磁界は卓上リーダ中心部の読み取り性能を最大限にすべく、設計されていることが明らかになった。また、金属板上に卓上リーダを設置した場合、金属板と卓上リーダの距離が近いと性能が大幅に低下するが、ある程度の空間を持たせることで卓上リーダの下にある金属板の影響を小さく出来ることを示した。今後は、卓上リーダを設置する場所の側板が金属板である場合の影響について調査する。また卓上リーダのアンテナの構造を工夫することで、読み取り性能を向上させる方法についても検討していく。

## 参考文献

- [1] Klaus Finkenzeller, RFIDハンドブック 非接触ICカードの原理と応用, 日刊工業新聞社, 2001.
- [2] 藤崎 清孝, “図書館における RFID 技術の適応と電磁環境”, 月刊 EMC, No.183, pp.86-94, July 2003.
- [3] 藤崎 清孝, “図書館用 RFID システムの開発 I: 13.56MHz RFID タグの共振周波数の評価”, 九州大学附属図書館研究開発室年報 2005/2006, pp.1-6, June 2006.
- [4] 新美 孟, 藤崎 清孝, “図書管理用卓上型 RFID リーダの高性能化に関する研究 1 -卓上型リーダの基本性能の評価-”, 2012 年度電子情報通信学会九州支部学生会講演会, 長崎大学, Sept. 2012.
- [5] 社団法人日本自動認識システム協会:  
<http://www.aimjapan.or.jp/>

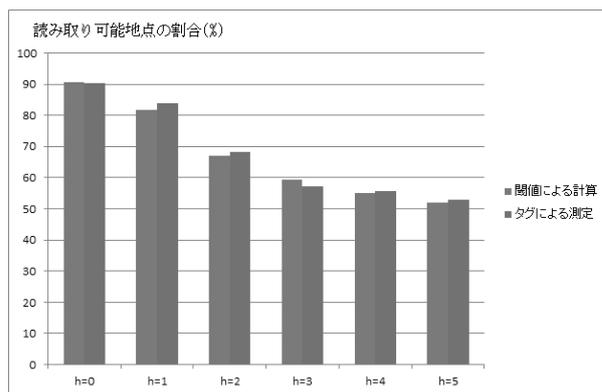


図 21 卓上リーダ上の読み取り可能地点の割合  
—卓上リーダと金属板を 3cm 離した場合—

論文

## 学生 SD のためのデータ解析の可能性と重要性 — 学生の仕事力養成のための 1 つのアプローチ —

南 俊朗<sup>†</sup>

<抄録>

大学にとって最も重要な課題は教育力の向上である。大学の一部署である大学図書館にとっても学生支援は大きな課題である。昨今は少子化などの社会的変化に伴い入学してくる学生の多様化が進んでいる。我々はデータに基づいてこのような学生の実像を把握する研究を行ってきた。図書館データとしては特に貸出記録に注目し、授業データとしては出席、宿題、試験、そして学生の自己・授業評価アンケートを用いる。本稿では、大学の教育力向上、特に社会人・職業人としての教育力の観点からこれらの研究結果を総括し、今後の方向性を議論する。

<キーワード> 学生 SD (Student Development), 図書館データ解析, 図書館マーケティング, 授業データ解析

## Potential and Importance of Data Analysis for Student Development — An Approach to the Development of Student's Vocational Capacity —

Toshiro MINAMI

### 1. はじめに

教育機関である大学にとって学生に対する教育力の向上は、その最大の課題である。その一部署である大学図書館にとっても学生への学習支援の重要性は極めて大きい。一方、現在の学生達はかつてないほど多様化している。その背景には少子化や大学進学率の増加、社会状況の変化など様々な要因が存在しているものと考えられる。その結果、多様化に留まらず学生の学力低下という現象が起こっている[13]。十分な基礎学力を備えないまま大学生になってしまった学生に対する高等教育の実現が大学に求められている。

大学における教育機能の主たるものは授業である。授業における第1の当事者は学生であり、第2の当事者は教員、そして第3の当事者が職員や学生を取り巻く様々な人々である。現在多くの大学は授業改善などを目的としてFD (Faculty Development) 活動を導入し、第2の当事者である教員の教育力向上に努めている。またリメディアル教育や初年次教育を強化するなどし、学生への多様な授業提供にも多大な努力を傾注してきた。職員のためには職員 SD (Staff Development) 活動を実施している。しかし、そのような努力にもかかわらず、状況の大幅な改善には結びついていない。

その大きな原因は、授業の第1の当事者である学生側が授業の受講姿勢や学びへの意欲などに関して十分ではないことにあるものと考えられる。大学側としても、学生の心の持ちようも視野に入れた学生教育(学

生 SD, Student Development) への取り組みにこれまで以上の力を注ぐことが求められている。

現在多くの大学において授業改善を目的にFDの一端として学生による授業(評価)アンケートが実施されている。しかし教職員の多大なる労力をかけているにも関わらず、学生SDに注目し、授業の効果をより一層高めようと努めている大学は少ない。授業アンケートに関する研究論文の中で学生SDの観点から考察しているもの(たとえば[25])もまだ少ない。

学生SDを考える上で重要なのは、学力それ自体だけではなく、学びに対する学生の姿勢や意識、知的好奇心や社会で起きていることに対する関心、身の回りの出来事への観察力やその中に存在する課題を発見し、それを解決したいという意欲など、学力や仕事力を支える基盤となる能力である。いわゆるゆとり教育などの結果引き起こされたとみられる「低学力」が問題として注目されることが多いものの、低学力の学生の多くはこのような「基盤力」、あるいは「社会人基礎力[8]」も低く、低学力は基盤力の弱さから引き起こされているケースが多いものと考えられる。

このような観察結果を踏まえると、大学が担う高等教育の目的は、学生を、単に高度な学力を持った人材としてだけではなく、高度な仕事力(職業人力)をも備えた人財として養成し、社会に送り出すことであると言える。実際、就職活動において内定を獲得するためのアドバイスとして論理力、適応力、好奇心や成長

<sup>†</sup> みなみ としろう 九州大学附属図書館研究開発室特別研究員, 九州情報大学附属図書館長・教授 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1)  
E-mail: minami@kiis.ac.jp

力などが指摘されており[7]、学生 SD の重要性が示唆されている。

我々はこれまで図書館マーケティング研究の一環として資料の貸出データを中心とした図書館データの解析法に関する研究を行ってきた[9-12, 15, 18-19, 21]。その一環として、学部生、修士・博士の学生、教員などの利用者タイプを基に図書や学生の専門度なる概念を定義し、それを利用して学生個人や学部の専門度に関する考察を行い[12]、また図書の NDC (日本十進分類) を利用して学生個人や学部の興味分野に関するパターンの広がりや類似性などを調べた[15, 18-19, 21]。これらの研究は社会人基礎力の中の傾聴力や柔軟性、実行力などと関連した資質と考えることができる。

我々はまた、図書館データ解析と同様の手法を適用することにより、出席や宿題などの平常点、試験点、そして学生自身および授業に対する状況や評価に関するアンケート結果などの授業関連データを分析することにより、授業や学びに対する学生の姿勢などを調べた[13-14, 16-17, 20, 22]。これらの手法は職業人力としての、与えられた課題に真剣に取り組む態度や自分を客観化して評価し、それに基づいて自己の成長を図る能力に関する指標であると理解でき、それに基づいて学生の職業人力を養成したり改善したりするためのヒントを得る手助けになる。

本稿では、これらの経験を土台に学生 SD を意識した図書館・授業データ解析の可能性を議論し、その重要性を訴える。この目的を達成するために本稿は以下次のように構成される。

第2節では、これまで行った図書館データ解析の結果を概観し、これまでに得られた結果が学生 SD にどのように役立てることができるか考察する。

第3節では、これまで行った授業データ解析の結果を概観し、これまでに得られた結果が学生 SD に役立つ知見を検討する。授業アンケートに関しては、従来研究の結果を踏まえて、データ解析の結果がどのように利用可能であるかを詳しく議論する。

第4節では、職業人育成のためのデータ解析の可能性について検討し、今後の研究の方向性やその可能性ならびに重要性について議論する。

最後に第5節で、本稿の議論全体を総括する。

## 2. 図書館データ解析からの知見

本節では、図書館データの解析から学生 SD に関するどのような知見が得られる可能性があるのかを考察するための材料として、我々がこれまでに行った解析結果を検討する。

まず 2.1 節で対象とした図書貸出データの概要を示す。次に、2.2 節では、図書が一般読者向けなのか、専

門書なのかを貸出状況から判断する 1 つの試みとして専門度推定を行い、その結果の応用として貸出図書から評価される利用者の専門度も推定する。さらに、2.3 節においてある利用者の興味の状況を貸出図書の日本十進分類 (NDC) の多様性に基づいて調べる試みを紹介する。これらの試みは、図書館の貸出データという、かなり特殊なデータからも、学生の社会人力という、もっと一般的な能力に関する情報が得られる可能性を示している。

### 2.1. 解析対象となる図書館データ

本稿で解析する図書館データは九州大学附属図書館中央図書館における 2007 年度の貸出記録である。各レコードは 1 冊の貸出および返却に関するデータを集めたものであり、貸出した利用者、その所属、身分種別 (学部何年生・修士・博士、教員、職員など)、貸出された図書の ID やタイトル、NDC 分類番号、貸出日時、返却日時などから構成される。貸出レコードの延件数は 67,304 件である。

この貸出レコードによると、開館日数 (貸出が行われた日数) は 348 日である。したがって 1 日当たりの貸出冊数は約 193 冊となる。利用者 (貸出のあった利用者) の総数は 6,118 名である。なお、図書館を利用しない利用登録者や来館していても 1 年間全く貸出をしなかった利用者は本統計から除外されている。その上で計算すると (貸出) 利用者 1 人当たりの年間延貸出冊数は 11 冊である。

貸出件数に占める身分種別の割合を見ると、全貸出件数 67,304 件中 48% (32,609 件) は学生 (学部学生 29,698 件、その他研究生等 2,911 件) による貸出であり、以下、修士学生が 23% (15,800 件)、博士学生が 16% (10,460 件)、その他が 13% (8,435 件) である。入館ゲートでの記録でも入館者の約 6 割が学部学生であり、大学図書館の主な利用者が学生 (特に学部の学生) であることがデータによっても裏付けられる。

貸出全体の半分近くを占める (学部) 学生の貸出データ 29,698 件に限ると、図書を借りたことのある学生数は 2,966 名であり、一人当たりの年間平均貸出延冊数は 10.01 冊である。

学生個人の年間貸出件数を見ると、最大の貸出件数は 208 件 (1 名) である。それに引き続き 181 件、172 件、143 件、141 件 (それぞれ 1 名) となる。貸出件数が 100 件を超える学生は 12 名 (0.4%) である。

逆に少ない方を見ると、最少の貸出冊数は 1 冊であり、468 名 (全対象学生の 16%、6 名中 1 人の割合) が該当する。それに引き続き、2 冊は 413 名 (全体の 14%)、3 冊は 283 名 (全体の 10%)、4 冊は 233 名 (全体の 8%)、5 冊は 196 名 (全体の 7%) となる。

## 2.2. 図書の専門度推定と利用者プロフィール

ある学生がどの程度専門性の高い内容を学んでいるかは学習態度に関するその学生の重要なプロフィール情報であると考えられる。学生の専門度の指標として学生が借りた図書の専門度を採用する。図書の専門度なる指標を定義し、学生が借りた図書の専門度の平均値をもって、その学生の専門度とする。そのためには、まず図書の専門度なる概念を定義する必要がある。我々は t-値(t-value)と a-値(a-value)なる 2つの指標を考案した[17]。以下順に紹介する。

t-値は学部学生に良く借りられる図書よりも、教員に良く借りられる図書の方が専門度が高いという考えに基づく。具体的にはまず、利用者タイプの専門度を次のように定める。1年次から6年次の学部学生に対して1から6を専門度として与える、修士・博士・教員のそれぞれに8,9,10を専門度として与える。それ以外のタイプの利用者の場合はカウントに入れない。ある図書の t-値は、その図書に関する貸出記録の利用者の専門度の平均値とする。

この定義によると学部学生が主として借りる図書の t-値は概ね 4 以下になり、また、修士以上の利用者が主に借りる図書の t-値は 8 以上になる。前者の図書を学部レベル、後者を研究者レベルと呼ぼう。それらの中間である t-値 5 から 7 は相当する利用者が極めて少数であるため、このレベルの図書は学部学生と大学院生以上の両方が混合して借りられていることになる。

t-値による図書の専門度の冊数分布を図 1 に示す。学部レベル、混合レベル、研究者レベルのそれぞれ約 40%、26%、34%という割合である。

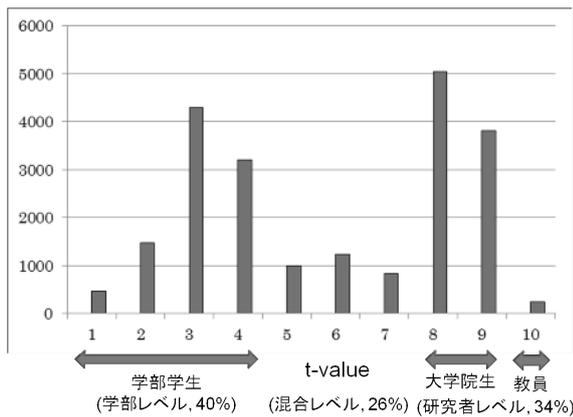


図 1 図書専門度 (t-値) の分布

専門度を測るもう 1つの指標である a-値(a-value)は専門度が低い図書は多くの分野の利用者に借りられる一方、専門度の高い図書は特定の限られた分野の利用者のみに借りられるという考え方に基づく。学部を分野として採用する。対象データにはアルファベット順に AG (農学部), DD (歯学部), DS (芸術工学部),

EC (経済学部), ED (教育学部), LA (法学部), LT (文学部), MD (医学部), NC (21世紀プログラム), PS (薬学部), SC (理学部), そして TE(工学部)の 12 学部が含まれる。それぞれの図書に関して、まず、それぞれの学部のメンバの貸出冊数総数が全貸出冊数に対してどういう割合になるかを計算する。次に偏りの程度を表す値として割合を 2 乗した合計値を求める。

特定の 1 学部だけに貸出が集中した図書はその学部だけ割合値が 1 となり、その他の学部は 0 となるため、2 乗の合計は 1 と最大値になる。一方全ての学部が同じ冊数借りた場合、それぞれの学部の割合値は 1/12 となる。その 2 乗値 12 個の合計は 1/12 となり、これが最小値である。この指標では最大値が 1 となるため、t-値と最大値をそろえるために、この指標値を 10 倍した値を a-値とする。

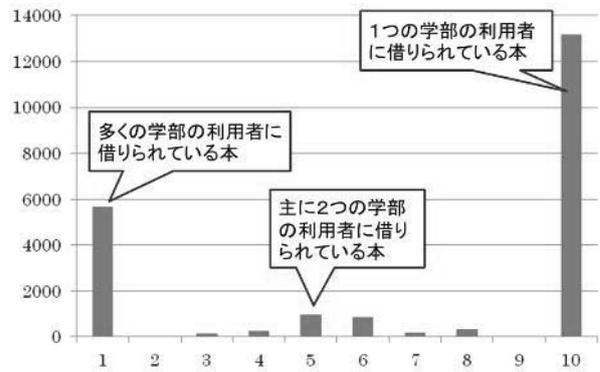


図 2 図書専門度 (a-値) の分布

図書の a-値の頻度分布を図 2 に示す。1 つの学部の利用者のみに借りられている (a-値が 10) 図書は 13,000 件ほどあり、これが最大頻度である。一方多くの学部のメンバに借りられている a-値が 1 である図書も 6,000 件近くある。これは 6 学部以上の学部で同数借りられた場合の偏りに相当する。

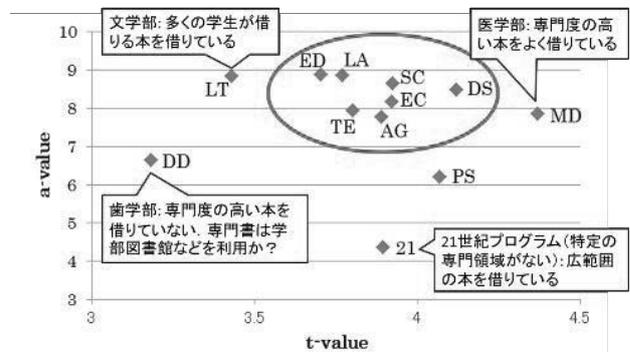


図 3 t-値と a-値による学部の位置づけ

t-値と a-値は図書の専門度に対する 2 つの指標として考案されたものであるが、両者の相関関係はほぼ 0 であり、独立した指標と考えることができる。それぞ

れの定義を利用者の集合に拡張し、学部に対するそれぞれの専門度を調べた結果を図3に示す。多くの学部はt-値が3.6~4.2, a-値が7~9の中央上部に集まっている。それから外れた学部が5つある。

MD (医学部) はa-値としては中庸であるがt-値としては学部の中で最大値となっている。すなわち、医学部の学生が借りている図書は医学部特有という訳ではないが、研究者レベルの高度な図書が多いという傾向を示している。

21世紀プログラムは、いわゆる理系・文系などの既存の枠組みにとらわれず、広い範囲で学ぶことを想定した学部である。a-値が最小であることに、その傾向が表れている。t-値に関しても平均的な値となっているものの1~2年生に多く読まれる図書よりは専門性の高めの図書を読んでいることが分かる。

DD (歯学部) は、両方の値が低めになっている。特にt-値に関しては学部中最低値となっており、比較的低学年の学生に読まれる図書を多く借りている傾向がある。これは、歯学部の学生は専門図書は学部内の図書館を利用し、中央図書館では一般的な図書を借りていることであろうと推測できる。

LT (文学部) は、a-値に関しては平均的であるが、t-値に関してはDDの次に値が低い。これは文学部の学生が多く読んでいると考えられる文学作品などは比較的 low 学年の学生が多く読み、研究者レベルの利用者の場合は、文学研究などの例外的な場合を除いて、広くは読まれないことに起因しているものと推測できる。

### 2.3. 利用者の興味分野やその広がり分析

図書館の貸出記録データを基に、利用者の興味分野に関する情報を得たい[18-19]。そのために、利用者が借りている図書のNDC (日本十進分類法) 番号を分野として利用する。まず、ある利用者が借りた図書のNDC番号 (本稿では上位の10分野) の総数を要素とする000の総記から900の文学までの10次元ベクトルを、その利用者のプロフィールデータと定義する。利用者の集合に定義を拡大し学部のプロフィールも同様に定義する。図4に (通常は学部以外に学部全体のOを1つの学部のようにみなし) 13の学部のプロフィールを100%積み上げ棒グラフとして示す。

容易に分かるように、PS (薬学部) やSC (理学部) は分類番号400の自然科学分野の貸出が高い割合を占める。一方、DS (芸術工学部)、LT (文学部)、O (その他) は広範囲の分野から貸出されている。我々の直感と異なり興味深いのは、MD (医学部) は比較的広範囲の図書を借りているところである。

このような直感的な観察結果を客観的に確認するために興味の高さに関する指標を導入する。本稿では、

情報エントロピーを採用する。これは分類番号に対して、全体におけるその割合をpとすると、 $-p \log p$ の総和を取ることで計算される。最大値を1とするために対数関数の底を10とする。また、10次元ベクトルの要素の総和、すなわち、図書貸出の総数を興味の高さの指標とすることにする。

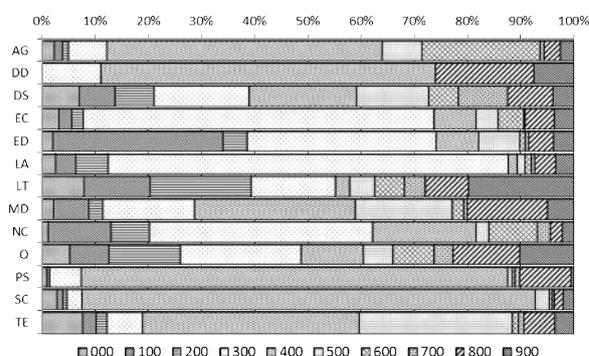


図4 学部のプロフィール比較

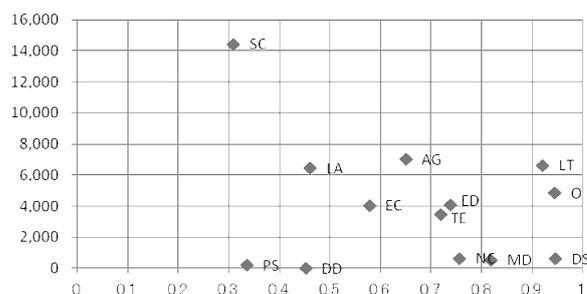


図5 興味の高さ (x軸) と強さ (y軸) による学部の比較

以上の定義に基づき、各学部の興味の高さと強さを図5に示す。興味の高さに関してSC (理学部) が最低値を、PS (薬学部) がその次に低い値となっており、これらの学部の興味は特定の分野に集中しているという図4からの我々の観察と一致する。同様に、DS (芸術工学部)、O (その他)、そしてLT (文学部) の3学部の広さの値が最も大きいことも我々の観察結果と同じである。

一方、興味の高さを数値化したことにより、DD (歯学部) やLA (法学部) がSCやPSに引き続き興味が高集中度であり、またDDとLAの集中度合いが同程度であることやMD (医学部) が4番手に広い興味分野を持っていること、NC (21世紀プログラム) やED (教育学部)、TE (工学部) が同程度の広さの興味分野を持っていることなども図から読み取れる。

利用者と学部に関する興味分野プロフィールを利用して異なる情報を抽出する道具としてプロフィールとプロフィールの類似度を利用する。本稿ではベクトル間の類似度として良く用いられているコサイン類似度

を採用する. すなわちプロファイルベクトル A と B の類似度を  $(A \cdot B) / |A| |B|$  とする. ここで, 分子に現れる  $\cdot$  は内積を,  $|\cdot|$  はベクトルの長さ, すなわち自身との内積の平方根である.

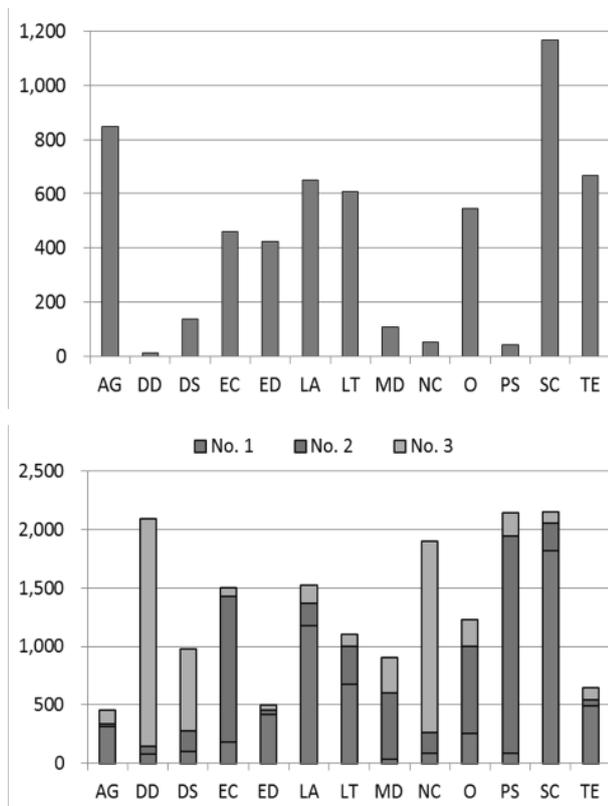


図6 実所属の人数(上)と仮想所属の人数(下)

類似度を利用して, 学生の仮想学部なる概念を定義する. ある学生のプロファイルと各学部のプロファイルの類似度を計算し, 類似度の大きい順に, その学生の第1仮想学部, 第2仮想学部, ... と定める. 第1仮想学部のことを単に仮想学部とも呼ぶ. 図6(上)にその学部の実所属している学生数を, そして図6(下)に, それぞれの学部に対して, それを第1から第3までの仮想学部にしていく(仮想所属の)学生数を示す.

図6より, たとえば AG (農学部) の実所属学生数は約 800 名であるが, (第1) 仮想所属の学生数は 400 名程度と半分になっている. 同様に EC (経済学部) や TE (工学部) も実所属学生数に対して仮想所属学生数が減少している. 一方, SC (理学部) は実所属学生数が 1,200 名弱であるのに対して, 仮想所属学生数は 1,800 名程度と増加している. LA (法学部) も同様に増加している.

図7にそれぞれの学部に対して, その(実)所属学生が仮想所属学部にもどのような割合で所属しているかを示す. 基本的には, 実所属と同じ学部を仮想所属とする学生の割合が多いものの, SC (理学部) のように, その割合が小さい例も存在する.

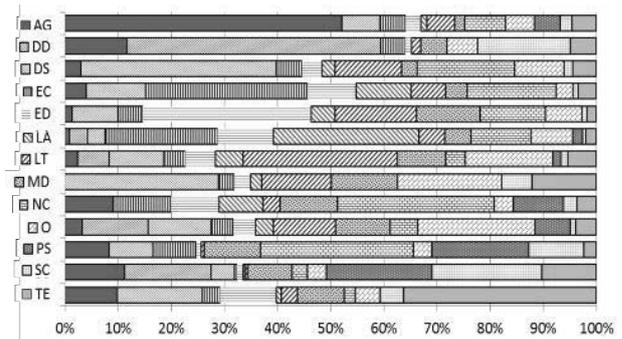


図7 学部別の仮想学部人数割合

MD (医学部) の場合は, 医学部を仮想所属学部にする学生の2倍近くが DS (芸術工学部) を仮想学部としている. すなわち MD の学生の興味分野の多様性は大きく, 医学部学生そして典型的な興味分野でない興味分野を持つ学生が多く存在し, しかも DS の典型的興味分野に近い学生が最も多い.

MD ほど極端ではないものの PS (薬学部) も同様な傾向にある. 薬学部の学生の中で典型的な薬学部的興味分野パターンを持つ学生以上に NC (21世紀プログラム) の典型的興味分野パターンを持つ学生が多い. 学部の性格から予想されるほど強くはないものの NC 所属の学生は PS の学生と比較して興味の範囲が広い場合が多い. このような学生が NC の典型的興味範囲と類似していることが予想できる.

### 3. 授業データ解析からの知見

学生の学びの場の第1は教室であり, 授業を通しての学びは学生にとっての学習の大原則である. 授業という場における学生の学びへの姿勢や習慣は, 学生にとって, 将来の職場における仕事への姿勢や仕事力に直結するものであり, 仕事力養成の一環として真剣に取り組むべきである. 本節ではこのような認識をベースに, 授業に関する様々なデータ解析から, 学生の学びへの姿勢や積極性, そして好奇心などを読み取る試み[16-17, 20]を紹介する.

#### 3.1. 授業に対する努力・成果分析

本稿では, ある女子短期大学の2年生向けの「情報検索演習」における, 出席や宿題提出などの平常点, 期末考査における試験点, そして期末に実施された学生アンケートへの回答を解析の対象とする. 本授業は, 女子短大における司書資格取得のための必修科目であり. 学生の受講態度はかなり良好であると考えられる.

本稿における我々の興味は, 成績そのものだけではなく, 成績や学習成果に対する学生の意欲や学びへの姿勢などの分析にある. そのため, 出席や宿題に関す

る評価点を学生の努力に対する評価（努力点）、試験点を学習成果に対する評価（成果点）と捉える。

授業データ解析の第1段階として努力に対する成果の相関関係を調べる。努力に関する指標としては出席を評価した出席点と宿題の提出状況および宿題の質を評価した宿題点がある。これら2種類の努力点の間の相関係数は0.53であり、ある程度の正の相関が見られる。出席点と試験点、宿題点と試験点の相関を調べると、両者には基本的に大きな差異がない。図8に試験点と宿題点の関連を示す。相関係数は0.0であり、両者には全体的な相関がない。

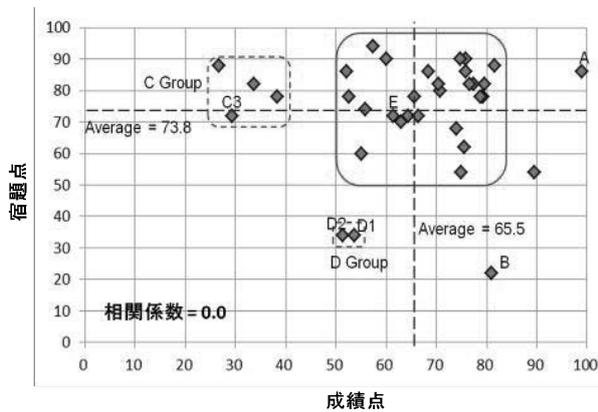


図8 成績点と宿題点の相関

両者の関係をさらに詳しく検討する。多くの学生はそれぞれの平均値の周辺部分（具体的には、成績については50~85、宿題については50~100の領域）に位置している。このクラスから外れた学生が10名程度存在する。

図でAと印つけられた学生は成績トップの学生であり、成績点は100点近くある一方、宿題点は90点に達していない。学生Aより高い宿題点を獲得した学生が何人もいることは、宿題という努力点が直ちに良い成績に繋がるとは限らないことを示している。

この傾向は、出席点に関してはより顕著である。単に多く出席しているだけでは良い成績には繋がらない。この結果は、出席や宿題などの努力を実力結びつける意識や実践が必要であることを示している。

同様の結果は学生4名からなるC群からも窺える。C群の学生達は、出席や宿題などの努力点に関しては概ね平均以上である。それにも関わらず、成績に関しては、それ以外の学生達から離れた最低点グループを構成している。これらの学生達は、一見努力しているように見えながら、それが成績向上に結び付くような真の学習になっていないことを示唆している。

学生2名からなるD群は、最下位ではないものの、試験点と宿題点の両方において低い評価になっている。

これら学生達は出席点に関しては、大きなクラスに属しており、出席に関しては人並みに努力しているものの、宿題というより意識的な努力に関しては最低レベルの努力しかやっていない。C群と比較すると、出席に関しては同程度であり、宿題という努力点に関しては低いものの、試験点に関しては高い成果を出している。

これらの観察結果を総合すると、C群が形だけの努力をする学生群だったのに対して、D群の学生達は宿題に関する努力が低いために十分な成果が上げられなかった学生群と見ることができる。すなわち、D群の学生達は、宿題に関してもっと努力することにより、成果としての成績点をもっと高くなるのが期待できる。自分たちのもっている潜在能力を十分発揮しなかった点で、大変もったいない学生達であると言える。

学生Bは宿題点のみならず出席点でも最低点をとっている学生である。それにも関わらず試験点は、最上位クラスとはいえないものの普通の学生達の上位に位置している。この学生は、潜在的には十分な能力を持っている学生であろう。十分な努力なしでもこのような高い成績が取れるのであれば、さらに努力することで学生Aと同様の一層高い成績点を獲得できるものと予想できる。この学生も自分の潜在能力を十分発揮できていない点で、もったいない学生である。

### 3.2. 自己評価と努力点の相関に関する分析

本稿で解析している授業では、最終回到授業全体を振り返り、授業と学生自身を両方を評価するアンケートを記名式で実施した。記名式とした理由は、どのような学生がどのような評価を行ったかを分析できると同時に、学生自身が責任感をもって自身の評価を行って欲しいためである。また、我々の過去の経験から、記名式であっても学生達は意外と正直に自己の問題点などを回答するものであると判断しているためである。

質問項目は全部で12項目あり、そのうち5項目は授業の評価に関する問いであり、6項目は学生自身の評価に関するもの、そして残り1項目は、特に内容を指定せずにコメントを求める問いである。授業と学生自身に関する質問項目の中にそれぞれ総合評価として100点満点の何点をつけるかの問いが含まれている。本節では、学生自身の評価点が前節でも用いた宿題点や試験点とどのような相関関係にあるかを分析する。

図9に学生の自己評価点と宿題点の相関を示す。この相関係数0.5は自己評価点と出席点の間の相関係数0.4よりも大きい。これは同じ努力点の中でも、単に授業に出席するよりも、より大きな努力が必要な宿題に熱心に取り組んだことの方を学生はより高く評価していることを示している。

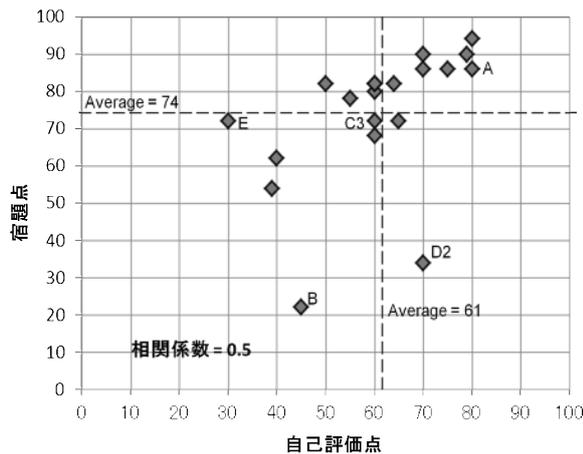


図9 自己評価点と宿題点の相関

図4によると、学生 D2 と B を除いて宿題点と自己評価点の間には大きな相関があることが分かる。これら2名の学生は宿題点が最下位である。恐らくこれらの学生達は、自分の努力が不十分であることを認識した上で、あえて高めに自己評価しているのであろう。

特に学生 D2 の自己評価は平均以上である。既に述べたように D2 (D 群) の学生は平均かそれ以上に真面目に出席しているものの、宿題の提出に関しては熱心でない。学生 D2 は良く出席したことでもって自分自身を高く評価している可能性がある。成績的にも下位であることを考慮すると、このタイプの学生には実質的な学習を行うことの重要性を十分理解させる必要がある。

### 3.3. 自己評価と試験点の相関に関する分析

図10に自己評価と成績点との相関を示す。驚くべきことに相関係数は-0.1と負値である。自己評価と努力点との相関が比較的大きな正值であったことを勘案すると、学生達は自分の成果というよりも努力に対して評価している傾向が強いことになる。

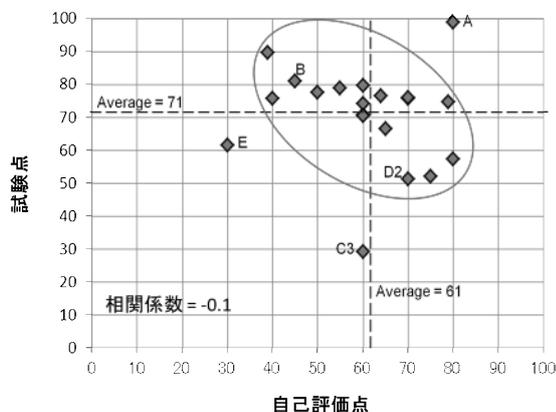


図10 自己評価点と試験点の相関

これは努力はある程度自己認識できるし、客観化する意識があれば、かなり冷静に評価できる一方、成果に関しては、自分で客観的に評価するのが難しいという事情もあるものと考えられる。

図10をさらに詳細に分析する。学生 A は努力点に関しては最上位ではないものの上位グループに属しており、また、成績点に関してはトップであるため、自己評価に関してもトップグループに属していることは納得できる。自負心をもって授業や学習に熱心に取り組んでおり、それを自分でも評価している学生である。

学生 C3 は試験点が最低値であるにも関わらず、自己評価点は平均値程度に高い。すでに分析したように、C 群の学生は出席や宿題提出など外見的な面に関しては平均かそれ以上に努力している。努力の結果が成績という成果につながらなくても努力しているように見えること自体を自己評価しているのであろう。このような学生にも実質的な成果を上げることの重要性を学んでもらう必要がある。

学生 E は自己評価が最低の学生である。この学生の努力点や成果点は平均値にわずかに及ばないレベルであり、特段に低い訳ではない。E は他の学生より厳しく自己評価している。このような学生は向上心が高いものと考えられる。ある程度の努力をし、ある程度の成果を出しているにも関わらず、自分以上の学生の存在を考え、そのようなレベルに至るためにもっと努力をすべきであったと、自分の行動を反省しているのであろう。向上心が高いことは利点であるものの、それが行き過ぎて自己嫌悪など自分自身をネガティブに捉える傾向が強すぎるのは問題である。向上心と同時に自分自身の努力や学びへの姿勢を評価することができるように導くことが望まれる。

## 4. 学生の社会人力育成へ向けたデータ解析

前節まで学生 SD を目的に学生の現状を図書館や授業データに基づいてモデル化するいくつかの試みを紹介した。本節では、このようなアプローチによるデータ解析によって得られる知見が学生の社会人力(職業人としての能力)育成にどのように役立てられる可能性があるのかを議論する。高等教育は、初等中等教育を卒業した学生を受け入れ社会人として仕事のできる人材として社会に送り出す役割を担っている。社会人力とは具体的にはどのような能力であろうか？

社会人として必要かつ重要な能力に関しては、企業の人事担当者が学生を採用する際に、どこを評価しているかが参考になる。企業が就職活動中の学生を評価する基準は端的に表現すると、「仕事仲間として相応しいか」、あるいは、「自社に貢献してくれそうか[7]」という。この表現自体はかなり曖昧であるものの、そ

の意味しているところは、学力や知識にも増して、学生の行動や心のありようが社会人として仕事を遂行していく上で重要であることを示唆している。

社会人力をさらに具体化すると、好奇心、向上意欲、実行力、論理性、視野の広さ、精神的耐久性や安定性、発想力などがその要因となる（[7]など）。すなわち、仕事や社会に対する好奇心を持って仕事に熱心に取り組み、自分を向上させるためにたゆまず自己研鑽に努め、やるべき事柄を直ちに実行に移すことができ、また、自分の考えを広い視野から論理的に説得性を持って説明でき、しかし一方で自分の考えに固執せず、他人の考えを十分の敬意を払って聞きくことができ（コミュニケーション力が高い）、チームの一員として自分の役割を果たすだけでなく、チーム全体の利益のためにそれ以上の仕事を積極的にできるような人間を社会人力が高いと考えることができよう。これは通商産業省が提唱している社会人基礎力[8]にも通じる。

社会人力をこのように捉えるとき、我々の図書館・授業データ解析によって、学生の持つこのような資質を推定し、把握（モデル化）することはいかに可能であろうか？以下、資質のいくつかを議論する。

**好奇心：** 学生にとっての仕事は勉学であると。第2節で紹介した興味分野の分析結果は、学習に対する好奇心の指標という側面も持つ。興味分野の広がりだけではなく、自分の専門分野を中心に、その関連分野への興味のあり方も分析することにより、将来の職業における専門知識やその周辺知識に対する好奇心に関する予測情報が得られるものと期待できる。

**向上意欲：** 我々は図書館貸出データからの専門度推定に関する研究の中で、学生の実専門度と貸出図書の専門度の差を、その学生の向上意欲の尺度とした[15]。この研究をさらに精密化することにより、職業人としての向上意欲も推定できる可能性がある。

**論理性：** 客観的評価は難しいものの、授業字の作文や宿題へのレポートなどの文章を分析することにより、論理の組み立て力に関して相当の情報が得られる。与えられたテキスト（文章）から、その論理性を自動評価する技術を適用することにより、本項目に関する評価の手間をかなり軽減することができる。

**注意力：** 仕事をしていく上で、顧客からの要請や上司からの指示内容を正確に把握する能力は仕事力の基本である。近年、宿題の提出方法に厳密に従うことのできない学生が増加している。授業での指示などを正確に理解する能力は仕事上の注意力の指標となる。

**スケジューリング力：** 仕事を締切内で終わらせることは社会人の基本である。学生の場合は、授業に遅刻しないことや宿題を締切日時までに提出することなどはスケジューリング力や計画性の良い指標である。

このように見ていくと、授業データからは、与えられたテーマに対する学生のアプローチなど、たとえば、構想力やテーマに関する知識レベルなど、いわばミクロの情報が得られる。いっぽう、図書館データからは、学生の興味分野やその広がり、そして様々な分野に関する大雑把な知識レベルといった、いわばマクロの情報が得られる。ミクロとマクロの情報を併せてモデル化することにより、学生に対するより包括的なイメージを捉えることができる。今後、このアプローチによる一層精密な解析に関する研究が重要である。

## 5. 結語

教育機関である大学にとって教育機能を最大化することは極めて重要である。そのためには教育機能の中核をなす授業を中心に現状を分析・把握し、それを踏まえた対策を講じる必要がある。従来教育効果を向上させるために教員のためのFD (Faculty Development)や職員のためのSD (Staff Development)活動が盛んに行われてきた。しかし、第1の当事者である学生自身が学ぶ意義を十分自覚し、授業を中心とする教育の機会を最大限に生かすよう自己努力するように持っていくためのSD(Student Development)活動の重要性が十分理解され努力されて来ているとは言えないのが現状である。

本稿では、この学生SDを活発化させることを目的に、その第1段階として学生の活動に関する様々なデータを収集し、それを解析することにより学生の現状、特に学びに対する学生の関心の広さや強さ、そして学びへの姿勢などを分析する試みを紹介した。

第2節では図書館データ解析を、第3節では授業データ解析を取り上げ、データ解析によりどのような知見が得られるのかを具体的に示した。その過程を通して、有益な知見を得るためには、通常良く行われる統計やデータマイニングの標準的手法の適用だけでは十分ではなく、新しい指標を導入するなどデータの特性に応じた工夫が必要であることも併せて示された。

第4節では、大学教育の大きな目的が、学生を社会人、あるいは職業人として育成し、卒業後仕事の現場で十分に活躍できる素地を身に付けてもらうことに注目し、図書館や授業のデータ解析が職業人としての学生の育成にどのように役立つ可能性があるかを議論した。

本稿と同様に、教育への応用を意図したデータ解析に関しては、従来、KDD (Knowledge Discovery and Data Mining) [1]やEDM (Educational Data Mining) [3, 23, 24]などの分野で研究されてきた。論文[24]ではe-Learningシステムから得られるデータを用いて学生を分類する問題に対するデータマイニングアルゴリズムを比較している。その目的は学生の成績を事前に予測すること

にある ([27]も同様)。学生の学習成果と見なせる最終成績を予測することで、問題のありそうな学生を早期に発見し、対策を講じることができる。

本稿の研究目的も概ね同様であるが、我々の主要な興味は、得られたデータから直接的に成績を予測することではなく、それ以前に学生のやる気や勤勉さなどの心の姿勢や性格などに関するモデル化を行い、それに基づき間接的に成績を予測し、問題のあることが予測できる学生に対して根源的にケアすることを目指している点が異なる。

我々の研究はコンピュータ支援による協調学習 (Computer Supported Collaborative Learning, CSCL) の研究領域とも関連する。論文[26]では、学生間の交流 (Interaction) を構造化することを目的に協調して学ぶための場を扱っている。本テーマに関する我々のアプローチは、まず学生達の学習行動に関する特徴を見出し、その後、得られた知見をベースに学生達の興味や習得知識のレベルのバランスなどを考慮した上で最適な協同学習グループの構築を提案するというものである。

従来の研究と比較した我々のデータ解析へのアプローチは次のような点で相違している。

#### (1) データ解析の目的

すでに述べたように我々のデータ解析は、従来研究で多く行われている授業データに対する直接的なデータマイニングではなく、学びに対する学生の心の姿勢をモデル化することを大きな目的としている。

#### (2) 対象データのサイズ

従来のデータ解析・データマイニングの研究はビッグデータ (Big Data) と呼ばれる大規模なデータを対象としていることが多い。近年は Web システムの発展および普及により、アクセスログなどのデータが大量に得られるようになったことを背景にビッグデータからのマイニングが大きな注目を集めている。

それに対して我々の対象データでは授業データのように、それらと比べると極めて少量である。そのため、少数のデータの値の揺らぎ (ノイズ) が全体の傾向に与える影響が大きくなりがちである。ノイズの影響を少なくするためには、データ以外の背景知識や補完データなどを総合的に駆使して、妥当な解釈を探索するアプローチが有効である。このような考えに基づき、スモールデータであっても有用な知識獲得ができる手法の開発を我々は目指している。

#### (3) 対象データの入手方法

前項とも関連するが、大量のデータを獲得するためには、何らかの自動的手段を導入する必要がある。実際、従来研究の多くは e-Learning システムのログデータを用いるなどにより大量のデータを取得解析するビッグデータ指向である。一方我々が対象とするデータ

は特別なコンピュータシステムなどを仮定しない一般の授業データなどのスモールデータである。したがって、手作業により必要なデータを作成することも可能である。

#### (4) 例外ケース (外れ値) の取り扱い

データマイニングや統計手法を含め従来のデータ解析においては、通常、例外的なデータを除外した全体の特徴を掴むことが大きな目的である。それらから外れたデータはしばしばノイズデータとして扱われる。

一方学生に関するデータにおいては、標準的なクラスから離れた外れ値データであろうとも、それはそれで人格を持った 1 人の学生を表現している。そうである限り、それらのデータも他のデータと同様に尊重されるべきである。そのような外れたデータをも考慮に入れ、それを如何にして教育に活かすことができるかを考えることが我々の研究にとっては重要である。

#### (5) 解析ツールの開発

データ解析に関する従来の研究の多くは既存のツールを様々なデータに適用したものである。たとえばデータマイニングの研究において統計的な手法と同時に関連規則 (Association Rule) を発見する研究は多い [2]。

本稿における授業データ解析の研究は、データやアプローチに独自性があり、従来の解析手法をそのまま適用する訳にはいかない。したがって、我々は設定した解析課題に適合するような解析手法を考案し、それを改善しながらデータ解析を進めて行くスタイルでの研究を行う。これも本稿の研究において重要性の高いテーマである。

なお、我々と同様にスモールデータを対象とした授業データ解析の研究も少数ながら存在する。合田等は毎回の授業で学生に自己評価コメントを提出させ、それを手動でデータ化し、コメント内容から成績を推定する研究結果を報告している [4-6]。

今後の研究方向として次のような課題がある。

(1) 更に新アイデアを考案し、学生の勉学への熱心さ、努力、学びへの態度などをさらに精密化して把握できる手法を開発すること、中でも、学生アンケートの中のテキスト部分からは、多くの情報を抽出できる可能性があり、今後深く研究すべきテーマである。

(2) 本稿とは異なるタイプの授業・図書館・その他のデータを収集し、それらを解析することにより、本稿の研究で示唆された結果を検証したり、比較したりすることが課題である。たとえば、就職活動に関連した既存の研究結果に対して、本稿の手法を用いた解析結果を用いて補強したり補完したりすることにより、有益な知見が得られる可能性が大きい。

(3) 解析手法を一般化、自動化し、学びに関する学生プロフィール解析システムとして統合化する。

## 謝辞

九州情報大学の浦洋子教授には、共同研究者としてデータ解析のための統計手法などに関する多くの知識やアイデアをいただきました。深く感謝いたします。また、本研究の一部は科学研究費補助金（基盤研究(C), 24500318）の助成を受けて実施されました。

## 参考文献

- [1] ACM SIGKDD: ACM Special Interest Group on Knowledge Discovery and Data Mining. <http://www.sigkdd.org/>
- [2] R. Agrawal, T. Imielinski, and S. Swami, "Mining Association Rules between Sets of Items in Large Databases," Proc. 1993 ACM SIGMOD International Conference on Management of Data, pp.207-216, 1993.
- [3] Educational Data Mining Society, <http://www.educationaldatamining.org/>
- [4] K. Goda and T. Mine: PCN, "Qualifying Learning Activity for Assessment Based on Time-Series Comments," Proc. 3rd International Conference on Computer Supported Education (CSEDU 2011), 6pp., 2011.
- [5] K. Goda and T. Mine, "Analysis of Students' Learning Activities through Quantifying Time-Series Comments," Proc. 15th Annual KES Conference (KES'2011), Part II, Lecture Note in Artificial Intelligence (LNAI 6882), pp.154-164, 2011.
- [6] 合田 和正, 峯 恒憲, "PCN 法による自己評価コメントの分析からの改善可能な学生の発見", 教育システム情報学会(JSiSE)特集論文研究会研究報告, Vol.26, No.7, pp.51-58, 2012.
- [7] 井村 直恵, "効果的な就職活動支援," 九州国際大学経営経済論集, 第 17 巻第 2 号, pp.37-43, 2011. <http://www.kiu.ac.jp/organization/library/memoir/img/pdf/keizai17-2-006imura.pdf>
- [8] 経済産業省, "社会人基礎力," <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>
- [9] T. Minami and E. Kim, "Seat Usage Data Analysis and its Application for Library Marketing," Third International Conference on Intelligent Information and Database Systems (ACIIDS 2011), LNAI 6591, pp.238-247, 2011.
- [10] T. Minami, "Potentials of Circulation Data Analysis for Library Marketing --- A Case Study in a University Library ---," The 2011 International Conference on Database Theory and Application (DTA 2011), Springer CCIS 258, pp.90-99, 2011.
- [11] T. Minami, "Book Profiling from Circulation Records for Library Marketing --Beginning from Manual Analysis toward Systematization--," International Conference on Applied and Theoretical Information Systems Research (ATISR 2012), 2012.
- [12] T. Minami, "Expertise Level Estimation of Library Books by Patron-Book Heterogeneous Information Network Analysis -- Concept and Applications to Library's Learning Assistant Service --," The 8th International Symposium on Frontiers of Information Systems and Network Applications (FINA 2012), DOI 19.1109/WAINA.2012.184, pp.357-362, 2012.
- [13] 南 俊朗, 大浦 洋子, "学生の成長を助ける学習支援への模索 - 授業データ解析による支援方法発見への試み -," 九州情報大学研究論集, 第 14 巻, pp.39-50, 2012.
- [14] T. Minami and Y. Ohura, "Toward Learning Support for Decision Making --- Utilization of Library and Lecture Data ---," The 4th KES International Conference on Intelligent Decision Technologies (KES-IDT' 2012), Springer Smart Innovation, Systems and Technologies 16, pp.137-147, 2012.
- [15] T. Minami and K. Baba, "Investigation of Interest Range and Earnestness of Library Patrons from Circulation Records," Proc. International Conference on e-Services and Knowledge Management in IIAI-AAI 2012, IEEE CPS, pp.25-29, 2012.
- [16] T. Minami and Y. Ohura, "An Attempt on Effort-Achievement Analysis of Lecture Data for Effective Teaching," Database Theory and Application (DTA 2012), T.-h. Kim et al. (Eds.): EL/DTA/UNESST 2012, CCIS 352, Springer, pp.50-57, 2012.
- [17] T. Minami and Y. Ohura, "Towards Development of Lecture Data Analysis Method and its Application to Improvement of Teaching," 2nd International Conference on Applied and Theoretical Information Systems Research (2nd ATISR 2012), 2012.
- [18] T. Minami, "Profiling of Patrons' Interest Areas from Library's Circulation Records--An Approach to Knowledge Management for University Students --," The Fifth International Conference on Information, Process, and Knowledge Management (eKNOW 2013), 6pp., 2013.
- [19] T. Minami, "Interest Area Analysis of Person and Group Using Library's Circulation Records," IADIS International Conference Information Systems 2013 (IS 2013), 8pp, 2013.
- [20] 南俊朗, 大浦洋子, "授業データ解析による授業改善策発見を目指して-努力・成果・評価の関連性からのアプローチ-", 九州情報大学研究論集, 第 15 巻, pp.1-16, 2013.
- [21] T. Minami, "Changes of Interest Range of Students with Circulation Record Analysis," Information conference 2013 (Information'2013), International Information Institute, 4pp., 2013.
- [22] T. Minami and Y. Ohura, "Lecture Data Analysis towards to Know How the Students' Attitudes Affect to their Evaluations," 8th International Conference on Information Technology and Applications (ICITA 2013), 6pp., 2013.
- [23] C. Romero and S. Ventura, "Educational Data Mining: A Survey from 1995 to 2005," Expert Systems with Applications 33, pp.135-146, 2007.
- [24] C. Romero, S. Ventura, P.G. Espejo, and C. Hervas, "Data Mining Algorithms to Classify Students," Proc. 1st International Conference on Educational Data Mining (EDM 2008), pp.8-17, 2008.
- [25] 志垣一郎, "学生による授業アンケートと成績の関係," 大阪工業大学紀要理工篇, 第 55 巻第 1 号, pp.1-9, 2010.
- [26] L. Talavera and E. Gaudioso, "Mining Student Data to Characterize Similar Behavior Groups in Unstructured Collaboration Spaces," Proc. Workshop on Artificial Intelligence in CSCL, 16th European Conference on Artificial Intelligence (ECAI 2004), pp.17-23, 2004.
- [27] N. Thai-Nghe, L. Drumond, T. Horvath, and L. Schmidt-Thieme, "Multi-Relational Factorization Models for Predicting Student Performance," in KDD 2011 Workshop: Knowledge Discovery in Educational Data, as part of 17th ACM SIGKDD Conference on Knowledge Discovery and Data Mining, 2011.
- [28] 吉川政夫, 有沢孝治, 川野辺裕幸, 内田晴久, "構造化された授業評価アンケートの開発," 広島大学高等教育研究開発センター大学論集, 第 43 集 (2011 年度), pp.337-351, 2012.

論文

## ウェブ上で提供されている医療・健康情報の実態と 非主題カテゴリへの分類のための考察

石田 栄美<sup>†</sup>

<抄録>

ウェブ上の医療・健康情報の実態調査を行った。2語からなる検索語6種を用いてサーチエンジンで検索した4,762固有URLを対象にしたところ、ポータル、Q&A、ブログなどのサイトが多かった。この中から1,759URLを対象にページの内容を調査したところ、解説・情報提供、日記・雑談、Q&Aなどの内容が多かった。最後に、非主題カテゴリを設定し、1,759ページに非主題カテゴリごとのレベルを付与した。その結果、非主題カテゴリとして、リーディングレベル、客観性・主観性、信頼性に関するカテゴリが有効である可能性が高いことがわかった。

<キーワード> 医療情報、健康情報、ウェブ、非主題カテゴリ、自動分類

## Analysis of Healthcare Information on the Web and Discussion of Non-topical Classification

ISHITA Emi

### 1. はじめに

高齢化社会の進展、健康への関心が高まる一方で、ウェブ(World Wide Web)の普及等により、誰もが比較的容易に情報の入手ができるようになってきた。このような背景の中で、近年、医療・健康情報に対するニーズが高まってきているといえる。公共図書館などでは、これらのニーズに応えるために、医療・健康情報の提供サービスを行っている館も増えている。たとえば、東京都立中央図書館では、健康・医療情報コーナーを設けており、ホームページ上でも健康・医療情報関係のブックリスト、雑誌リストなどを公開している<sup>1)</sup>。その他、鳥取県立図書館をはじめとして、医療・健康情報コーナーや健康情報棚、闘病記文庫などを設けている図書館も多い。米国においても、その情報ニーズは高く、様々な方法により、健康・医療情報に関するサービスを実践している。米国の公共図書館を中心とした健康・医療情報に関する消費者、レファレンスサービス、インターネット上の情報源に関する実態、サービス事例などは『公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド』<sup>2)</sup>に詳しい。少し異なるサービスとしては、ワシントン州シアトルの公共図書館 Beacon Hill 分館が無料のヘルスケアのコンサルティングのセッションを月に1回設けている例などがある。これは、中国人を主とする英語が母国語でない人たちを対象に、SHIBA (Statewide Health Insurance Benefits Advisors) や

CISC (Chinese Information and Service Center) などとの連携・協力をしながら、保険制度に関するコンサルティングや英語以外の言語で対応可能な病院の紹介などを行っているということであった。情報そのものの提供にとどまらず、医療・健康に関わる多様なニーズに応えるための一例であるといえる。

ウェブは、サーチエンジンを用いることで、専門的な情報から一般的な情報まで多種多様な情報を得ることができるだけでなく、専門機関から一般のユーザーまで自由に情報発信ができるメディアである。現在では、ウェブそのものが一つの情報サービスとなっており、ウェブから情報を得ることが一般的な行為として行われるようになってきている。

本稿では、情報ニーズが高いと考えられるウェブ上の医療・健康に関する情報の提供実態を把握し、これらの情報により多面的にアクセスできるような方法を検討する。本研究では、その方法として、非主題カテゴリへの分類の可能性について考察する。

以下では、医療関係機関が作成しているウェブページでどのような内容が提供されていたかを既往調査から概観する。さらに、サーチエンジンから得られる検索結果を対象に、情報提供を行っているサイト、実際に提供されている内容などを調査した結果について述べる。最後に、非主題カテゴリへの分類に対して考察する。

<sup>†</sup> いた えみ 九州大学附属図書館研究開発室研究員 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail:ishita.emi.982@m.kyushu-u.ac.jp

## 2. 医療機関のウェブページの内容分析

ウェブ上の医療・健康情報に関する提供実態は、少し前の調査ではあるが、日本の医療機関を対象に情報の内容を分析した既往研究がいくつかある。碓<sup>3,4)</sup>や橋本ら<sup>5)</sup>は、『関東病院名簿 2001/2003 年版』に記載されていた東京都・神奈川県・千葉県内の全病院のうちホームページを開設していた病院を対象にページの内容調査を行った。その結果、橋本らは、患者への病院のアクセシビリティを高めるための情報や、病院のブランドづくりに関する情報の提供が進んでおり、一方で、医療情報の公開や患者教育情報は1割から2割程度の記載であったことを明らかにしている。なお、この研究での「医療情報の公開」とは、医師の経歴・学歴、人員体制、医療設備の説明、医療成績、費用情報、カルテの開示であり、「患者教育・健康教育」とは、疾患情報、予防・生活管理情報、治療方法情報、患者会情報、他の医学サイトへのリンク、地域連携情報をさしている。本研究で、注目している医療・健康情報は、「患者教育・健康教育」に含まれる情報に近い。

その他にも、歯科医療機関ホームページの掲載情報を調査した例<sup>6)</sup>や全国の保健所のホームページの内容を調査したもの<sup>7)</sup>などがある。自治体のホームページにおける外国人向け医療情報の提供状況を調査したもの<sup>8)</sup>もある。

これらの調査のほとんどは、医療機関を中心にしたものであり、2002年から2003年に発表されている調査事例が多い。新しいものでも2008年である。2002年ごろは、サーチエンジンが今ほど普及しておらず、ホームページに関して、会社や団体などがページを作成し情報を提供することが一般的で、現在のようにブログ、ツイッターを通じて一般の人々が膨大な情報を発信している状況ではなかったといえる。そのため、これらの調査結果と、現在のウェブ上で提供されている情報の様子とは大きく変わっていると推測できる。次章では、サーチエンジンの検索結果からアクセスできる情報に関する調査を行う。

## 3. ウェブ上で提供されている医療・健康情報

### 3.1. 医療・健康情報のウェブページの URL の収集

医療・健康情報については、様々な情報が存在すると思われる。本調査では、内容の多様性に注目するため、主題としては特定の疾患に限定して調査を行う。まずは、医療・健康情報が提供されていると考えられるウェブページの URL を収集した。URL の収集は、2013年2月から3月にかけて、サーチエンジン Google を用いて行った。検索語は、疾患名とその疾患と組み

合わせて用いられると考えられる語の2語を用いた。複数の語を用いたのは、偏りが生じる可能性はあるが、ひとつの検索語の場合だと多くの URL を得ることができないためである。実際に用いた検索語は、「ぜんそく 治療」「ぜんそく 症状」「ぜんそく 原因」「ぜんそく 予防」「小児ぜんそく」「ぜんそく 経験」である。それぞれの検索において、提示された検索結果の上位から URL を収集した。それぞれ894件、851件、951件、1037件、890件、842件の URL が得られ、合計すると5,465URL が得られた（この作業は、検索 API を用いずに手作業で行った）。得られた URL 集合には、重複が含まれていたため、それらを除去した結果、4,762 固有 URL を得た。

### 3.2. 医療・健康情報を提供しているサイト

上で得られた URL 集合に対し、サイトごとに集計した。検索結果に含まれたサイトは1,715種であり、その上位15件までを表1に示す。サイト名は、サイトに表示されている名称である。カテゴリは、著者がそれぞれのサイトを見て判断した。「Q&A」とは、質問者から寄せられた質問に対して回答者が回答できる専門のサイトである。質問者も回答者も、不特定多数の匿名の人が利用できるものである。「ポータル」とは、ぜんそくであれば、ぜんそくの症状、原因、対処法、病院の検索など様々な情報を提供しているサイトのことである。

表1から、もっとも多いのは、Yahoo!知恵袋であり、11位にも登場している。Yahoo!知恵袋での質問には、夜寝ているときは全くでない喘息の原因についてや、気管支喘息の原因や予防について質問している例などがあつた。15位の「AskDoctors」は、医師に相談できる Q&A サイトである。一般の人からの質問に対し、医師からの回答を得ることができる。このサイトには、その他に、病気・症状事典、お薬事典、病院検索などの項目がある。Q&A サイトの中でも、不特定多数の質問者・回答者によって成り立つ Q&A サイトである、OKWave、教えて goo などのサイトも上位にあつた。上位15位のうち Q&A サイトは303件(6.4%)を占めており、ブログよりも大きな割合を占めていた。

ポータルサイトに分類されたサイトのうち、最も多かったのは「ハッピー夫婦ドットコム」のサイトであり、すべて/zensoku 以下のディレクトリに存在していた。このサイトは、医療関係者ではない一般の人が運営しているサイトであり、掲示板を開設するなどして情報交換などをできる場を提供している。6位の「チェンジ喘息！」は、喘息の正しい知識と治療についての総合サイトであり、製薬会社2社が提供、医師が内容について監修している。喘息の治療法、喘息の薬、

表1 医療・健康情報を提供しているサイト

カテゴリ	サイト名	URL	ページ数(割合)	
1 Q&A	Yahoo! 知恵袋	detail.chiebukuro.yahoo.co.jp	132	2.8%
2 ポータル	ハッピー夫婦ドットコム 共働き夫婦の子供のぜんそくにすぐ効いた!生活術	happyfu-fu.com/zensoku	91	1.9%
3 Q&A	OKWave	okwave.jp	64	1.3%
4 ブログ	Livedoor ブログ	blog.livedoor.jp	53	1.1%
5 ブログ	Ameba ブログ	ameblo.jp	52	1.1%
6 ポータル	チェンジ喘息!	naruhodo-zensoku.com	49	1.0%
6 ポータル	喘息の総合情報サイト	zensoku.jp	49	1.0%
8 ポータル	病院なび momo	momo365.jp	48	1.0%
9 ポータル	喘息の原因と治療・総合館	ppaapp.com/zensoku	41	0.9%
10 販売	花粉症予防対策 2013 最新ランキング	kahunbousinm.blog.so-net.ne.jp	39	0.8%
11 Q&A	Yahoo! 知恵袋	chiebukuro.yahoo.co.jp	38	0.8%
11 ブログ	goo ブログ	blog.goo.ne.jp	38	0.8%
13 Q&A	教えて!goo	oshiete.goo.ne.jp	37	0.8%
14 販売	アマゾン	www.amazon.co.jp	34	0.7%
15 販売	Googl ブックス	books.google.co.jp	32	0.7%
15 ブログ	Yahoo! ブログ	blogs.yahoo.co.jp	32	0.7%
15 Q&A	AskDoctors	asthma.askdoctors.jp	32	0.7%

N = 4,762

予防のポイントなどの項目がある。「喘息(ぜんそく)の総合情報サイト」も製薬会社が管理・運営しているサイトであり、成人喘息、小児ぜんそくに関する情報提供や病医院検索を提供したりしている。「病院なび momo」は、全国の女性向け医院・クリニック・病院検索サービスであり、ヘルスケア関係の会社が運営しているサイトである。喘息を診療項目としている病院の情報が検索結果に多く含まれていたため、上位にランクインしたと考えられる。

以上の結果から、現在では、Q&A やブログなどのように不特定多数の人からの情報発信と、ポータルサイトのように、特定の疾患について総合的な情報を提供しているサイトが多いことがわかった。

### 3.3. 医療・健康情報のウェブページの内容

検索語に「ぜんそく 経験」「ぜんそく 原因」「ぜんそく 治療」を用いた検索結果のうち、それぞれ 842 件、951 件、60 件を対象に、重複を除いた 1,837 件のそれぞれのページに対し、内容に関するカテゴリの付与を判定者と著者の 2 名で行った。

調査時点で閲覧できなかったもの、動画などに直接リンクしていたものなどを除き、カテゴリを付与したものは 1,759 件であった。その内訳を表 2 に示す。この調査では、内容を基準に判断したため、サイトがポータルであっても、ページに質問とその回答が掲載されている場合は Q&A とした。

ページ数が最も多かった「解説・情報提供」とは、

ぜんそくに関する症状、原因、治療法などについて解説や説明などを行っているページである。表 1 に示したポータルサイト内のページが多いが、クリニックが開設しているサイトの中にも、診療対象であるぜんそくの説明をしているページがあった。その他にも、大きなポータルサイトではないが、ぜんそくに関する様々な情報の提供をしているサイトからのページも多かった。2 番目に多かったのは「日記・雑談」である。個人的な内容をブログ等に記述している場合はここに含めた。ただし、多くの人の個人的な体験・経験をまとめて紹介しているページなどは「体験談・経験談」に含めた。また、喘息の治療のための薬、プログラム、本、吸入器などの器具の紹介、購入を勧めるページは「商品・製品」に分類した。ぜんそくが治ったという経験を紹介し、治療プログラムの購入を勧めるページが目立った。

全体的に見てみると、疾患に関する解説や情報の提供を行っているページと個人的な情報の共有を目指した「日記・雑談」「掲示板」「体験談・経験談」などのページが多いことが明らかになった。これらのページの多くは、情報を共有し、患者会のようなコミュニティを形成することを目的としたものも多かった。つまり、ウェブ上の情報は、医療・健康に関する客観的な事実を提供するためのページと、個人の経験や体験を共有しようとするページが、主に存在するといえる。

表2 ページの内容  
カテゴリ ページ数 (割合)

カテゴリ	ページ数	(割合)
解説・情報提供	486	27.6%
日記・雑談	383	21.8%
Q&A	184	10.5%
掲示板	90	5.1%
体験談・経験談	90	5.1%
医療機関紹介	87	4.9%
商品・製品	74	4.2%
ニュース	64	3.6%
本	53	3.0%
医師 Q&A	51	2.9%
その他	197	11.2%
合計	1,759	100%

## 4. 非主題カテゴリへの分類に関する検討

### 4.1. 非主題カテゴリへの分類の可能性

ユーザーがある主題に関する情報を見つけない場合、3章の実態調査でも示したように、既存のサーチエンジンをを用いることで多種多様な情報を入手することは可能である。しかしながら、ほとんどのサーチエンジンは、ユーザーが入力した検索語とページに含まれる語の照合や主題的関連を重視しており、どのような読者を想定して書かれたページか、書かれている内容に信頼性はあるのか、客観的に書かれているのか、あるいは主観的に書かれているのかなどは、個々のページをみるまでわからない。たとえば、ぜんそくに関する2つのウェブページがあった場合を想定する。一つは医療機関や専門家がぜんそくの治療法について書いたものであり、もう一方はぜんそくの治療体験について書かれたものであったとする。この場合、ぜんそく患者は、信頼性が低かったとしても、気持ちを共有するために、同じ患者の体験を読みたいと思っているかもしれないし、治療方法を検討している者は、どのような治療法が存在するのか、より専門性の高い信頼できる情報を得たいと思っているかもしれない。つまり、ユーザーによって、同じ主題でも異なる観点から情報を求めているケースが考えられる。もし、テキストにこれらの側面からの情報を付与することができれば、ユーザーは、より多面的な角度から情報にアクセスすることが可能となる。そこで、本節では、主題以外の側面からの付加的な情報を付与すること、つまり主題以外のカテゴリへの分類の可能性について検討する。本稿では、これらをノントピカルなカテゴリ、すなわち、非主題カテゴリと呼ぶ。

以下では、いくつかの非主題カテゴリを対象に、医療・健康情報に対して、実際にカテゴリに関するラベルを付与した結果をもとに、これらのカテゴリが有効

かどうかを検証する。

### 4.2. 医療・健康情報に対する非主題カテゴリの付与

ウェブ上の情報に対して非主題カテゴリの分類を行っている先行研究を参考に、非主題カテゴリとして、「対象とする読者」「リーディングレベル」「客観性」「信頼性」を選定した<sup>9)</sup>。3.3節において調査対象としたURL集合に対して、それぞれのページを見ることにより判断した。「対象とする読者」については、一般人、専門家、子どものいずれかを付与し、他の3カテゴリについては、1から5段階の数字でレベルを付与した。各カテゴリの判断基準については、判定は3人で行ったが、最初に、いくつかのページを対象に判定を行い、その結果をもとに判定者間で合議を行うことにより、判断基準が一定になるようにした。その後、一つのページにつき1人の判定者が判断を行った。

「対象とする読者」の結果を表3に、「リーディングレベル」の結果を表4示す。1,759件中、一般人を読者対象に想定したと考えられるページが全体の96.2%であり、圧倒的に多かった。専門家を対象にしたものは65件(3.7%)あり、これらのほとんどは、研究機関の成果報告のページ、CiNiiの書誌情報、J-GLOBALの文献情報のページであった。子ども用のページと判断されたものは2ページしかなかったが、同じサイトのぜんそくの知識についてクイズ形式で学ぶコーナーのページであった。今回の調査対象には、検索語に小児ぜんそくを用いたこともあり、小児ぜんそくについてのページは多かったが、その多くは家族や親に向けてのページであり、子どもに向けてのページは少なかったといえる。

リーディングレベルについては、全体の84.8%が中程度の知識が必要というレベルに分類されていた。これらのほとんどは、対象とする読者が一般人と評価されたものである。高度な知識が必要と判断されたのは、CiNii等から提供されている論文や医師会が提供している症状の解説などで、専門用語がつかわれている場合が多かった。やや高度な知識と判断されたページは、医師によるQ&Aサイトなどが含まれていた。

客観性に関しては、1,759件のうち、主観的であると判断されたページが最も多く、464件(26.4%)であったが、やや客観的であるページやどちらでもないと判断されたページも同等の割合であった。主観的に書かれているページには、患者の体験談などが多く含まれていた。一方、客観的に書かれていると判断されたページは、医療機関や医師などが作成していると判断できるページが多く、情報提供を目的としたページと考えられるものも多かった。

表3 対象とする読者

ラベル	件数	割合
一般人	1,692	96.2%
専門家	65	3.7%
子ども	2	0.1%
合計	1,759	100%

表4 想定されているリーディングレベル

レベル	件数	割合
1: 知識を全く必要としない	11	0.6%
2: やや知識が必要	29	1.6%
3: 中程度の知識	1,492	84.8%
4: やや高度な知識	123	7.0%
5: 高度な知識	104	5.9%
合計	1,759	100%

表5 主観性・客観性

レベル	件数	割合
1: 主観的である	464	26.4%
2: やや客観的である	428	24.3%
3: どちらでもない	452	25.7%
4: やや客観的である	119	6.8%
5: 客観的である	296	16.8%
合計	1,759	100%

#### 4.3. 非主題カテゴリへの分類に対する考察

本調査で設定した非主題カテゴリが医療・健康情報にとって有効であるか、また、それらを判断するための手がかりとしてどのようなものがあるかについて考察する。

対象とする読者は、そのほとんどが一般人であり、専門家が対象であると判断されたページはわずかである。実態調査からも、サーチエンジンから得られるウェブ上の情報のほとんどは一般の人を対象にしたページであったことから考えると、「対象とする読者」というカテゴリを設定する意義が大きいとは判断できない。

リーディングレベルについては、中程度の知識が必要と判断されたページが最も多いが、高度な知識、やや高度な知識が必要と判断されたページも存在し、ユーザーにとっては読みやすさとも関連するため、これらの付加的な情報が付与されていることは有益であるといえる。また、サイト名等から判断できないものも多かった。リーディングレベルの判定方法については、日本語の医療・健康情報に関する読みやすさの研究がある<sup>10)</sup>。この研究では、読みやすさに影響を与えるものとして、構文、語彙、テキスト構造をあげている。

これらの項目は、リーディングレベルを自動的に判断する際にも用いることができると考えられる。

主観性・客観性に関しては、他のカテゴリほどの偏りもなく、また、実態調査からも主観性を重視したページと客観性を重視したページがそれぞれある程度の割合を占めているため、このカテゴリを付与することは有効であると考えられる。どのように判定するかは、今後の検討が必要であるが、主観的であると判断されたページは、口語体で書かれているものなどが多かったため、文体を用いることが考えられる。

信頼性の判定に関しては、重要な観点ではあるが、実際に判断を行った判定者から非常に判断が難しいという意見があった。その分野の専門家でなければ、本当の信頼性の判断は難しい。ただし、信頼性を自動的に判定する手法がいくつか提案されている。宮森ら<sup>11)</sup>は、信頼性を、情報内容、情報発信者、情報外観、社会的評価という4つの基準で捉えることを提案している。情報発信者については、発信者そのものの信頼度で評価しており、情報外観については、情報ソースや連絡先が明示されているかを基準にし、これらを組み合わせることによって信頼性の評価をおこなっている。寺島ら<sup>12)</sup>は、ウェブサイトの信頼性を判断する際の基準として、制作者、情報根拠、作成・改訂年月日、問い合わせ先の4項目を用いている。信頼性の判断については、ページの管理や制作をしている組織や作成者が明示されているか、何かの情報を提示する際に根拠を示しているか、作成年月日などが明示されているかなどの外的な基準を用いて行うほうが、ページの内容で評価するよりも有効であると考えられる。

#### 5. おわりに

本稿では、ウェブ上で提供されている医療・健康情報の実態調査を行い、また、それらに対して、どのような非主題カテゴリを付与することが有効であり、また現実的であるかを検討した。その結果、リーディングレベルや主観性・客観性、信頼性は、非主題カテゴリとして有効であり、また、自動的に分類を行うために用いることができる手がかりも推測することができた。

本調査は、特定の疾患、特定のサーチエンジン、検索語を用いたものであり、ウェブ全体の様子を表現したものではない可能性もある。今後は調査対象を広げることにより、他の医療・健康に関する情報についても同様のことがいえるか、検証していく予定である。

## 謝辞

本研究は、JSPS 科研 22500220 の助成を受けたものです。

## 参考文献

- [1] 東京都立図書館, “健康・医療情報サービス,” <http://www.library.metro.tokyo.jp/tabid/408/Default.aspx> (参照 2013-06-12)
- [2] アンドレア・ケニヨン, バーバラ・カシーニ (著), 野添篤毅 (監訳), 公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド, JLA 図書館実践シリーズ 6, 日本図書館協会, 東京, 2007.
- [3] 碓朋子, “2001・2001 年の広告規制緩和前後での医療機関の情報提供活動と消費者が参考にする情報源の変化~医療機関ホームページの内容分析と母親の産科選択を中心に,” 経営と情報, vol.16, no.1, pp.27-42, Oct.2003.
- [4] 碓朋子, “医療機関が Web 上で提供する情報内容の変化—医療機関ホームページの 2000 年・2002 年の比較,” 病院, vol.62, no.9, pp.780-786, Sep.2003.
- [5] 橋本栄里子, 和田ちひろ, 碓朋子, “インターネット上の病院の情報発信内容に関する研究: 病院のホームページは患者に何を伝えているのか,” 医療と社会, vol.11, no.3, pp.69-86, 2001.
- [6] 外山敦史, 森田一三, 外山康臣, 中垣晴男, “インターネット検索エンジンに登録されている歯科医療機関ホームページ掲載情報の現状,” 口腔衛生学会雑誌, vol.52, no. 4, pp.500-501, Aug.2002.
- [7] 瀬戸山陽子, 中山和弘, “全国保健所ウェブサイトの情報発信内容とユーザビリティ, アクセシビリティ評価,” 日本公衆衛生学会雑誌, vol.55, no.2, pp.93-100, Feb.2008.
- [8] 佐々木空美, 長松康子, “自治体ホームページにおける外国人向け医療情報の提供状況,” 聖路加看護学会誌, vol.12, no.1, pp.25-32, Mar.2008.
- [9] E. Ishita, “Non-topical Classification for Healthcare Information,” Bulletin of IEEE Technical Committee on Digital Libraries, Vol.5, No.3, Dec.2009. <http://www.ieee-tcdl.org/Bulletin/current/Ishita/ishita.html>, (accessed 2013-06-12)
- [10] 酒井由紀子, “健康医学情報を伝える日本語テキストのリーダビリティの改善とその評価—一般市民向け疾病説明テキストの読みやすさと内容理解のしやすさの改善実験,” Library and information science, vol.65, pp.1-35, 2011.
- [11] 宮森恒, 赤峯亨, 加藤義清, 兼岩憲, 角薫, 乾健太郎, 黒橋禎夫, “情報の信頼性分析に向けた評価データおよびプロトタイプシステム WISDOM,” 情報処理学会研究報告. 自然言語処理研究会報告, vol.2007, no.76, pp.103-108, Jul.2007.
- [12] 寺島朝子, 町田絵里, 山形真一, 望月眞弓, 佐藤信範, 上田志朗, “医療関連情報の検索におけるインターネットの利便性および Web サイトの信頼性に関する調査: 高齢心筋梗塞患者に対する薬物治療について,” 医療情報学, vol.21, no.6, pp.435-443, Feb.2002.

報告

本を通して仲間を知る  
—コアセミナーでの試み—

副島 雄児<sup>†</sup> 田尾 周一郎<sup>‡</sup> 平井 康丸<sup>§</sup> 金山 素平<sup>\*\*</sup> 木村 俊道<sup>††</sup>

堀 優子<sup>‡‡</sup> 井川 友利子<sup>§§</sup> 大村 武史<sup>\*\*\*</sup> 宮嶋 舞美<sup>†††</sup> 工藤 絵理子<sup>‡‡‡</sup>

<抄録>

九州大学の全学教育科目「コアセミナー」は、各学部が必要とする初年次教育の実施を目的として設定され、学部ごとに特徴的な内容と方法を取り入れたセミナーが実施されている。今回、特色ある試験的な取り組みとして、九州大学附属図書館との連携によって、コアセミナーへのビブリオバトルの導入を行った。

受講学生へのアンケート調査の結果から、「読む」、「伝える」、「聴く」などのスキルアップについての成果、「関心の広がり」、「コミュニケーション力の増加」、「人に対する興味・関心の深まり」などの内面的な側面に対する成果などを見てとることができるなど、初年次教育の教材としての有効性を確認することができた。

今回の取り組みは、学部担当教員と附属図書館職員との教職連携による教育現場での実践例として、今後の教育改善や教育開発研究に参考となることが期待される。

<キーワード> ビブリオバトル、コアセミナー、初年次教育、情報リテラシー、教職連携、授業改善、教材開発

Let's Know about Your Classmates through their favorite books  
— A Trial in Core-Seminar —

SOEJIMA Yuji TAO Shuichiro HIRAI Yasumaru KANAYAMA Motohei KIMURA Toshimichi  
HORI Yuko IKAWA Yuriko OMURA Takeshi MIYAJIMA Maimi KUDO Eriko

1. はじめに

九州大学の全学教育科目「コアセミナー」(1年次前期開講)は、各学部が必要とする初年次教育の実施を目的として設定され、学部ごとに特徴的な内容と方法を取り入れたセミナーが実施されている。多くの学部および学科やコース、あるいはプログラム(以下、学科等も含めて学部と記載)で、学生の少人数グループ分けを行い、グループ数に応じた複数の教員がコアセミナーを担当している。教員ごとに用意した初年次教育としてのセミナーテーマを、学生グループが巡回する形式で実施している学部や、あるいは、教員とグル

ープが固定されて半期のセミナーを実施している学部もあるなど、学部ごとに学生数規模や、学部の初年次教育としてふさわしい実施の形態が採られている。

初年次教育としてどのような題材やテーマがふさわしいかは、学部ごとにそれぞれ異なるが、どの学部でも、高校での学習から大学での修学への移行を意識して、“自ら学び修める”ことを意識していると思われる。そのためには、自発的な学修のための技能(リテラシー)の獲得が必要で、セミナーでの学修を支える技術サポートが必要となる。例えば、九州大学附属図書館では、情報リテラシー教育の一環として、「大学図書館活用セミナー」(以下、活用セミナー)や「オンデマン

<sup>†</sup> そえじま ゆうじ 九州大学基幹教育院特別プログラム推進部教授 (〒819-0395 福岡市西区元岡 744 番地)

E-mail: okosoe@artsci.kyushu-u.ac.jp

<sup>‡</sup> たお しゅういちろう 九州大学基幹教育院特別プログラム推進部助教 (〒819-0395 福岡市西区元岡 744 番地) E-mail:

tao@artsci.kyushu-u.ac.jp

<sup>§</sup> ひらい やすまる 九州大学農学研究院環境農学部門准教授 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: hirai@bpes.kyushu-u.ac.jp

<sup>\*\*</sup> かなやま もとへい 九州大学農学研究院環境農学部門助教 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: motohei@bpes.kyushu-u.ac.jp

<sup>††</sup> きむら としみち 九州大学法学研究院政治学部門教授 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: kimura@law.kyushu-u.ac.jp

<sup>‡‡</sup> ほり ゆうこ 九州大学附属図書館利用支援課 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: hori.yuko.993@m.kyushu-u.ac.jp

<sup>§§</sup> いかわ ゆりこ 同利用支援課サービス企画係 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: ikawa.yuriko.308@m.kyushu-u.ac.jp

<sup>\*\*\*</sup> おおむら たけし 同伊都地区図書館企画運営係 (〒819-0395 福岡市西区元岡 744 番地) E-mail: omura.takeshi.802@m.kyushu-u.ac.jp

<sup>†††</sup> みやじま まいみ 九州大学情報システム部情報基盤課デジタルライブラリ担当 (〒812-8582 福岡市東区馬出 3 丁目 1-1)

E-mail: miyajima.maimi.313@m.kyushu-u.ac.jp

<sup>‡‡‡</sup> くどう えりこ 九州大学附属図書館 e リソースサービス室 e リソースサポート係 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1)

E-mail: kudo.eriko.044@m.kyushu-u.ac.jp

ド講習会」(以下、講習会)を提供し、各学部のコアセミナーでの利用の呼び掛けを行ってきた。特に、各学部が必要と考える情報リテラシーの内容に応じて、教員との事前打合せによる活用セミナー/講習会の内容をアレンジすることができるのが特徴である。これまでに多数の実施実績を残しており、平成18年度の「活用セミナー」開始時の受講学生数401人に対し、平成23年度は「活用セミナー」2,631人、「講習会」906人となっている。附属図書館の情報リテラシー教育への取り組みとその開発研究については文献[1]に詳報されている。このような技術サポートは、コアセミナーの実施にあたって、必要且つ有効なものとなっており、部局間連携による初年次教育への取り組みとしても意義は大きいと考えられる。

コアセミナーの第一目的である、学部あるいは学科における“自ら学び修める”姿勢の修得以外に、当該学部学生の“まとまり”や“連帯意識”の啓発、あるいは、当該学部学生として求められる“人材像”の自覚など、コアセミナーには第二の目的も設定することができる。第二の目的達成のために、セミナー内容にはさまざまなテーマ設定や教材開発などが考えられるが、コアセミナー担当者単独(あるいは学部独自)の力量の範囲では、アイデアの抽出(テーマ設定)、アイデアに基づく実施計画の策定、計画に基づく実行(教材開発)には限界がある。

このような中、技術サポートに留まらず、初年次教育への部局間連携による質的改善への取り組みとして、附属図書館から「ビブリオバトル」[2]の導入への働きかけが進められている。ビブリオバトルは、“人を通して本を知る・本を通して人を知る”ことがキャッチフレーズとして挙げられている。図書館側の立場からは、活字離れの阻止と活字文化の維持、図書館の利用促進など、ビブリオバトルの浸透と普及には多大な効果や影響を期待していることは言うまでもないが、一方、ビブリオバトルの教材は本であるが、そこに“人”が介在する点では、上記コアセミナー第二の目的の観点から、ビブリオバトルはコアセミナーに適合した教材となり得る可能性が高いことが期待される。

附属図書館からの働きかけによるコアセミナー担当教員への説明や十分な事前打合せを経て、平成23年度の法学部と農学部(いずれも、コアセミナーの特定の少人数グループ)、および21世紀プログラム(以下、21cp)のコアセミナーで扱う一つの教材として、ビブリオバトルを導入した。もちろん、試験的な取り組みとしての位置付けであり、受講学生へのアンケート調査などを計画的に行い、コアセミナー導入の効果等を検証できるようにした。この報告では、21世紀プログラムでの導入を中心に、ビブリオバトルの実施状況

やアンケート調査結果等を紹介し、これによって、今後の初年次教育、ひいては平成26年度から開始されるアクティブラーナーの育成を目指す基幹教育への応用について、その素材を提供できればと期待する。なお、アンケート調査は、初めてのビブリオバトル発表時(事前アンケート)、2回目の発表時(中間アンケート)、コアセミナー終了時(事後アンケート)に実施した。

## 2. ビブリオバトルの実施形態

コアセミナーは1年次前期に開講され、基本として1コマ90分×15週で開講する2単位の科目である。募集人員26人(平成23年度入学生数は28)の21cpの個々の学生は、自らの関心に基づき独自のカリキュラムを構築するため、21cpに共通する専門性や学問分野が特定されない。このために、21cpでは、従来「読む・書く・発表する」を基本としたコアセミナーを実施していたが、低年次(1・2年次)専攻教育として開講しているジュニア・ゼミとの内容的な重複があるため、コアセミナーの位置付けと目的を再検討し、ジュニア・ゼミとの差別化を図ってきた。この中で、上述したコアセミナーの第二の目的のうち、「当該学部学生の“まとまり”や“連帯意識”の啓発」については、学問分野に依存するテーマ設定ではなく、方向性は異なるが「同じ志を持ち、互いに切磋琢磨する」集団としての意識付けを行うテーマを模索していた。このためには、学生間の“人”としての相互理解や、自分を知らせるための自己表現力、相手を知るためのコミュニケーション力の啓発を促す仕掛けが必要であり、ビブリオバトルの導入を行うに至った。

28人の学生をA～Dの4グループに編成し、グループごとに表Iに示すスケジュールで実施した。したがって、1グループは6または7人である。ゼミの最初に5分程度の打合せとグループの教室移動、一人5分の発表と2～3分の質疑応答で60～70分、チャンプ本の投票などで10～15分程度を見積り、1コマ90分の講義として丁度良い時間配分とした。

表I ビブリオバトルの実施内容とスケジュール

月日	内容	実施方法	
5月10日	ビブリオバトルの説明	説明担当：図書館職員	
5月31日	第1回練習戦	Aグループ(発表) ×Bグループ Cグループ(発表) ×Dグループ	発表者に事前アンケート実施
6月7日	第2回練習戦	Aグループ ×Bグループ(発表) Cグループ ×Dグループ(発表)	

6月14日	練習戦で紹介した本の書評作成		
6月21日	第1回決選	Aグループ(発表) ×Cグループ Bグループ(発表) ×Dグループ	発表者に中間アンケート実施
6月28日	第2回決選	Aグループ ×Cグループ(発表) Bグループ ×Dグループ(発表)	
7月5日	最終決選	各グループのチャンプ本と準チャンプ本(総計8冊)	全員に事後アンケート実施

最終決戦(7月5日)は伊都地区センター2号館の喫煙天空広場 Q-Commons を利用し、広場にいる学部学生も観戦可能とした。最終決戦をオープン形式で実施したのは、発表者が発表を公開している意識を持ち、より真剣に取り組む意識を持つこともねらったためである。図1に、ビブリオバトル実施の様子を示し、資料1に、ビブリオバトルで取り上げられた本を掲載した。



図1 ビブリオバトルの実施風景

### 3. アンケート調査の結果 (21cp)

ビブリオバトルへの取り組みに際し、受講学生の意識がどのように変化するかを明らかにするために、事前、中間、事後アンケート調査を実施した。以下、ビブリオバトルに初めて取り組んだ練習戦時(事前アンケート)、および2回目に取り組む決選時のアンケート

結果(中間アンケート)の比較を21cpについて抜粋して考察し、受講生のビブリオバトルへの取り組み姿勢や成果について比較する。

#### 3.1. 紹介した本について

ビブリオバトルで紹介する本について、さまざまな条件やテーマを設定することは可能であるが、21cpでは学生個々の関心や問題意識を固定化することを避けるために、敢えて条件やテーマは一切設定しなかった。したがって、発表者が準備する本は、発表者の観点で自由に選択したと思われる。図2に、質問枝1-2「なぜその本を選びましたか(複数回答可)」の結果を示した。

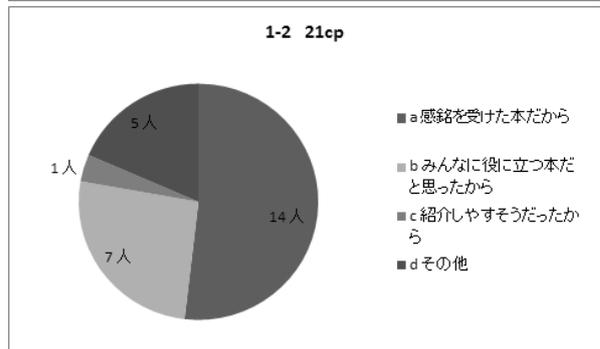
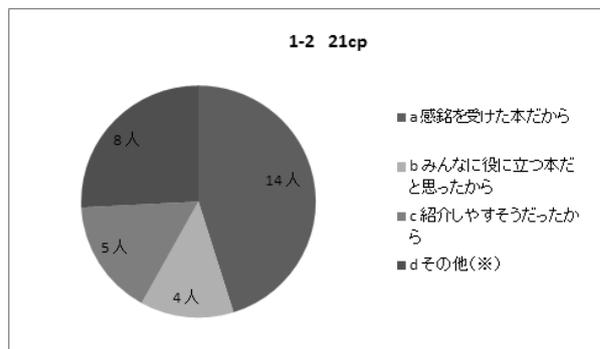
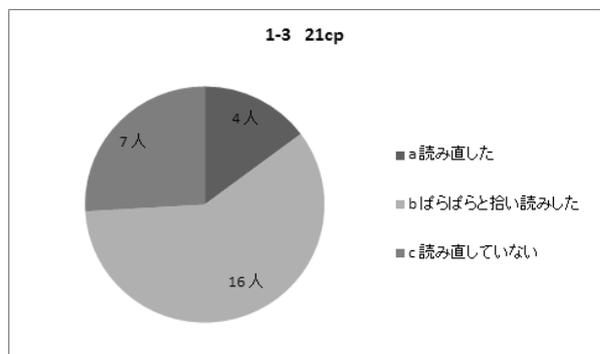


図2 質問枝1-2本の選択理由  
上：事前アンケート 下：中間アンケート



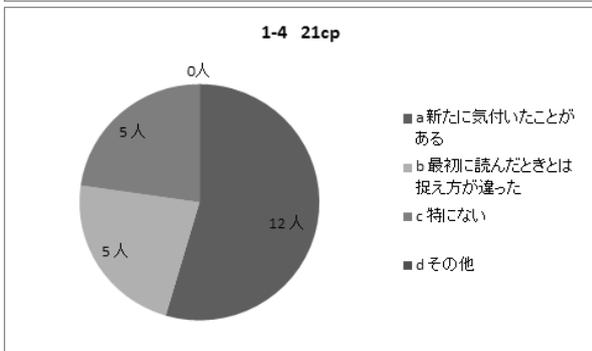
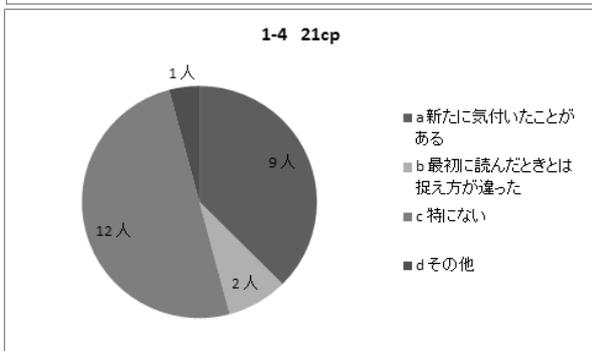
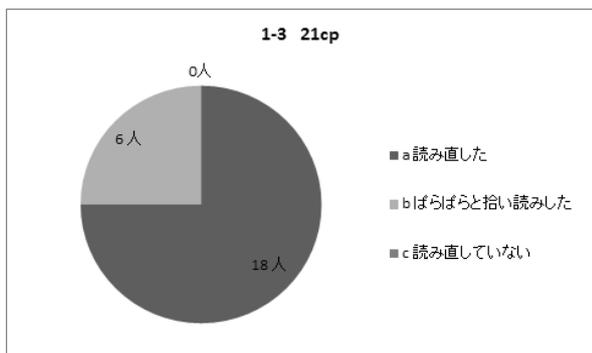


図3 質問枝 1-3, 1-4 に対する回答の変化

図2に見られるように、最初は、特に意識をせずに(c.紹介しやすそうだったからとd.その他)本の選定を行った割合は40%程度に上るが、中間アンケートでは15%程度に激減する。このことは、ビブリオバトルで紹介する本について、なぜ紹介するのかという発表者の意義や価値付けが向上したことを示している。また、(b.みんなに役に立つ本だと思ったから)が大幅に増えていることに注目したい。

その他、回答枝 1-3「紹介するにあたり、その本を読み直しましたか」、回答枝 1-4「読み直して新たな発見がありましたか」についても、有意な変化が見られている。(図3)

中間アンケートでのみ質問している質問枝 1-5。「練習試合の時と比べて、紹介する本を選ぶポイントは変わりましたか」、および質問枝 1-6「前項で a と答えた方、どのように変わりましたか」については、図4および表IIに示すような結果を得ている。この結果は、ビブリオバトルを経験すると、約30%の発表者は、発表に関して質的な変化を受けていることを示している。

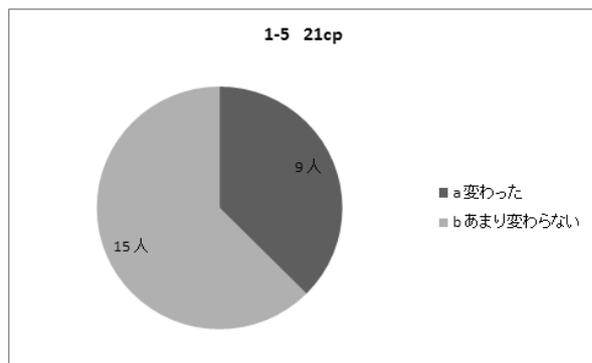


図4 質問枝 1-5 (中間アンケート)

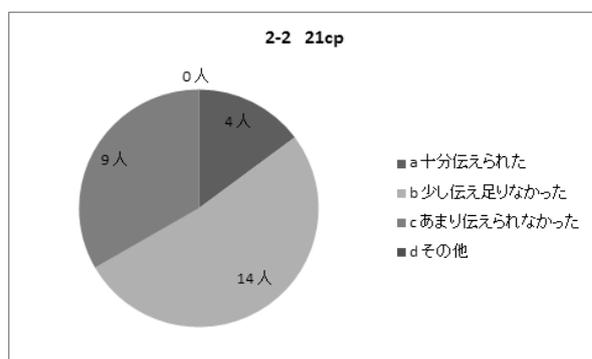
表II 質問枝 1-6 (中間アンケート) の記述回答

自分が好きなことではなく、みんなの役に立ちそうなものを選んだ/みんなが興味のある本を選んだ/話の組み立てができた/話せる内容が豊富になった/できるだけ学術的な本をえらぼうとした/もっと真剣にとりくんだ/ナゾをのこすようにした/紹介することを考えて選んだ/聞く側の心境を考えた/内容だけでなく、作者の視点から何が言いたいのかをとらえるようにした。

### 3.2. 発表について

発表についての変化では、特に発表準備と発表の達成度について比較を行っている。発表準備については、質問枝 2-1「あらかじめ話す内容を原稿にしましたか」について「本番出たとこ勝負」が事前アンケートで約45%であったのに対し、中間アンケートでは約15%に減少していた。ビブリオバトルでの発表の難しさを経験し、多くの発表者が発表へ向けての準備に取り組んだことがわかる。

一方、質問枝 2-2「自分の伝えたかったことは伝えられましたか」についての結果を図5に示した。この結果からわかるように、発表の準備に対して、その効果はほとんど変わらないことがわかる。このことは、準備の状況によらず、その成果は十分に得られなかったと受け取る発表者が多いことを示している。ビブリオバトルの発表に対する上達感、1回や2回の経験では得られにくい。



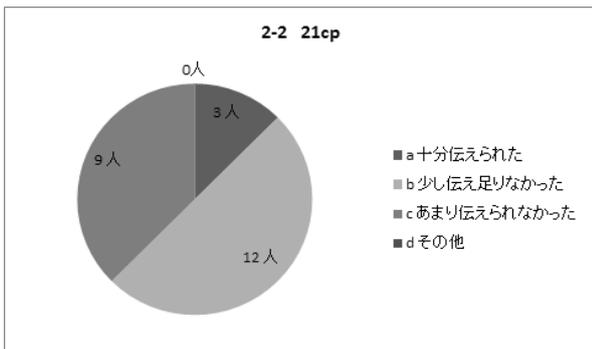


図5 質問枝 2-2 に対する回答の変化

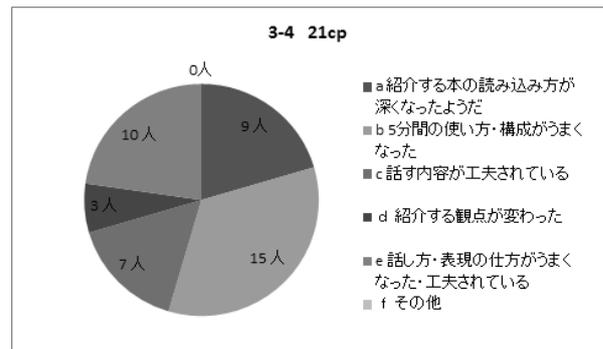
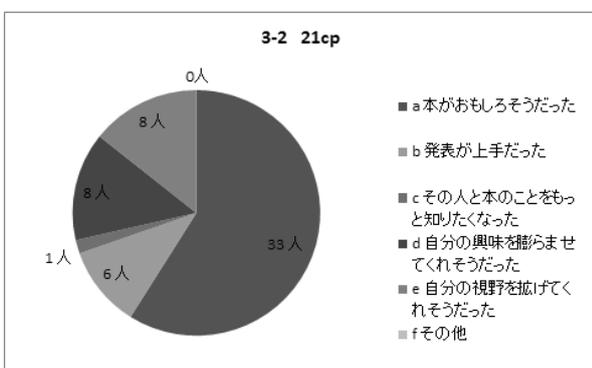


図6 質問枝 3-2, 3-4 に対する回答

実際に、質問枝 2-5「今回発表するにあたり、ステップアップの目標を決めましたか」については、約70%の発表者が2回目には目標を定めて取り組んでいるが、質問枝 2-6「その目標は達成できたと思いますか」については、目標が達成できたと考える発表者は50%に満たない。

### 3.3. 他人の発表を聞いて

ビブリオバトルの参加者として、どのような基準でチャンプ本の投票を行ったかについては、質問枝 3-2「一番読みたくなった」決め手は？（複数回答可）によって明快に示されている。約半数を占めるのが「本が面白そうだった」で、次いで、「自分の興味を膨らませてくれそうだった」、「自分の視野を広げてくれそうだった」となる。（図6の上図）このことは、ビブリオバトルの参加者が、純粋に本に対する興味を掻き立てられていることを示していると思われる。また、発表者の1回目の発表からの変化に対しては、質問枝 3-3で約60%の発表に変化があったと回答し、そのうち、質問枝 3-4「どのような変化を感じましたか（複数回答可）」では、図6の下図に示すように、5分間の時間の使い方の上達、表現の上達など、回答者一人がおおよそ2つ以上の上達した変化を挙げている。これは、質問枝 2-6でみた自己評価の低さに対して、他者の評価が高くなっていることを示している。1回や2回の発表経験では自己評価は上昇しないものの、実際には2回目の発表は確実に上達していることが伺える。



質問枝 3-5 と 3-6 は、発表の視聴者としての自己評価を問うている。約半数の視聴者が自分の聴き方に変化があったと回答し、それらはほぼ同等（つまり25%ずつに分散）に、a.本の内容について深く考えた、b.発表者の考えや背景に思いをめぐらした、c.発表者の表現力について気づきがあった、d.興味・関心に広がりを持った、となっている。質問枝 3-2（図6）に見られるように、読みたくなった本の選定にあたっては、視聴者が純粋に本に対する興味を示している結果に対して、本の選定理由とはならないにしても、(b.発表者の考えや背景に思いをめぐらした)のように、発表者についての興味・関心を感じている状況があることを示しているのは興味深い。

## 4. 事後アンケート調査の結果（法学部・農学部・21cp）

次に、ビブリオバトルをコアセミナーに導入した法学部（15人）、農学部（14人）、21cp（28人）について、事後アンケートの調査結果の比較を行ってみる。ここでは、学部によって顕著な差異が見られるものを取り上げる。ただし、法学部では、ビブリオバトルの本の選定に対して政治学・法学の古典・名著を指定している。また、農学部では“世界”というテーマを設定し、“世界”をどのように解釈するかは発表者の判断にゆだねた。

質問枝 2-1「これまで興味なかったジャンルの本に関心を持つようになりませんか」についての結果を図7に示す。法学部、農学部では、「c.関心を持ち、これから読んでみたいと思う」という回答が目立っており、ビブリオバトルを通して関心の広がりを持った受講生が多い。これから、その本を読んでみたいと答えており、「人を通して本を知る」効果が十分に現れている。一方、21cpでは、関心を持った本をこれから読もうとするのと同様に、既に読んでいる（回答枝のa.とb.）受講生がいることが特徴と言える。

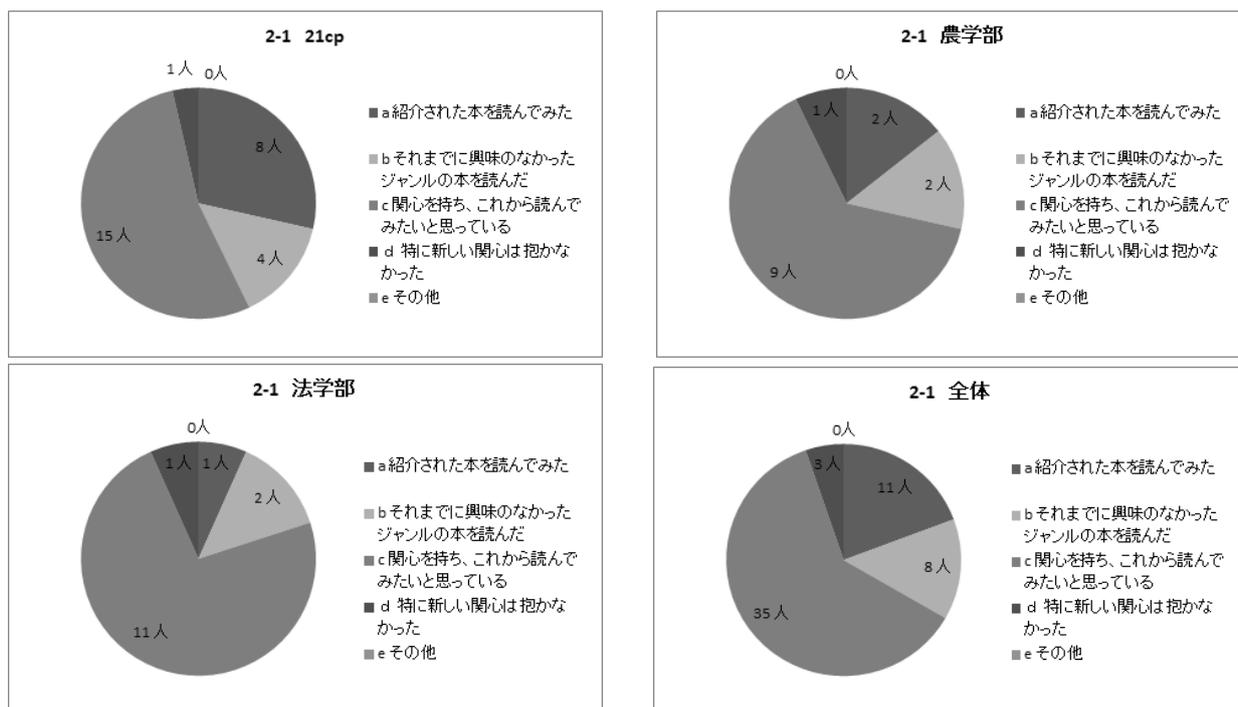


図7 質問枝 2-1 の学部別の結果

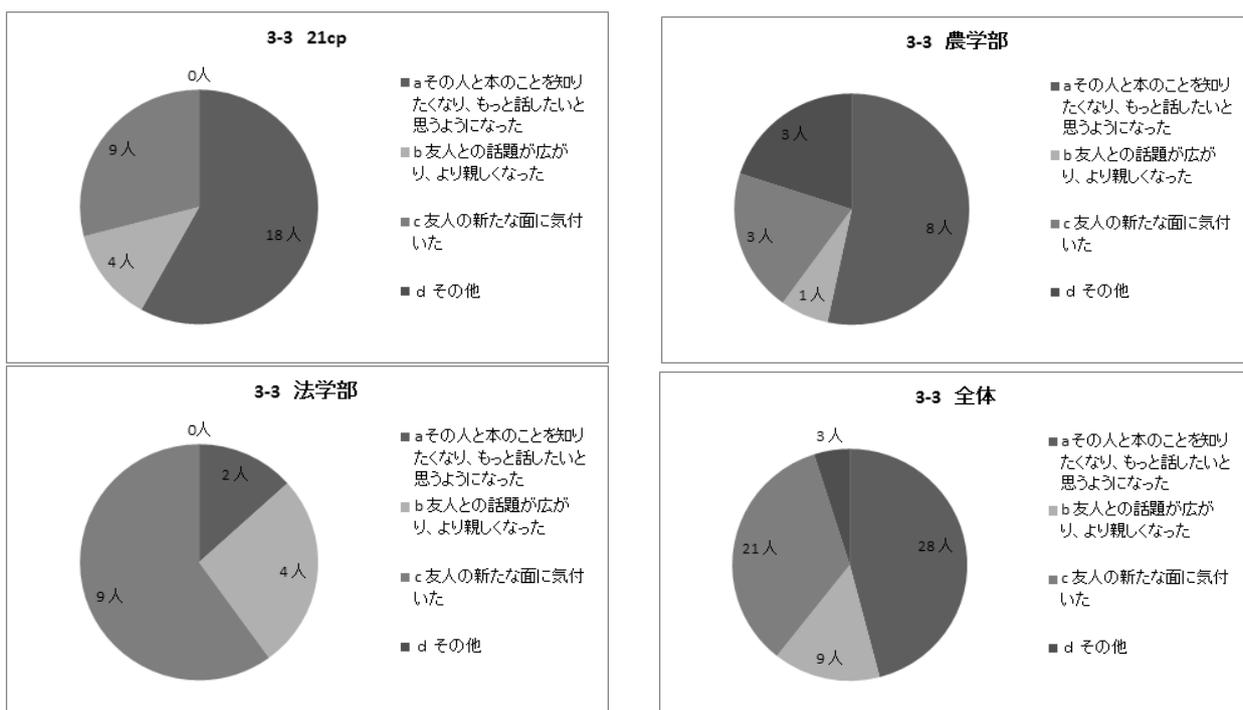


図8 質問枝 3-3 についての回答

質問枝 2-2「これまでに興味のなかったことや話題、問題等に関心を持つようになりましたか」については、法学部で約 80%，農学部で約 70%，21cp で約 90%の受講生がポジティブな回答（回答 a., b., c.）を行っており、ビブリオバトルを通して変化した自分について、自己評価が高い。

質問枝 3-3「友人の読んだ本のお話を聞いて、よりその友人に興味を持ったことがありますか」については、

図 8 に示すような結果が得られている。農学部、21cp では、「a.その人のことをもっと知りたくなった」が半数を超えており、また、法学部では「c.友人の新たな面に気付いた」が半数を超えている。前者は人に対する興味・関心が深まっていることを、後者は、それが新たな発見として意識されていることを示していると思われるが、いずれにしても、「本を通して人を知る」が達成されていると言える。

質問枝 4-1「人前で話すのは得意ですか」についての結果を図9に示す。法学部、農学部が大学生の一般的な状況と思われるが、苦手意識を持つ学生が多い。また、質問枝 5-2「どんなジャンルの本を読みますか（複数回答可）」では、それぞれの学部の特徴を示しているように思われる。（図10）すなわち、21cpではかなり広い範囲にわたっていることがわかる。興味深いのは、法学部では「b.人文科学、c.社会科学」よ

りも「d.サイエンス/テクノロジー」が多く、逆に、農学部では「d.サイエンス/テクノロジー」よりも「b.人文科学、c.社会科学」が多いことである。このことは、読書が大学での専門分野や修学分野とは無関係で、むしろそれらから解放される自由な時間として使われていることを示しているのかもしれない。

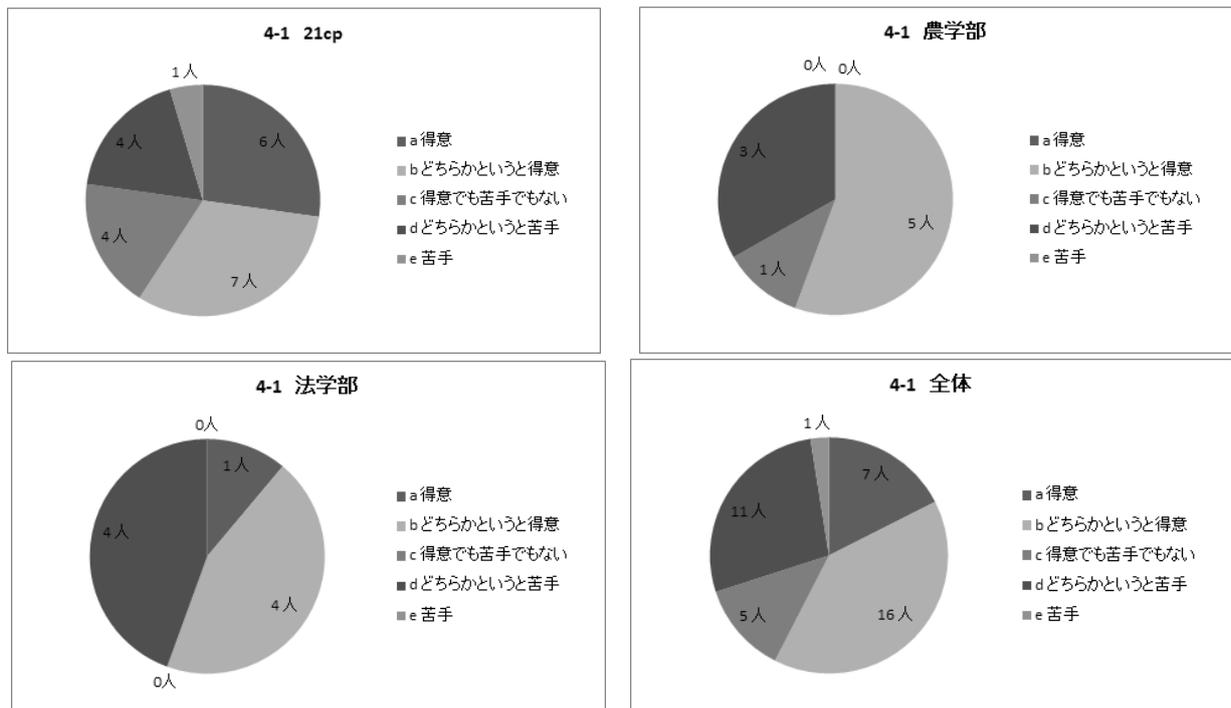


図9 質問枝 4-1 についての回答

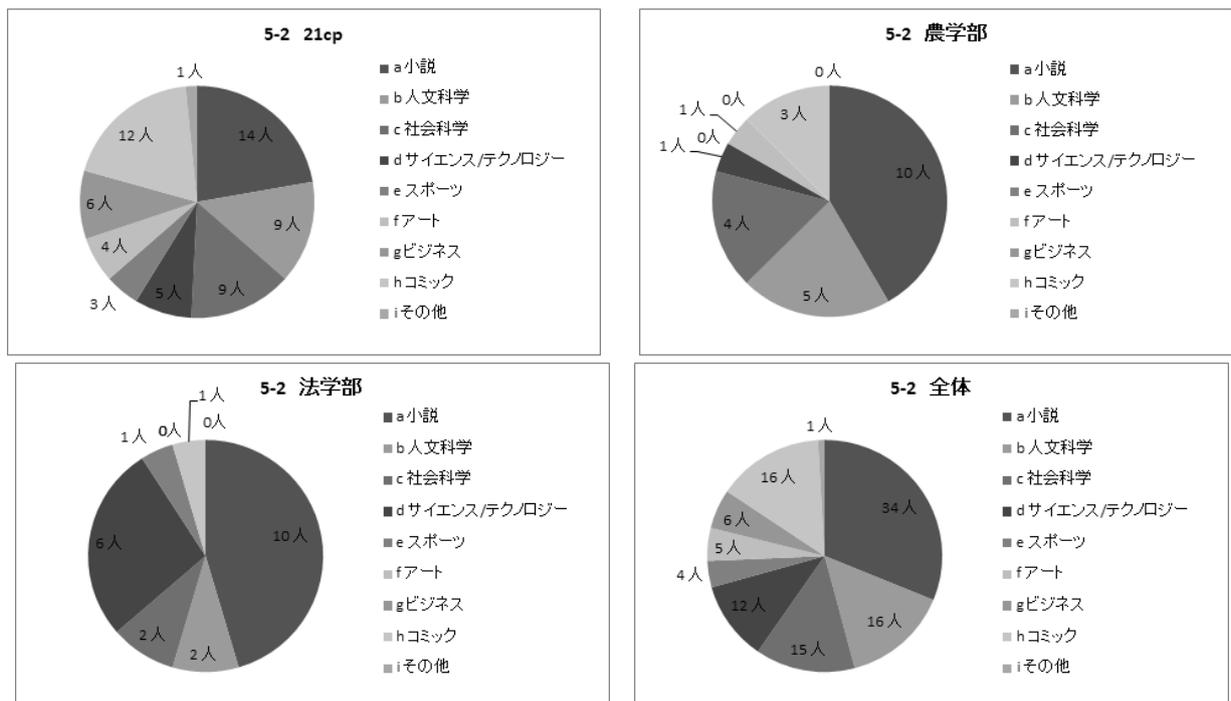


図10 質問枝 5-2 についての回答

## 5. 総合評価について

ビブリオバトルの導入について、コアセミナーとしての効果を検討する。初めに述べたコアセミナーの第二の目的、「学生の“まとまり”や“連帯意識”の啓発」に関して、コアセミナーを導入した担当教員へのアンケート調査では、次のような意見が寄せられている。

○ビブリオバトルを取り入れたことで、授業（またはクラス）として効果があったと思われる点

- ・自分の考えや調べた内容を人に伝えるスキルが改善された。（農）
- ・通常の演習と異なる課題の設定、セッティング、プレゼンテーションによって、演習の雰囲気が変わり、ゼミ生同士のコミュニケーションが以前に増して豊かになった。何よりも（学生の）表情が良くなった。（法）
- ・アンケート調査結果には直接現れてこないが、クラス内での学生同士の相互理解が深まったことが、学生達の日常の行動や会話等から感じとられる。付加的な成果として、教員が学生一人一人の考えや興味・関心を知ることができ、今後の修学指導に有益であろうと思われた。（21cp）

○今回の取り組みに関しての意見や感想、図書館への要望など

- ・受け身になりがちな講義が多い中で、学生が能動的に学ぶいい機会だった。（農）
- ・ビブリオバトルは、「動き」のある「ソフト」な取り組みと思うが、ただ面白いだけでなく、それがとくに高年次以上における「ハード」な論文発表や研究報告にうまくつながるような、それなりの緊張感と静かな喜びが伴う学問の世界の入口になればと思う。（法）
- ・通常は発表することに重心を置きがちだが、人の発表を（聴者が発表者の発言の行間や背景を想像する力をフル稼働させて）聴くことに対して、通常のゼミ等の発表よりも効果的な教材であったと思う。（21cp）

○（本の選定について）テーマを設定したことで、効果があったと思われる点

- ・（農）ゆるやかなテーマ設定「世界」  
ゆるやかなテーマ設定は、各学生がそのテーマをどのようにとらえるか様々であったので、学生が人によって様々などらえ方をすることを知らない機会になった。
- ・（法）ハードルの高いテーマ設定「政治学・法学の古典・名著」

演習自体の目標設定によって変わってくるかと思うが、ハードルを上げることによって、九大生の高い潜在的な能力を「潜在」させずに引き出すことができたと思う。ただ、問題はそれが以降も持続するかどうか。

- ・（21cp）テーマ設定はなし  
今回はテーマ設定を行わなかったが、その分、学生個々の個性あふれる本が選定されて、バラエティーに富んだビブリオバトルとなった。

○更に効果を上げるため、または、更におもしろくするための意見やアイデア

- ・どこに効果を求めるかによるが、コミュニケーションスキル重視なら現状の取り組みやすい方法が良い。もし、読む力の向上を期待するなら、皆が同じ本を読んで理解度を比較するなどする必要もあるかもしれない。（農）
- ・観客が限られてしまうが、九大は総合大学なので、政治学や法学といった分野別のバトル（で他分野の人にその面白さを伝える）や、テーマを専門的なものに絞って、たとえば「丸山真男の必読書ベスト5」などがあっても良いと思う。（法）
- ・クラスの中で閉じたビブリオバトルだけではなく、例えば最終戦はオープン形式で行い、見知らぬ多くの視聴者にさらされた方が、発表者にはより効果的な経験になると思われる。ビブリオバトル導入クラスが図書館で合同開催を試みるなどの連携は有効かもしれない。（21cp）

ビブリオバトルを通して得られる能力の向上については、表Ⅲに示すような総合評価が得られている。教員の印象からの回答ではあるが、この評価結果は、前述した学生のアンケート調査からもその妥当性を窺うことができる。

表Ⅲ ビブリオバトルで習得される能力についての総合評価  
(◎そう思う ○まあそう思う ×そう思わない △わからない)

	農学部	法学部	21cp
よむ力(内容を深く読み込む)	×	○	△
伝える力(何を伝えるか)	○	◎	○
伝える力(どうやって伝えるか: 話の構成, 話し方)	○	◎	◎
興味・関心の拡大	◎	○	◎
コミュニケーション力・コミュニケーションの円滑化	○	◎	○

21cp は、募集人員すべてがセンター試験を課さないAO入試である。合格発表は11月に行われるため、4月の入学までの期間に、入学前学習課題を提示し、入

学前の1月～3月に、いくつかの種類の学習成果を報告しなければならない。課題の中には、必ず読書とその書評執筆（あるいは読書感想を含むレポート）を取り入れている。学生個々の書評に対しては、入学後にコアセミナーを利用して、担当教員からのコメントと総評を還元している。ビブリオバトルは、この課題に続く、応用編的な位置づけとして実施することができた点は、教材としても優れていたと思われる。

学部ごとの単独の取り組みとしては、なかなか手が付けられない新しい試みを、今回は附属図書館等の連携によって試行したことは、学部と附属図書館の双方にとって有益な試みとなったことは間違いない。また、筆者らは、ビブリオバトルを実施した時点で、集会を持ち情報交換会を開催したことも付記する。

## 6. おわりに

この取り組みは、主として附属図書館の職員を中心に学部教員との連携によるが、同時に、読売新聞社および活字文化推進協議会事務局の多大な支援を受けて実施した。ここに謝意を表す。また、21cpでは、引き続き1年次後期に読売新聞社が提供する「よみサポプログラム」（朝刊の学生への無償提供と、新聞を教材としたジュニア・ゼミでの講演会の開催提供）を受け、最終的には、池上彰氏の公開講演会をゼミの一環として開催していただいた。読売新聞社の多大なるご協力に感謝するとともに、大学初年次教育および高等教育への関心と、貢献に敬意を表す。

今後、更に新たな取り組みへの意欲を持ち続けるとともに、今回の成果を広く大学の教育へ普及、浸透させる取り組みを継続したい。

## 参考文献

- [1] 兵藤健志, 天野絵里子, 中園晴貴, “大学図書館活用セミナーをリデザインする”, 九州大学附属図書館研究開発室年報 2011/2012, pp.24-31, 2012.
- [2] ビブリオバトルについては、以下を参照  
知的書評合戦ビブリオバトル公式ウェブサイト。  
<http://www.bibliobattle.jp/>, (参照 2013-06-03).

※すべてのアンケート結果をご覧になりたい方は、九州大学附属図書館利用支援課、堀優子にご連絡ください。

※ビブリオバトルの記録は以下を参照。21cpのトーナメント戦、農学部の実践編は動画も同サイトに掲載している。

九州大学附属図書館. “九州大学ビブリオバトル”. Cute.Guides. <http://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/bibliobattle>, (参照 2013-06-03).

資料1 ビブリオバトルで取り上げられた本(☆印はチャンプ本. ★印は最終決戦でのチャンプ本)

## ■ 21世紀プログラム

### 練習試合

A班		物理学と神
	☆	日本国家再建論: 国民を欺き続ける国家の大罪 / 中西輝政, 田母神俊雄著
	☆	江戸川乱歩傑作集「人間椅子」
		貧困大国アメリカ / 堤未果著
		暁のひかり / 藤沢周平著
		笑う入試問題 / 新保信長著
		セレディピティ / マーク・クライン脚本
B班		ソーシャルビジネス革命: 世界の課題を解決する新たな経済システム / ムハマド・ユヌス著
		生物と無生物のあいだ / 福岡伸一著
		人の心がまるごとわかる心理学 / 植木理恵著
		無限論の教室 / 野矢茂樹著
	☆	墮落論 / 坂口安吾著
		みじかい命を抱きしめて / ロリー・ヘギ著
		白洲次郎: 占領を背負った男 / 北康利著
C班		プリンセスヨミ / 万城目学著
		聖徳太子「十七条憲法」を読む: 日本の理想 / 岡野守也著
		日本語教のすすめ / 鈴木孝夫著
		ストーリー・セラー / 有川浩著
		生きながら火に焼かれて / スアド著
	☆	モリー先生との火曜日 / ミッチ・アルボム著
		食欲と性欲: 照沼ファミリーのワンダーランド / 照沼ファミリー著
D班	☆	青年は荒野をめざす / 五木寛之著
		グミ・チョコレート・パイン(グミ編) / 大槻ケンヂ著
		アジアタムブルー / 大崎善生著
		大人もぞっとする初版『グリム童話』 / 由良弥生著
		ビジネスマンのための「人物力」養成講座
		アルジャーノンに花束を / 小宮一慶著
		おもてなしの経営学 / 中島聡著

### トーナメント戦

A班	☆	科学と人間の不協和音 / 池内了著
	☆	なぜ日本の教育は変わらないのですか? / グレゴリー・クラーク著
		くるぐる使い / 大槻ケンヂ著
		憲法の力 / 伊藤真著
		歴女カオルの「良いお金」と「悪いお金」の経済学 / 町井登志夫著
		セックス神話解体新書 / 小倉千加子著
		蜘蛛の糸・杜子春・トロッコ / 芥川龍之介著
B班		ディープエコノミー / ビル・マッキベン著
		下流志向 / 内田樹著
	★	数学ガール(ガロア理論) / 結城浩著
		書を捨てよ、町へ出よう / 寺山修司著
		爆笑問題のニッポンの教養: 深みに四〇億年前の世界を見た! 地球微生物学 / 高井研ほか著
		若き友人たちへ: 筑紫哲也ラスト・メッセージ / 筑紫哲也著

	☆	はてしない物語 / ミハエル・エンデ著
C 班		西の魔女が死んだ / 梨木香歩著
	☆	二十歳の原点 / 高野悦子著
		「1日30分」を続けなさい / 古市幸雄著
		歯がゆい国日本—なぜ私たちが冷笑され、ドイツが信頼されるのか / クライン孝子著
		ユダヤ人大富豪の教え—幸せな金持ちになる17の秘訣 / 本田健著
		きいろいゾウ / 西加奈子著
D 班	☆	モモ: 時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語 / ミハエル・エンデ著
		暴力団 / 溝口敦著
		海が燃えた日—究極のヨットレース、アメリカズカップに挑戦したニッポンチーム / 武村 洋一、山崎達光著
	☆	いつまでも、いつまでもお元気で—特攻隊員たちが遺した最後の言葉
		共食いキャラの本 / 大山顕著
		ブランド王国スイスの秘密 / 磯山友幸著
	☆	涙の理由 / 重松清、茂木健一郎著
		フランケンシュタイン / メアリー シェリー著

■ 農学部

導入編 (テーマ「世界」)		
A 班		地球外に生命を探る: 生命が存在するのは地球だけか? / 水谷仁編集
		図解 世界がわかる「地図帳」—眠れないほど面白い これが見る「新しいモノサシ」 / 造事務所著
		サイエンス(雑誌)
		深夜特急 / 沢木耕太郎著
		ホット・ゾーン / リチャード プレストン著
	☆	ミッキーマウスの憂鬱 / 松岡圭祐著
	四畳半神話大系 / 森見登美彦著	
B 班		魔法使い倶楽部 / 青山七恵著
		宇宙の進化の謎—暗黒物質の正体に迫る / 谷口義明著
		そうだ、葉っぱを売ろう! : 過疎の町、どん底からの再生 / 横石知二著
		こころの処方箋 / 河合隼雄著
	☆	世界がもし100人の村だったら / 池田香代子再話
	世界の中心で、愛をさけぶ / 片山恭一著	
	あなたを忘れない / 和佐田道子著	
実践編(1)		
		渇水都市 / 江上剛著
		誰の上にも青空がある / HABU 著
		僕たちは世界を変えることができない / 葉田甲太著
		渋沢栄一 100 の訓言 / 渋澤健著
	☆	あの夕陽・牧師館 / 日野啓三著
		スキップ / 北村薫著
	これからを生き抜くために大学時代にすべきこと / 許光俊著	
実践編(2)		
		ゼロ、ハチ、ゼロ、ナナ。 / 辻村深月著
		ガンジス河でパタフライ / たかのてるこ著
		アルジャーノンに花束を / ダニエル・キイス著

		ALWAYS 三丁目の夕日 / 山本甲士著
	☆	「のび太」という生きかた—頑張らない。無理しない。 / 横山泰行著
		巨大津波は生態系をどう変えたか: 生きものたちの東日本大震災 / 永幡嘉之著
		“It(それ)”と呼ばれた子 / デイヴ ペルザー著

■ 法学部 (テーマ「政治学・法学の古典・名著」)

A 班		コモン・センス / トーマス・ペイン著
		カティリーナ弾劾 (キケロー選集 3) / キケロー著
		政治学 / アリストテレス著
	☆	正義論 / ジョン・ロールズ著
		社会契約論 / ジャン=ジャック・ルソー著
		君主の統治について: 謹んでキプロス王に捧げる / トマス・アキナス著
		権利のための闘争 / イェーリング著
B 班		統治論 / ジョン・ロック著
		社会契約論 / ジャン=ジャック・ルソー著
		大衆の反逆 / ホセ・オルテガ・イ・ガセット著
		永遠平和のために / イマヌエル・カント著
	☆	政策形成の過程 / チャールズ・E. リンドブロム, エドワード・J. ウッドハウス著
		政治的なものの概念 / C. シュミット著
		自由論 / J.S. ミル著
	日本幽囚記 上・中・下巻 / ゴロウニン著	

報告

## 中央図書館における生物被害とその対策について —シバンムシ被害を中心として—

羽賀 真記子<sup>†</sup>

<抄録>

24年5月、中央図書館修復室においてシバンムシの発生が確認された。本稿ではこの問題の経緯と対処について、またこれを機として開始した調査と対策について報告する。

<キーワード> 資料保存, 保存環境, 温湿度調査, シバンムシ, カビ, 総合的有害生物管理, IPM

## Biological Damages and Measures to Prevent Damages in Central Library —Mainly about the Damages of Deathwatch Beetle—

HAGA Makiko

### 1. はじめに

研究開発事項「資料保存に関する調査研究」(以下「資料保存班」)では、伊都地区に計画されている新中央(文系)図書館の建築にあたって、資料保存の観点から見た構造や設備などの検討をおこなっている。また、キャンパス移転に向けて、全学的な資料保存対策の方針案として「九州大学附属図書館資料保存方針(案)」を作成し、図書館資料の現在の保存環境と資料の状態を確認するための調査項目と方法について検討と試行を進めてきた。

この過程、また、一橋大学社会古典資料センターでの研修<sup>[1]</sup>において、薬剤を多用せず、日常の管理によって生物被害を防ぐ「総合的有害生物管理」(Integrated Pest Management, 以下 IPM)について学び、新中央(文系)図書館の計画に IPM の考え方に沿った資料保存の方法を反映させてきた。

このような状況の中、平成 24 年初夏、中央図書館においてシバンムシの大量発生が起きた。本稿では、この問題への対処と、これを契機として開始した環境管理について述べる。

### 2. シバンムシの発生

#### 2.1. 問題発覚

24年5月中旬、資料保存班員が修復室に入ったところ、入口側に置かれていたブックトラック上の洋古書の上で虫が動いているのを発見した。平置き3段トラックに積まれた洋古書のほとんどに数匹から十数匹の茶色い2~3mm程度の虫がついており、虫損がひどい

資料もあった。また、食害の跡は見られなかったものの、室内の中性紙ダンボール、修復資材の中性紙の破片入れなど、室内のいたる所に虫がおり、室内を飛んでいる虫も散見された。



図1 虫に食われた資料 ○内にシバンムシがみられる

#### 2.2. 発生の原因

当該資料を修復室に置いた担当係員に確認したところ、寄贈された資料であり、受領当初から寄贈者より虫がいる可能性が指摘されていたことが判明した。低酸素殺虫を行う予定だったが、リスト化作業を待つ間むき出しのまま事務室および修復室にて保管していたとのことだった。寄贈されてから修復室に移した時点では冬場で虫の活動が確認できず、そのまま春を迎えてしまい、気温の上昇に伴って幼虫が羽化したものと思われる。

#### 2.3. 発覚直後の対処

ただちに資料保存班の担当窓口(サービス担当係長)

<sup>†</sup> はが まきこ 九州大学附属図書館資料整備室図書目録係 (〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1) E-mail: haga.makiko.213@m.kyushu-u.ac.jp

に状況を報告するとともに、発生源と思われる洋古書をその場でビニール袋に詰めてそれ以上の拡散を防止する処置を取った。

次に、虫の同定をおこなった。『文化財害虫事典』[2]を参照し、種類の特定まではできないが、シバンムシ科のいずれかではないかと推定した。シバンムシは紙を食害する代表的な害虫で、書籍がトンネル状に食い荒らされているのはシバンムシが原因である。書籍害虫として代表的なものとして、フルホンシバンムシとザウテルシバンムシが挙げられる。



図2 捕獲されたシバンムシ（顕微鏡で拡大）

翌日に業者に部屋および資料の状況を見てもらい、対応を検討してもらった結果、資料は搬出してくん蒸し、部屋は薬剤による殺虫処理をおこなうことにした。資料のくん蒸にはヴァイケーン（薬剤：フッ化スルフルル）、部屋の殺虫にはブンガノン（薬剤：ピレスロイド（シフェノトリン）炭酸製剤）を使用した。修復室は殺虫効果を持続させるため処理後3ヶ月ほど出入り禁止とし、その後、部屋全体の清掃をおこなった。

くん蒸の業務完了報告書に添えられた昆虫の同定書で、フルホンシバンムシとザウテルシバンムシが検出されたと報告があった。

修復室に隣接する書架エリアにフェロモントラップを設置し状況を観察したが、室外に拡散してはいないようであった。

虫がいるにもかかわらず、当該資料を隔離せずに保管していたことが今回の大量発生の原因である。

修復室は資料の補修に使う資材と道具を置いている独立した小部屋で、書籍は配架されておらず、部屋への出入りも少ない。そのため今回の問題の発見が遅れたのであるが、この部屋から書庫の資料に被害が拡大していないのが不幸中の幸いであった。

### 3. 館内の状況調査と対策

そもそも、前年度に「九州大学附属図書館資料保存方針（案）」に基づいた館内の環境および資料の保存状況調査用のチェックシートの作成と試行調査をおこなっており、24年度から具体的な調査を始める予定であ

った。しかし今回のシバンムシの発生を受けて、取り急ぎシバンムシの生息状況調査と、温湿度調査から着手することにした。

#### 3.1. シバンムシ生息状況調査

中央図書館において、シバンムシが修復室から館内に拡散していないか・他の場所で発生していないかを確認するため、フェロモントラップによる調査をおこなうことにした。

##### 3.1.1. 調査概要

使用したトラップは、タバコシバンムシ用のトラップ「ニューセリコ」とジンサンシバンムシ用トラップ「ハイレシス」の2種類（富士フレイバー製）である。いずれもフェロモン剤を使う粘着式トラップで、ニューセリコは性フェロモン剤と食餌誘引剤でタバコシバンムシ（雌雄）を誘引し、ハイレシスは性フェロモンでジンサンシバンムシ（雄のみ）を誘引する。対象は成虫で、実際に書物を食害する幼虫の捕獲に使うことはできない。



図3 使用したフェロモントラップ  
ニューセリコ（左）とハイレシス（右）

設置エリアについては、業者より建物の開口部付近に配置すると外部から虫を引き寄せる可能性があるとの助言を受け、発生が疑われるエリアのうち外部へ通じる開口部がない・もしくはあっても開放しない場所、開口部から10m以上離れた場所のいずれかとし、計9カ所に設置することにした。（表1）

表1 トラップ設置場所一覧

1階	荷受室	閉架
	車庫書庫	閉架
	図書エリア	開架
	保存書庫（2ヶ所）	閉架
M2階	雑誌エリア	開架
5階	資料室	閉架
	貴重書閲覧室	閉架
	貴重書庫	閉架

各エリアにニューセリコとハイレシスを1つずつ、

5m 以上間隔を開けて配置した。垂直位置は床面から約 150cm の高さとし、壁または書架にメンディングテープで貼付した。

交換頻度は 1 ヶ月に 1 回とし、毎月一日に交換をおこなうこととした。また、週に 1 度すべてのトラップを点検し、経過を記録することにした。

### 3.1.2. 経過

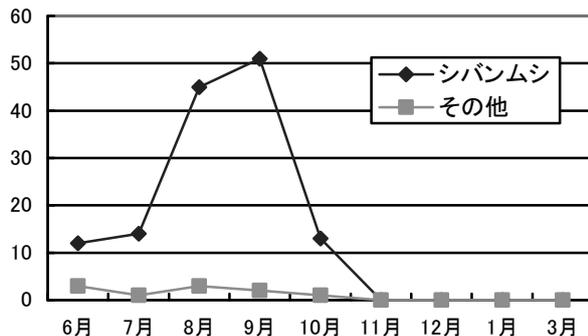
6 月 1 日から調査を開始した。最初の週は特に変化はなかったが、2 回目の点検時（6 月 15 日）に、貴重書閲覧室のニューセリコにシバンムシ 7 匹がかかっているのが確認された。

ここは独立した部屋で、外部への開口部は存在するが開放されることはない。他のエリアからの侵入が考えにくいことから、他の要因を追究したところ、この部屋に配架されていた洋古書のコレクションが、整理時の一時期、修復室でのシバンムシ発生原因であった寄贈資料と一緒に管理されていたことが判明した。このため、これ以上の拡散を防ぐべく、当該コレクションをすべて、防虫シート（エコミュアシート）と共にビニールの袋に詰める作業をおこなった。

その後はどの観測個所でも観測なしまたは微増で推移していたが、梅雨明け（7 月 23 日）後に急に数が増え始め、これまで観測されていなかった地点でもトラップにかかるようになった。気温の上昇が原因と推察される。増加が顕著だったのが 5 階の資料室である。この部屋については、シバンムシが好む和洋古書は配架されておらず、独立していることから、室内の資料の被害よりも、植物標本等を保管している隣接の標本室からの侵入が疑われる。

8 月に入っても観測数は増え続け、8 月の総数は 46 匹と前月までをはるかに上回る結果となった。9 月も前半は前月同様に相当数が観測されたが、気温が下がり始めるのと同時期に減少し、翌 10 月にはほぼ観測されない状況となった。11 月以降はすべてのポイントで観測数ゼロとなったため、専門家の助言もあり、2 月はトラップの設置を休止し、3 月に再開した。

表 1 シバンムシのトラップ捕獲数の推移



トラップは 2 種類設置したが、虫がかかったのはほぼニューセリコで、ハイレススにかかっていたのはシバンムシ以外も含めた総数のうち 6% 程度であった。シバンムシ以外では、コバエと思われる羽虫と蛾が総計で約 10 匹捕獲された。

### 3.1.3. 対処

貴重書閲覧室について、シバンムシ 7 匹が確認された時点の湿度が 70%RH と高くなっていたことから、空調を冷房からドライに切り替えた。この結果温湿度が 20℃/60%RH 前後で安定、前述の通り原因と推察される資料をビニール袋に隔離したこともあって、その後は拡散が抑えられている。

梅雨明けから観測数が急増した車庫書庫については、配架資料の担当部署と相談し、清掃を行った。その際、被害にあいやすいタイプの資料数点について開いて調べたが、食害の跡は見られなかった。通用口から 20m 程度の位置の独立していない書庫であり、外部からの侵入も可能性としてはあり得る。

同じく観測数が急増した資料室についても、担当部署による清掃を実施した。

### 3.1.4. 同定

トラップにかかった昆虫について、シバンムシであろうことは見当がつくが、肉眼で細かな種類まで同定するのは難しい。このため、発生数の多かった資料室のトラップについて本学農学研究院資源生物科学部門農業生物資源学講座昆虫学教室の紙谷准教授に同定を依頼し、タバコシバンムシであるとの回答、また、「書籍を食べることは知られていないとされているが、本の素材は植物質なので食べる可能性はあると思われる」とのご意見をいただいた。



図 4 捕獲されたタバコシバンムシ  
(紙谷准教授提供)

触角の形状が種類によって異なるので、ここで識別するのが一般的である

この同定結果および 24 年度の調査結果より、次年度からの調査は、トラップをニューセリコのみに絞り込むことにしている。

### 3.2. 温湿度調査

中央図書館では、従来から貴重図書室に2台・保存書庫に1台・マイクロフィルム室に1台のデータロガーを設置し温湿度を計測していたが、前述の館内の環境調査をおこなうために計測個所を増やすべく機器を購入して準備をしていた。シバンムシ発生を受け、追加機器による計測をトラップ調査と合わせて調査がおこなえるかたちで開始することにした。

#### 3.2.1. 予備調査

データロガーの設置位置を決めるため、本番の設置に先立って保存書庫において予備調査をおこなった。この予備調査では、通常閲覧室の温湿度を測定している温湿度計(TANITA TT-530)4台とその他2台の計6台の温度計を使用した。なお、調査前にこの6台の誤差を確認している。

調査の目的は下記2点である。

- ・水平位置で、東西南北・壁側/中央側のどの地点の温湿度が高いのか確認する
- ・垂直位置の上下で温湿度にどれくらい差があるか確認する

この条件を満たすため、6台を2台×3組に分け、3地点で書架上部(上から2段目:床面から約160cm)と最下段(床面から約40cm)に置いて定時観測することにした。計測は10:00、14:00、17:00におこない、翌日異なる地点で測定する場合は前日17:00の測定後に機器を動かした。

対象とした保存書庫は、閉架書庫で利用者の出入りはない。空調は入っておらず、除湿機があるのみである。

測定した組み合わせは下記の通りである。

- ・北側の通路側と壁側
- ・南側の通路側と壁側
- ・壁側の南側と北側

測定の結果、日中はあまり温湿度とも時間帯による差は見られず、安定していることが分かった。棚の上部と下部では、温度は2℃前後上部が高く、湿度は7~8%程度下部の方が高いという結果が得られた。部屋の南北では、湿度にはそれほど大きな差は見られなかったが、温度は南側の方が若干高かった。

また、この調査で、除湿機から吹き出す空気がかなり高温で、稼働すると周囲の気温が上昇していること、いっぽうで湿度は期待されるほど下がっていないことが確認された。このため、除湿機の使用を見合わせることにした。

#### 3.2.2. 継続計測の開始

予備調査の結果を基に、追加設置するデータロガー(HOBO U12-012)の設置場所をどこにするか打合せ

をおこなった。エリアとしてはシバンムシのトラップ調査を行っているのと同じ部屋を中心に設置することにし、位置については、温度よりも湿度の方がより問題であることから、湿度の高い床面近く(機材の下面が床面から約15cm)に取りつけることにした。計測頻度については、30分に1回に設定した。

この追加設置により、既設分と合わせ、12ヶ所での温湿度の継続測定がおこなわれることとなった。

伊都図書館にも同様に8台を設置することにした。伊都図書館ではカビの被害が出ていることから、発生エリアである地階に集中的に配置した。

データはデータロガー内に約半年分蓄積可能であるが、毎月1回収し、状況を確認することとした。

## 4. 環境管理

館内環境調査と並行して、館内の環境改善に取りかかった。

### 4.1. 定期的な清掃の実施

害虫・カビのいずれも、本来、環境を管理することで発生を未然に防ぐ方が発生後に対処するよりも労力もコストもかからず、薬剤を使わないことから安全性も高い。IPMにおいては、館内の環境を清潔にすることが最重要とされている。埃が水分を含んでカビの菌床となったり、そのカビが虫を呼び寄せる原因となったりするためである。

この考え方にに基づき、中央図書館内のうち、普段清掃業者が入らない閉架書庫について、サービス担当係と資料保存班員で定期的に清掃をおこなうことにした。実施内容は下記の通りである。

- ・本の天や棚板に積もっている埃を取る
- ・カビが発生していたら無水エタノールで拭き取る
- ・床の清掃

24年度は集密書架(9連)の清掃をおこなった。ここは和装本を配架しているエリアで、帙に夏場に発生したとみられるカビの形跡があった。清掃が冬季の実施となったため、作業時点での被害エリアの拡大はみられなかったが、傾向としては、中央部分の連の、最下段および下から2段目に発生跡が多量にみられた。このため、当該エリアの書架最下段に除湿剤を設置する対策を取ることにした。

### 4.2. 窓

保存書庫について、温湿度調査の予備調査の際に南側の温度が他に比べて高かったため、閉架書庫でもあることから、南側の窓を塞ぐことにした。

移転を控えている建物のため本格的な工事をするのは難しいので、簡単にできる方法を模索し、不要になった展示用パネルを窓の内側に貼ることにした。完全

に暗くはならなかったが、一定の効果を得られたと考えている。

## 5. 今後の課題

### 5.1. データ分析

トラップ調査・温湿度調査とも、約1年分のデータを蓄積することができた。これを適切に分析し、予防や対策に生かしていくのが今後の最大の課題といえる。

トラップ調査については、適切な対策をとるために、昆虫の同定と種別の分布の把握が必要である。同定をどうやっておこなうかが目下の最大の懸案となっている。

温湿度については、外気温との差や、温湿度変化と、虫の発生やカビ被害の状況との照合をしていかなければならない。こちらも適切な分析方法の検討からおこなう必要がある。

### 5.2. 調査と対処のルーティン化

継続して環境管理をしていくためには、調査や問題発生時の対処をルーティン化していかなければならない。

シバンムシの問題が発生した24年度は、温湿度調査については、データロガーの初期設定と配置場所の検討・設置は資料保存班でおこない、その後の毎月のデータの回収はサービス系の業務に組み込んだ。いっぽうで、トラップ調査は設置・点検とも資料保存班員がおこなった。トラップ調査についても、次年度以降日常業務としておこなえるよう、資料保存班とサービス系との協議とマニュアルの整備が必要である。

### 5.3. 受入資料に対する処理基準の作成

先述の通り、今回のシバンムシの発生は、寄贈受入した資料が発生源であった。古書の集合を寄贈受入することが少なからずある以上、それらの資料を図書館に入れる前に安全な状態にしておくことが必須である。現在は資料の内容に関連する受入基準はあるが、資料保存の観点からの処置の規定がないため、早急に整備したいと考えている。

24年度は発生した問題への対応に追われ、継続的な業務として取り組むための諸作業が後回しになってしまった面が否めない。今後も業務として継続的におこなっていくためにも、実践可能な計画を立てていかなければならない。

## 6. 謝辞

シバンムシの同定にご協力いただいた農学研究院資源生物科学部門農業生物資源学講座昆虫学教室の紙谷先生、またトラップ設置についてご助言をいただいた

金剛の伊集院氏・江口氏とイカリ消毒の櫻井氏にお礼申し上げます。

## 参考文献

- [1] 一橋大学社会古典資料センターで開催されている研修の概要については、センターのウェブサイト (<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/school.html> , 参照2013.6.3) を参照されたい
- [2] 文化財研究所東京文化財研究所編, 文化財害虫事典: 博物館・美術館におけるIPM(総合的害虫管理) 推進のために(改訂版), クバプロ, 東京, 2004.

## 目録

### 濱文庫所蔵唱本目録稿 (七)

中里見 敬<sup>†</sup> 山根 泰志<sup>‡</sup> 中尾友香梨<sup>§</sup>

#### <抄録>

九州大学附属図書館濱文庫所蔵の唱本について、これまでに第十二帙までの目録稿を作成した。本稿では引き続き第十三帙の著録を行う。第十三～十五帙はいずれも鉛活字本で、北平刊行唱本のシリーズものが収められている。第十三帙は学古堂刊行で、シリーズ番号がアラビア数字で1から103まで付されている。同じく学古堂刊行の第十四帙は、一から二五五までシリーズ番号が漢数字で記される。さらに第十五帙は泰山堂刊行で、シリーズ番号はふられていないものの、本の体裁は学古堂本と一致する。

なお、これらシリーズものの唱本は、早稲田大学図書館風陵文庫および東京大学東洋文化研究所雙紅堂文庫蔵本と重複するものが少なくないが、微細な違いが存在し、同版異版の判定は容易ではない(末尾の書影参照)。よって、本稿から同版異版の注記を差し控えることとした。

<キーワード> 濱文庫, 浜文庫, 唱本, 目録, 北平, 北京, 学古堂, 濱一衛, 浜一衛, 九州大学附属図書館

## A Catalogue of *Changben* (or Songbooks) in the Hama Collection of Kyushu University Library, Part 7

NAKAZATOMI Satoshi, YAMANE Yasushi and NAKAO Yukari

#### 桑園會/江東計 浜文庫/集 174/1

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (両面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 桑園會/江東計/改良/戲詞/北平打磨廠學古堂印行(1)

- ・(卷首記) 桑園會 六頁 (上部欄外記) 桑園會 (本文卷頭) 《旦上引》丈夫求官十二年。書未捎來信未傳。《歸坐白》金盆淨臉臉未乾。耳傍失落一支環。
- ・(卷首記) 江東計 二頁 (上部欄外記) 江東計 (本文卷頭) 《旦上跪介》罷了都督哇《旦入帳介周鬼上唱》駕動陰風到靈堂。我妻睡夢聽其詳。孔明定計將

#### 武家坡 又名平貴回窯/白水灘 一名捉青面虎 浜文庫/集 174/2

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (両面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 武家坡/白水灘/改良戲詞/北平打磨廠學

#### 古堂印行(2)

- ・(卷首記) 武家坡 又名平貴回窯 六頁 (上部欄外記) 武家坡 (本文卷頭 事略3行從略) 《生内唱倒板》一馬離了西涼界。《上唱西皮原板》不由人。一陣陣。淚洒胸懷。青是山。綠是水。
- ・(卷首記) 白水灘 一名捉青面虎 二頁 (上部欄外記) 白水灘 (本文卷頭) 《四上手四龍套生上點絳唇》身為武將貌堂堂。統領雄兵百萬郎。深受皇恩當報效。扶保宋室錦

#### 三娘教子 (又名機房訓子) /華容道 浜文庫/集 174/3

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (両面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 三娘教子/華容道/金鋼鑽真詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行(3)

- ・(卷首記) 三娘教子(又名機房訓子) 五頁 (上部欄外記) 三娘教子 (本文卷頭) 考薛廣棄儒就賈。往鎮江爲商。家中娶妻張氏妾劉氏王

<sup>†</sup> なかざとみ さとし 九州大学言語文化研究院准教授, 附属図書館研究開発室室員 E-mail: naka@flc.kyushu-u.ac.jp

<sup>‡</sup> やまね やすし 九州大学附属図書館図書館企画課企画係員 E-mail: yamane.yasushi.188@m.kyushu-u.ac.jp

<sup>§</sup> なかお ゆかり 佐賀大学文化教育学部准教授 (〒840-8502 佐賀市本庄町1番地)

氏。王氏生一子。乳名倚哥。家有老僕薛

- (卷首記) 華容道 三頁 (上部欄外記) 華容道 (本文卷頭) 《四綠龍套上》(關上)(引子) 正氣冲霄漢。文光射斗牛。(白) 頭戴金冠鳳翅飄。鳳眼蠶眉逞英

### 汾河灣/殺廟(又名柳林池) 浜文庫/集 174/4

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 汾河灣/韓琪殺廟/柳林池/北平打磨廠學古堂印行(4)

- (卷首記) 汾河灣 五頁 (左右欄外記) 汾河灣 (本文卷頭) 《旦內叫板》丁山兒。該來了《上唱》柳銀環。在寒窩。自思自念。想起了。丁山兒。好不傷慘
- (卷首記) 殺廟(又名柳林池) 三頁 (左右欄外記) 殺廟 (本文卷頭) 《旦內倒板》我母子三人離了京。《上唱慢板》淚珠兒。不住得。濕透衣衾。原郡[鄉]。連遭了。三年

### 小放牛/雙吊孝 浜文庫/集 174/5

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 小放牛/雙吊孝/北平打磨廠學古堂印行(5)

- (卷首記) 小放牛 四頁 (左右欄外記) 小放牛 (本文卷頭) 《丑上白》家無生和意, 吃盡斗量金, 我牧童兒是也, 爹娘在世, 家大業大, 驟馬成羣, 爹娘去
- (卷首記) 雙吊孝 三頁 (左右欄外記) 雙吊孝 (本文卷頭) 《旦唱頭板》王愛玉在靈堂淚流滿面, 死去的商郎夫細聽吾言, 你言說梅姐姐難得相見, 若相見除

### 孟獲歎月/槍斃閻瑞生考/蓮英托夢考/罵毛延壽/路遙知馬力/珠簾寨/斬黃袍 浜文庫/集

174/6-1

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 罵毛延壽/斬黃袍/珠簾寨/孟獲嘆月/路遙知馬力/蓮英托夢/鎗斃閻瑞生/北平打磨廠學古堂印行(6)

- (卷首記) 孟獲歎月(高脖子唱反調) 一頁 (本文卷頭) 仰面朝天一聲嘆。諸葛亮可算得孫武

一般。在山崗。練雄兵。提防對戰。吾心中。想謀奪。漢室

- (卷首記) 鎗斃閻瑞生考 二頁 (上部欄外記) 鎗斃閻瑞生考 (本文卷頭) 閻瑞生一劇。舞臺演之最衆。閻瑞生自與題紅館。爲鑽戒問題。乃與春芳日珊謀。先向某公子借
- (卷首記) 蓮英托夢考 二頁 (上部欄外記) 蓮英托夢考 (本文卷頭) 是劇即麥田被害後。一幕王長發王董氏與其妹玉英。思念蓮英。憂思成夢。蓮英訴麥田被害情狀
- (卷首記) 罵毛延壽 一頁 (上部欄外記) 罵毛延壽 (本文卷頭) 《蘇叫白》毛延壽哇。把你這賣國的奸賊。《唱二六》未開言, 不由我。牙根咬恨。罵一聲。毛
- (卷首記) 路遙知馬力 二頁 (上部欄外記) 路遙知馬力 (本文卷頭) 《生白》不提馬力。還則罷了。若提起馬力。《碰板唱原板》令人可恨。尊一聲。小哥哥細聽
- (卷首記) 珠簾寨 四頁 (上部欄外記) 珠簾寨 (本文卷頭) 《唱倒板》太太保傳令。把隊收《八文堂下》《用》請。《程》請。《用唱原板》孤與賢弟。叙一
- (卷首記) 斬黃袍 一頁 (上部欄外記) 斬黃袍 (本文卷頭) 《快板西皮》天做保來地做保。陳橋扶起龍一條。昔日打馬過陳橋。偶遇先生八卦高。算得孤王

### 孟獲歎月/鎗斃閻瑞生考/蓮英托夢考/罵毛延壽/路遙知馬力/珠簾寨/斬黃袍 浜文庫/集

174/6-2

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 罵毛延壽/斬黃袍/珠簾寨/孟獲嘆月/路遙知馬力/蓮英托夢/鎗斃閻瑞生/北平打磨廠學古堂印行(6)

- (卷首記) 孟獲歎月(高脖子唱反調) 一頁 (本文卷頭) 仰面朝天一聲嘆。諸葛亮可算得孫武一般。在山崗。練雄兵。提防對戰。吾心中。想謀奪。漢室
- (卷首記) 鎗斃閻瑞生考 二頁 (上部欄外記) 鎗斃閻瑞生考 (本文卷頭) 閻瑞生一劇。舞臺演之最衆。閻瑞生自與題紅館。爲鑽戒問題。乃與春芳日珊謀。先向某公子借
- (卷首記) 蓮英托夢考 二頁 (上部欄外記) 蓮英托夢考 (本文卷頭) 是劇即麥田被害後。一幕王長發王董氏與其妹玉英。思念蓮英。憂

思成夢。蓮英訴麥田被害情狀

- (卷首記) 罵毛延壽 一頁 (上部欄外記) 罵毛延壽 (本文卷頭)《蘇叫白》毛延壽哇。把你這賣國的奸賊。《唱二六》未開言，不由我。牙根咬恨。罵一聲。毛
- (卷首記) 路遙知馬力 二頁 (上部欄外記) 路遙知馬力 (本文卷頭)《生白》不提馬力。還則罷了。若提起馬力。《碰板唱原板》令人可恨。尊一聲。小哥哥細聽
- (卷首記) 珠簾寨 四頁 (上部欄外記) 珠簾寨 (本文卷頭)《唱倒板》太太保傳令。把隊收《八文堂下》《用》請。《程》請。《用唱原板》孤與賢弟。叙一
- (卷首記) 斬黃袍 一頁 (上部欄外記) 斬黃袍 (本文卷頭)《快板西皮》天做保來地做保。陳橋扶起龍一條。昔日打馬過陳橋。偶遇先生八卦高。算得孤王

### 探親家/打龍袍 浜文庫/集 174/7

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 探親家/[鄉]下媽媽/打龍袍/北平打磨廠學古堂印行(7)

- (卷首記) 探親家 六頁 (上部欄外記) 探親家 (本文卷頭)《丑上引》思想女兒淚交流。怎不叫人掛心頭。《詩》終日奔忙爲田苗。惱恨田苗枉徒勞。莊稼打
- (卷首記) 打龍袍 二頁 (上部欄外記) 打龍袍 (本文卷頭)《包上唱搖板》忽聽萬歲宣包拯。午門外來了有罪臣。大搖大擺。我就忙把龍庭進。問我一言答

### 烏龍院 浜文庫/集 174/8

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 烏龍院 (封面記) 烏龍院/宋江坐樓/殺閻婆惜/北平打磨廠學古堂印行(8) (上部欄外記) 烏龍院 (本文卷頭)《丑上白》姣滴滴，翠滴滴，一心結交閻婆惜，吾二人心投意和起，鴛鴦枕上會佳期，會佳期《笑

### 雙吊孝/忠孝牌 浜文庫/集 174/9

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 雙吊孝/秦雪梅/忠孝牌/北平打磨廠學古

堂印行(9)

- (卷首記) 雙吊孝 四頁 (上部欄外記) 雙吊孝 (本文卷頭)《旦唱頭板》王愛玉在靈堂淚流滿面。死去的商郎夫細聽我言。你言說梅姐姐難得相見。若相見
- (卷首記) 忠孝牌 四頁 (上部欄外記) 忠孝牌 (本文卷頭)《生上白》走哇《唱》長亭以里。喚便衣。有一輩古人想心里。朱買臣當年不得地。在家中娶下

### 二進宮/春香鬧學 浜文庫/集 174/10

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 春香鬧學/二進宮/著名藝員/校正准詞/北平打磨廠學古堂印行(10)

- (卷首記) 二進宮 四頁 (左右欄外記) 二進宮 (本文卷頭 事略 4 行從略)《正旦內哭白》嚶先王吓。《二宮女抱太子引旦上旦唱慢板二簧》獨坐在寒宮院悶憂憂看一看不
- (卷首記) 春香鬧學 四頁 (左右欄外記) 春香鬧學 (本文卷頭)《貼上唱一江風》小春香。一種在人奴上。畫閣裏從嬌養。侍娘行。弄粉調朱。貼翠拈花。慣向

### 大登殿/女起解 浜文庫/集 174/11

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 大登殿/女起解六月雪/北平打磨廠學古堂印行(11)

- (卷首記) 大登殿 三頁 (左右欄外記) 大登殿 (本文卷頭)《生內唱尖板》龍鳳閣內把衣換。《上拜印介唱》忽然間想起了王寶川。王有旨意往下傳。快宣那王
- (卷首記) 女起解 四頁 (左右欄外記) 女起解 (本文卷頭)《丑上白》你說你公道。我說我公道。公道不公道。自有天知道。老漢崇公道。昨日有太原省。行

### 欠本 浜文庫/集 174/12

### 失街亭(坐帳)/空城計 浜文庫/集 174/13

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 空城計/失街亭/改良/戲詞/北平打磨廠學古堂印行(13)

- (卷首記) 失街亭 (坐帳) 四頁 (上部欄外記) 失街亭 (本文卷頭 事略 4 行從略) 《趙王二馬四將上起霸》《趙白》二十年前掛鐵衣《岱》文韜武略世間奇。《平》一點忠心扶社稷
- (卷首記) 空城計 四頁 (上部欄外記) 空城計 (本文卷頭 事略 4 行從略) 《二童上老生上白》兵紮祁山地。要擒司馬懿。《旗牌上白》人行千里路。馬過萬重山。來此以是。

### 借東風/釣金龜 浜文庫/集 174/14

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 釣金龜/借東風/改正/准詞/北平打磨廠學古堂印行(14)

- (卷首記) 借東風 四頁 (上部欄外記) 借東風 (本文卷頭) 《四龍套四大鎧四將小生上唱西皮搖板》前日裏。與曹軍。江中交戰。傷却他。青州將。焦觸張南
- (卷首記) 釣金龜 四頁 (上部欄外記) 釣金龜 (本文卷頭) 《老旦上引》家無隔夜糧。肌饑實難當。《白》老身生來命運薄。好似路上草一顆。過了今年秋

### 捉曹放曹行路路店/譚富英之定軍山 浜文庫/集 174/15

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 捉放曹/陳公計/定軍山/北平打磨廠學古堂印行(15)

- (卷首記) 捉曹放曹行路路店 七頁 (上部欄外記) 捉曹放曹 (本文卷頭) 《末扮呂伯奢上引子》夜夢不祥。吉凶事。教人難防。《定場詩》芝蘭君子性。松柏古人心。勤儉真
- (卷首記) 譚富英之定軍山 一頁 (上部欄外記) 定軍山 (本文卷頭) 《生唱》師爺說話言太差。不由黃忠怒氣發。一十三歲習弓馬。赫赫威名我鎮守長沙。自從歸順了

### 獨木關/七星燈 浜文庫/集 174/16

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 獨木關/七星燈/名伶真本/改正准詞/北平打磨廠學古堂印行(16)

- (卷首記) 獨木關 四頁 (上部欄外記) 獨木關 (本文卷頭) 《四龍套上張士貴上白》千軍列隊伍。萬馬扎團營。《中軍上》打壞了。打壞了。《張白》
- (卷首記) 七星燈 四頁 (上部欄外記) 七星燈 (本文卷頭) 《生上白》安排脂粉計。恥笑司馬懿《旗牌上白》忙將機密事。報與丞相知。參見丞相。

### 賀后罵殿/孝感天 浜文庫/集 174/17

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 賀后罵殿/京調二簧/文明消遣/北平打磨廠學古堂印行(17)

- (卷首記) 賀后罵殿 五頁 (上部欄外記) 賀后罵殿 (本文卷頭) 《文點降上朝官》《趙白》下官趙普《潘》下官潘洪《曹》下官曹傑《苗》下官苗宗
- (卷首記) 孝感天 二頁 (上部欄外記) 孝感天 (本文卷頭) 《四紅龍套上小生正旦全上小生白》丹心天地慘。黃泉路酌遙。《正旦》溺愛反

### 當鋼賣馬 又名天堂縣 浜文庫/集 174/18

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 當鋼賣馬 又名天堂縣 (封面記) 當鋼賣馬/天堂縣/改良/戲詞/北平打磨廠學古堂印行(18) (上部欄外記) 當鋼賣馬 (本文卷頭) 《丑上白樓板》哦哈。不賒。不賒不欠。不算店。賒了去。不見面。他在前街走。我在後街轉。

### 連環套 (又名盜御馬) /托兆碰碑 浜文庫/集 174/19

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 托兆碰碑/連環套/盜御馬/北平打磨廠學古堂印行(19)

- (卷首記) 連環套 (又名盜御馬) 四頁 (上部欄外記) 連環套 (本文卷頭) 《四紅套引淨上唱搖板西皮》想當年李家店比武較量。《快板》豪傑我一怒撤家[鄉]。盜來了
- (卷首記) 托兆碰碑 四頁 (上部欄外記) 托兆碰碑 (本文卷頭) 《淨上引》憶昔當年赴兩狼。峻牙峪口擺戰場。可恨老賊潘洪將。芭蕉

樹上一命亡。我乃七郎

### 牧羊卷 浜文庫/集 174/20

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 牧羊卷 (封面記) 牧羊圈/著名藝員/校正准詞/北平打磨廠學古堂印行(20) (上部欄外記) 牧羊卷 (本文卷頭) 《大二丑同上白》哦哈。《大丑白》爲人莫當差。《二丑白》當差不自在。《大丑白》風裏也得去。

### 繪圖新編京調連營寨/譚富英之盜宗卷 浜文

庫/集 174/21

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 連營寨/盜宗卷/文明消遣/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行(21)

- (卷首記) 繪圖新編京調連營寨 七頁 (上部欄外記) 繪圖新編京調連營寨 (本文卷頭) 《韓當周泰糜芳傅士仁馬忠夏旬起把上點降各通名》韓請了元帥起兵征勦西蜀命我等在此伺
- (卷首記) 譚富英之盜宗卷 一頁 (上部欄外記) 譚富英之盜宗卷 (本文卷頭) 《白》家院掌燈。《唱》正在府中把宴擺。陳平有帖請我來。《白》下官張蒼。正在府中[飲]

### 轅門斬子 浜文庫/集 174/22

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 轅門斬子 (封面記) 轅門斬子/京調二簧/改正准詞/北平打磨廠學古堂印行(22) (上部欄外記) 轅門斬子 (本文卷頭) 《四龍套焦孟引生上白》山東把陣敗。怒氣滿胸懷。《套唱焦白》二哥《孟白》賢弟。《焦白》元帥

### 黃金臺 代盤關 浜文庫/集 174/23

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 黃金台 代盤關 (封面記) 黃金台/代盤關/真正京調/北平打磨廠學古堂印行(23) (上部欄外記) 黃金台 (本文卷頭) 《老生內白》掌燈。《唱倒板》聽樵樓。打三更。玉兔東上。《上二丑》《老生上唱迴龍腔》

### 天水關/龔雲甫陳德霖合唱母女會之唱詞/郭

#### 瑞卿任絳仙別皇宮之唱詞 浜文庫/集 174/24

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 天水關/校正准詞/母女會/別皇后/北平打磨廠學古堂印行(24)

- (卷首記) 天水關 五頁 (上部欄外記) 天水關 (本文卷頭) 《四太監上小生上引》鳳閣龍樓。萬古千秋《詩》先皇宴駕白帝城。漢朝文武不安寧。多虧
- (卷首記) 龔雲甫陳德霖合唱母女會之唱詞 二頁 (上部欄外記) 龔雲甫陳德霖合唱母女會之唱詞 (本文卷頭) 《老旦唱西皮慢板》叫家院。你與我。前把路引。想從前。太不該。彩樓結親。爲寶川。把
- (卷首記) 郭瑞卿任[絳]仙別皇宮之唱詞 二頁 (上部欄外記) 郭瑞卿任[絳]仙別皇宮之唱詞 (本文卷頭) 《正旦》母后哇《唱西皮慢板》母后說話言語顛。細聽孩兒把話言。男大當婚愁眉散。女大

### 欠本 浜文庫/集 174/25

### 翠屏山 浜文庫/集 174/26

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 翠屏山 (封面記) 梆子翠屏山/張小仙/代殺山/北平打磨廠學古堂印行 26 (左右欄外記) 翠屏山 26 (本文卷頭) 《旦上引》滿懷心腹事。盡在不言中。《白》奴家潘氏巧雲。先嫁石押司爲妻。後嫁楊雄。夫妻在

### 三疑計 (一名拾繡鞋) (又名唐英殺妻) 浜

文庫/集 174/27

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 三疑計 (一名拾繡鞋) (又名唐英殺妻) (封面記) 三[疑]計/校正准詞/文明消遣/北平打磨廠學古堂印行 (27) (上部欄外記) 三疑計 (本文卷頭) 《生上白》衆將官。散操回衙。《排子白》闖賊反過江。本鎮下校場。操演人和馬。與主定家邦。本

**女斬子/三世修 又名黃桂香研磨** 浜文庫/集

174/28

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）女斬子三世修/黃桂香研磨/名伶真詞/校對無訛/北平打磨廠學古堂印行（28）

- （卷首記）女斬子 三頁（上部欄外記）女斬子（本文卷頭）《四套引》《秦漢寶一虎且同上旦白》應龍去招親。定斬不容情。《秦寶同》參見元帥。《
- （卷首記）三世修 又名黃桂香研磨 五頁（上部欄外記）三世修又名黃桂香研磨（本文卷頭）《生上白》老夫山東把帳討。我怕掛香受煎熬。老夫黃天路。有前妻在世。山東放出許多帳

**春秋配/新刻宋江殺婆媳** 浜文庫/集 174/29

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）梆子春秋配/張喜鈴撿柴/宋江殺婆媳/北平打磨廠學古堂印行（29）

- （卷首記）春秋配 六頁（左右欄外記）春秋配（本文卷頭 事略3行從略）《丑旦上趕板白》閑來時妝模作樣。怒腦了拿刀動棒。女兒稱我爲晚搖。常與老身算賬。婦人家良
- （卷首記）新刻宋江殺婆媳 二頁（左右欄外記）宋江殺婆媳（本文卷頭）《生引》兩腳飛似箭心急步如如梭面如黃金色有事在心窩《白》不好了在閻婆惜家飲酒把招文袋兒失

**杜十娘/新刻活捉張三郎** 浜文庫/集 174/30

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）梆子杜十娘/怒沉百寶箱/活捉張三郎/北平打磨廠學古堂印行（30）

- （卷首記）杜十娘 六頁（上部欄外記）杜十娘（本文卷頭）《小生上引》離却家[鄉]。想父母常掛心間。《白》父母恩情重 寒窗用苦功。君王開科選。意想
- （卷首記）新刻活捉張三郎 二頁（上部欄外記）活捉張三郎（本文卷頭）《丑扮張三郎上引》十五間曾看龍燈打樸吃酒賭錢走花街就淨忽起閻婆媳挺硬挺硬《白》小生好《唱》

**刀劈三關** 浜文庫/集 174/31

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（卷首記）刀劈三關（封面記）刀劈三關/北平打磨廠學古堂印行（31）（左右欄外記）刀劈三關（本文卷頭）《頭場報子上》奉了狼主命。晝夜不消停。俺。西遼國帳下報子是也。奉了狼主之命。去至國府下

**硃砂痣 賣妻認子** 浜文庫/集 174/32

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（卷首記）硃砂痣 賣妻[認]子（封面記）硃砂痣/名伶真本/校正准詞/北平打磨廠學古堂印行（三二）（上部欄外記）硃砂痣（本文卷頭）《末內白》娘子攙扶了。《旦上扶末上唱二簧正板》數年間未經商。頗有志量。運不濟。回

**探陰山/徐母罵曹** 浜文庫/集 174/33

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）探陰山/徐母罵曹/北平打磨廠學古堂印行（33）

- （卷首記）探陰山 三頁（左右欄外記）探陰山（本文卷頭）《淨包公內唱二簧倒板》扶大宋。錦華夷。赤心肝膽。《上唱青袍王馬二將張龍趙虎》《上包唱回龍
- （卷首記）徐母罵曹 五頁（左右欄外記）徐母罵曹（本文卷頭）《曹上引》執掌威權。收天下。文武英賢。《詩白》漢室山河氣運終。四方羣起各征鋒。老夫坐

**問樵鬧府** 浜文庫/集 174/34

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（卷首記）問樵鬧府（封面記）問樵鬧府/黑驢告狀/遊龍戲鳳/北平打磨廠學古堂印行（34）（上部欄外記）問樵鬧府（本文卷頭 事略5行從略）《老生上白》走哇。《唱搖板二簧》山前山後俱找到。不見妻兒爲那條。《白》卑人府學生員范仲禹。

**鋸大缸/小上墳** 浜文庫/集 174/35

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

中

(封面記) 鋸大[缸]小上[坟]/北平打磨廠學古堂印行 (35)

- (卷首記) 鋸大缸 四頁 (上部欄外記) 鋸大缸 (本文卷頭)《四雲童白衣觀世音上點絳白》吾乃。白衣觀世音是也。只因此地。有妖
- (卷首記) 小上坟 四頁 (上部欄外記) 小上墳 (本文卷頭)《村上》呵。《丑上引》做高官名揚天下。奉旨轉回家。《白》下官劉祿敬。奉

### 孟姜女哭長城 浜文庫/集 174/36

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 孟姜女哭長城 (封面記) 孟姜女哭長城/梆子腔真詞/全本正字名伶准詞/萬里尋夫尋夫盡節/北平打磨廠學古堂印行 (36) (上部欄外記) 孟姜女哭長城 (本文卷頭)《四太監小生上引》六國併吞歸一統。錦繡乾坤。《白》金殿當頭紫閣重。僊人掌上玉芙蓉。太

### 楊小樓梅蘭芳准詞霸王別姬 浜文庫/集 174/37

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 楊小樓梅蘭芳准詞霸王別姬 (封面記) 霸王別姬/茂州廟/名伶真本/改正准詞/北平打磨廠學古堂印行 (37) (卷尾記) 下接二本霸王別姬 (上部欄外記) 頭本霸王別姬 (本文卷頭)《第一場四上手樊噲曹參周勃英布彭越上點絳》《各通名介》《彭白》列位諸侯請了《衆》請了《彭

### 霸王別姬 (二本) 浜文庫/集 174/38

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 霸王別姬 (二本) (封面記) 霸王別姬/二本/名伶准詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (38) (上部欄外記) 二本霸王別姬 (本文卷頭) 第十場《龍套子弟兵項羽上白》且住。看前面一帶山口劉邦必入山而逃。衆將《衆》有《羽》隨孤

### 四郎探母 (坐宮盜令) 浜文庫/集 174/39

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 四郎探母 (坐宮盜令) (封面記) 頭本

四郎探母/坐宮盜令/北平打磨廠學古堂印行 (39) (上部欄外記) 四郎探母 (本文卷頭)《老上引》金井鎖梧桐。長嘆空隨。幾陣風。《定場白》沙灘赴會統貔貅。失落番邦十五秋。高

### 二本四郎探母 (過關見娘回令) 浜文庫/集

174/40

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 二本 四郎探母 (過關見娘回令) (封面記) 二本四郎探母/過關見娘回令/北平打磨廠學古堂印行 (40) (上部欄外記) 四郎探母 (二本) (本文卷頭) 兒啦。《旦唱倒板》一見姣兒淚滿腮。《抱頭》四郎。我兒。兒啦。《生》母親。老娘。娘吓。

### 沙陀國 又名程敬思搬兵 浜文庫/集 174/41

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 沙陀國 又名程敬思搬兵 (封面記) 珠簾寨/程敬思沙陀國搬兵/頭本/著名藝員/校正准詞/北平打磨廠學古堂印行 (41) (左右欄外記) 沙陀國 (本文卷頭 事略 2 行從略)《四文堂李克用上》。《點降唇》威振沙陀。平定干戈。掃狼烟。將廣兵多。要把羣賊破。《李進

### 珠簾寨 代收威 浜文庫/集 174/42

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 珠簾寨 代收威 (封面記) 珠簾寨/代收威/二本/著名藝員/校正准詞/北平打磨廠學古堂印行 (42) (上部欄外記) 珠簾寨 (本文卷頭)《衆太保起霸點絳唇各通名二太保李存源三太保李存緒四太保李存直五太保李存江六太保李

### 御碑亭 (頭本) 浜文庫/集 174/43

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 御碑亭 (頭本) (封面記) [御][碑][亭]/京調二簧/文明消遣/北平打磨廠學古堂印行 (四三) (左右欄外記) 御碑亭 (本文卷頭)《四文堂二旗牌占門上申上引》君正臣賢 逢聖世。共樂堯天《詩》文章政事兩評論。不負先祖與

**王有道休妻(金榜樂大團圓)** 浜文庫/集 174/44

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 王有道休妻(金榜樂大團圓) (封面記) 王有道休妻/金榜樂代團圓/真詞二簧/文明消遣/北平打磨廠學古堂印行(四四) (左右欄外記) 金榜樂 (本文卷頭)《王有道上唱》三場畢只覺得。文章高興。放彩牌。喜孜孜出了龍門。歸家去。我細說。闔家歡

**魚藏劍/南陽關** 浜文庫/集 174/45

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 魚藏劍南陽關/京調二簧/文明消遣/北平打磨廠學古堂印行(四五)

- (卷首記) 魚藏劍 五頁 (左右欄外記) 魚藏劍 (本文卷頭)《生內白》馬來《上唱搖板》匹馬單鎗棄楚番。龍離蒼海虎奔山。歷陽安居七夜晚。一夜鬚白過《
- (卷首記) 南陽關 三頁 (左右欄外記) 南陽關 (本文卷頭)《花上白》大將生來秉性剛《淨上白》扶保社稷把名揚《花》某尚司徒《淨》麻叔謀《尚》請了。元帥升

**丁甲山/黛玉葬花** 浜文庫/集 174/46

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 丁甲山/黛玉葬花/京調二簧/文明消遣/北平打磨廠學古堂印行(四六)

- (卷首記) 丁甲山 五頁 (左右欄外記) 丁甲山 (本文卷頭)《四下手淨副急急風上點絳唇淨白》自幼生來力無雙。弟兄二人佔山崗《副白》終日山下打搶。
- (卷首記) 黛玉葬花 三頁 (左右欄外記) 黛玉葬花 (本文卷頭)《旦上引》春去無痕。莽天涯。怎不銷魂《詩》長安三月踏春陽。處處春陽總斷腸。紅瘦綠肥人寂

**八蠟廟/龍虎鬥** 浜文庫/集 174/47

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 八蠟廟龍虎鬥/時調歌詞/文明消遣/北平打磨廠學古堂印行(47)

- (卷首記) 八蠟廟 六頁 (左右欄外記) 八蠟

廟 (本文卷頭)《淨上點絳唇》武藝高強。英雄膽壯。習拳棒。愛惜刀槍。綠林俺爲上《白》兩膀膂力壓太山。全

- (卷首記) 龍虎鬥 二頁 (左右欄外記) 龍虎鬥 (本文卷頭)《八套引老生上引四監同上》龍爭虎鬥逞干戈。何日裏罷休《白》蛟龍無水困沙灘。却似明珠土內

**平貴別窰 又名平貴從軍/相府算糧** 浜文庫/

集 174/48

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 紅鬃烈馬/平貴從軍/魏虎掛帥/相府算糧/北平打磨廠學古堂印行(48)

- (卷首記) 平貴別窰 又名平貴從軍 三頁 (上部欄外記) 平貴別窰 (本文卷頭)《旦上引》富貴貧賤天註定。豈知由命不由人。《上介白》身坐窰內心煩焦。父親空枉保當朝。
- (卷首記) 相府算糧 五頁 (上部欄外記) 相府算糧 (本文卷頭)《老生上》我本是一朝忠宰。到做了位列三台。《院上》啟相爺。文武前來拜壽。《老生》明日朝

**頭本法門寺代大審** 浜文庫/集 174/49

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 頭本法門寺代大審 (封面記) 法門寺帶大審/頭本/北平打磨廠學古堂印行(49) (上部欄外記) 頭本法門寺代大審 (本文卷頭)《四大鎧淨丑同上淨引》腰橫玉帶。紫羅袍。赤胆忠心。保皇朝《白》四海騰騰慶昇平。錦綉江

**二本法門寺代大審** 浜文庫/集 174/50

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 二本法門寺代大審 (封面記) 法門寺帶大審/貳本/北平打磨廠學古堂印行(50) (上部欄外記) 二本法門寺代大審 (本文卷頭)《公》人頭在脖子上長着呢。《老生》來掌嘴。《公》慢着我說。《老生》講。《公》那一天有

**鋸碗丁(頭本)** 浜文庫/集 174/51

北平 學古堂 鉛活字 七頁(兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 鋸碗丁 (頭本) (封面記) 頭本鋸碗丁/京調二簧/文明消遣/北平打磨廠學古堂印行 (51)

(卷尾記) (下接二本鋸碗丁) (上部欄外記) 鋸碗丁 (本文卷頭) 《介上引》家道艱難。爲兒女。奔走吃穿《介》詩。人生在世名利貪。勞勞碌碌爲家園。早起遲

### 鋸碗丁 (二本) 浜文庫/集 174/52

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 鋸碗丁 (二本) (封面記) 二本鋸碗丁/京調二簧/文明消遣/北平打磨廠學古堂印行 (52)

(上部欄外記) 鋸碗丁 (本文卷頭) 《上丑旦白》您可不要與我鬧這老奸巨滑。趁早與我帶了走《二花旦同白》慶爹呀。我媽叫您帶

### 黃鶴樓 浜文庫/集 174/53

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 黃鶴樓 (封面記) 黃鶴樓/校正准詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (53) (左右欄外記) 黃鶴樓 (本文卷頭) 《四龍套引[劉]備上引》地得人和。滅孫曹。孤心安樂《詩》日月垂明照英雄。

### 落馬湖 (回船問樵酒樓) 浜文庫/集 174/54

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 落馬湖 (回船問樵酒樓) (封面記) 落馬湖/校正准詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (54) (左右欄外記) 落馬湖 (本文卷頭) 《牌使者青袍龍套大凱門子上白》奉官尊差重。不敢一時閑。在下。施安。前日準備官船迎接大人

### 寶蓮燈 浜文庫/集 174/55

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 寶蓮燈 (封面記) 寶蓮燈/名伶真詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (55) (左右欄外記) 寶蓮燈 (本文卷頭) 《老生上白》啊。烏鴉喜鵲同噪。吉凶事全然不曉《上沉香秋兒》《同哭介》《老生》啊。我把你這個小

### 馬前潑水 浜文庫/集 174/56

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 馬前潑水 (封面記) 朱買臣休妻/馬前潑水/名伶真詞/北平打磨廠學古堂印行 (56) (上部欄外記) 馬前潑水 (本文卷頭) 《旦上白》前世不修今受苦。嫁作貧郎沒奈何。奴家崔氏。嫁與朱買臣爲妻。家無田產。四壁

### 定軍山 (代斬淵) 浜文庫/集 174/57

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 定軍山 (代斬淵) (封面記) 定軍山/潯陽樓/審宋江/北平打磨廠學古堂印行 (57) (左右欄外記) 定軍山 (本文卷頭) 《四紅套四大凱引趙雲孔明上點降》奉旨領命。統領雄兵。掃烟塵。要整乾坤。鼎足三分《上高台

### 洪洋洞 (代盜骨) 浜文庫/集 174/58

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 洪洋洞 (代盜骨) (封面記) 洪洋洞/校正准詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (58)

(左右欄外記) 洪洋洞 (本文卷頭) 《四鬼卒同外上白》生前爲大將。死後作忠魂。吾乃楊繼業鬼魂是也。只因

### 妻黨同惡報 浜文庫/集 174/59

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 妻黨同惡報 (封面記) 妻黨同惡報/著名藝員/校正准詞/北平打磨廠學古堂印行 (59) (左右欄外記) 妻黨同惡報 (本文卷頭) 《外上白》忠厚傳家爲綿世澤。家資鉅萬業陶朱。老夫稽善祥。江蘇上元縣人氏。前妻所生一子。

### 過五關/擋亮 浜文庫/集 174/60

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 過五關/康茂才擋亮/校正准詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (60)

• (卷首記) 過五關 六頁 (上部欄外記) 過五關 (本文卷頭) 《四下手丑上白》俺杜遠。我

與廖化。在此山上落草。看今日天氣晴和。不[免]下山搶一番。衆嘍兵

- (卷首記) 搗亮 二頁 (上部欄外記) 搗亮 (本文卷頭) 《四龍套八掛旗生上》《搖二六板》某與軍師打賭賽。氣得豪傑怒滿懷。陳友諒提兵反唐界。要奪我

### 女起解/玉堂春 浜文庫/集 174/61

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 二簧/女起解/又名蘇三發配/玉堂春/又名三堂會審/程艷秋真詞/尚小雲真詞/北平打磨廠學古堂印行 (61)

- (卷首記) 女起解 三頁 (上部欄外記) 女起解 (本文卷頭) 《丑上白》你說你公道。我說我公道。公道不公道。自有天知道。老漢崇公道。昨日有太原省。行
- (卷首記) 玉堂春 五頁 (上部欄外記) 玉堂春 (本文卷頭) 《小生上引》今奉聖命。來到洪洞。《白》今奉聖命出帝京。察訪惡霸與刁民。不論皇親與國戚。王

### 紅鸞禧 浜文庫/集 174/62

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 紅鸞禧 (封面記) 紅[鸞]禧/文明消遣/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (62) (上部欄外記) 紅鸞禧 (本文卷頭) 《天喜星上》《點降》《白》吾乃天喜星君是也。金玉奴與莫稽。有姻緣之分。今奉玉帝勅旨。與

### 挑華車/插刀盜雙鉤 浜文庫/集 174/63

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 挑滑車/盜雙鉤/名伶真詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (63)

- (卷首記) 挑華車 四頁 (上部欄外記) 挑華車 (本文卷頭) 《四龍套生上引》轅門旌旗動。準備戰番兵。《白》精忠報國志凌霄。領雄兵殺氣高。但願早
- (卷首記) 插刀盜雙鉤 四頁 (上部欄外記) 插刀盜雙鉤 (本文卷頭) 《關泰紀全何路通朱光祖全上關白》衆位仁兄。黃爺一人前去探山。這般時候。還不見到來。

### 擊鼓罵曹 (又名羣臣宴) 浜文庫/集 174/64

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 擊鼓罵曹 (又名羣臣宴) (封面記) 擊鼓罵曹/名伶真詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (64) (上部欄外記) 擊鼓罵曹 (本文卷頭) 《生上引》天寬地闊論機謀。智廣才多。《白》口似懸河語似流。全憑舌尖運機謀。男兒若展擎天手。

### 惡虎村 浜文庫/集 174/65

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 惡虎村 (封面記) 惡虎村/名伶真詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (65) (上部欄外記) 惡虎村 (本文卷頭) 《四家丁四英雄二淨同上 濮白》弟兄結義在江南。《武白》誰人不知四霸天。《濮》只因江南來失散。

### 打魚殺家 (又名討魚稅) 浜文庫/集 174/66

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 打魚殺家 (又名討魚稅) (封面記) 打魚殺家/討魚稅/名伶真詞/二簧真本/北平打磨廠學古堂印行 (66) (上部欄外記) 打魚殺家 (本文卷頭 事略 7 行從略) 《劇本》《李俊倪榮同上》《李》拳打南山猛虎。《倪》足踢北海蛟龍。《李》俺混江龍李俊。

### 石頭人成親/穆柯寨 (帶燒山) 浜文庫/集

174/67

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 石頭人成親/穆柯寨/名伶真本/改正准詞/北平打磨廠學古堂印行 (67)

- (卷首記) 石頭人成親 一頁 (上部欄外記) 石頭人成親 (本文卷頭) 《生白》咱是個石頭人你是個肉人。咱們兩個人這麼會成了夫妻。這件事
- (卷首記) 穆柯寨 (帶燒山) 七頁 (上部欄外記) 穆柯寨 (本文卷頭) 《紅淨內唱西皮倒板》元帥帳中。把令傳。《上唱流水板》孟良馬上。要加

**八郎探母（又名南北合）** 浜文庫/集 174/68

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（卷首記）八郎探母（又名南北合）（封面記）楊八郎探母/又名南北合/改正准詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行（68）（上部欄外記）八郎探母（本文卷頭）《衆上引白》錦衣上繡花。《生白》駙馬出朝陽。《外白》代漏朝女王。（丑白）大將長尾把。（莊白）

**打魚殺家（二本）** 浜文庫/集 174/69

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（卷首記）打魚殺家（二本）（封面記）打漁殺家/二本 一名慶頂珠 又名討漁稅/名伶真詞/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行（69）（上部欄外記）打魚殺家（二本）（本文卷頭）《蕭上唱慢板》昨夜晚。吃酒醉。和衣而臥。報曉鷄。驚醒了。夢裏南柯。二賢弟。在河下。相

**打龍袍/葭萌關** 浜文庫/集 174/70

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）打龍袍/北平崇文門外打磨廠東口內路南學古堂印行/真詞二簧（70）

- （卷首記）打龍袍 五頁（上部欄外記）打龍袍（本文卷頭）《小生上引太監同上》鳳閣龍樓。萬古千秋《白》平頂冠紗一鮮花。太陽一出照硃砂。南大一帶朝
- （卷首記）葭萌關 三頁（上部欄外記）葭萌關（本文卷頭）《頭場》《馬岱起霸》咳《上白》凜凜威風將。堂堂忠義郎。爲國擒大將。與主定家邦。我。馬岱。

**戰宛城 盜戟刺嬖** 浜文庫/集 174/71

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（卷首記）戰宛城 盜戟刺嬖（封面記）戰宛城/京調二簧/北平崇文門外打磨廠東口內路南學古堂印行（71）（上部欄外記）戰宛城（本文卷頭）《曹八將上起把點絳同白》請了《通名介》夏侯敦。許褚。典韋。樂進。于禁。李典。夏侯淵。徐晃

**六月雪（代法場）/浣紗記** 浜文庫/集 174/72

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）六月雪/浣紗計/京調二簧/北平崇文門外打磨廠東口內路南學古堂印行（72）

- （卷首記）六月雪（代法場） 五頁（上部欄外記）六月雪（本文卷頭）《丑旦上念趕板》我做禁子管婆娘。人人道我。賽閻王。有錢拿來我使用。靡錢叫他上編床。《
- （卷首記）浣紗記 三頁（上部欄外記）浣紗記（本文卷頭）《老生上白》且住。前面大江攔住。倘追兵到來。如何是好《丑內白》打魚的哇呵[呀]。那傍有一

**新安驛 又名女強盜/石秀殺山** 浜文庫/集 174/73

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）新安驛/石秀殺山/北平崇文門外打磨廠東口內路南學古堂印行/真詞梆子（73）

- （卷首記）新安驛 又名女強盜 五頁（上部欄外記）新安驛（本文卷頭）《丑旦上趕板》開店打夥。終日受奔波。有人住着我的店。不死三更見閻羅《白》老身周門李氏。我
- （卷首記）石秀殺山 三頁（上部欄外記）石秀殺山（本文卷頭）《和尚上唱》時才間。在禪堂。拜佛念經。忽然間。想起了。美貌佳人。叫徒弟。你與我。梆兒敲

**倒廳門/莊子搗墳** 浜文庫/集 174/74

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）梆子倒廳門/莊子搗墳/真詞梆子/北平崇文門外打磨廠東口內路南學古堂印行（74）

- （卷首記）倒廳門 五頁（上部欄外記）倒廳門（本文卷頭）《旦引》滿懷心復事。盡在不言中《白》奴殷氏滿堂。許配陳光瑞爲妻。我夫妻收拾上任。行至九
- （卷首記）莊子搗墳 三頁（上部欄外記）倒廳門（本文卷頭）《生上引》修仙悟道快樂無窮逍遙《詩》莫把玉繩套項。休將金鎖纏身。眼前骨肉非真。快樂逍遙本

**宮門掛玉帶 又名拾道本** 浜文庫/集 174/75

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 宮門掛玉帶 又名拾道本 (封面記) 宮門掛玉帶/文明消遣/北平崇文門外打磨廠東口內路南學古堂印行 (75) (上部欄外記) 宮門掛玉帶 (本文卷頭) 《小生上引》三授晉陽城江山得太平《詩》奉旨興兵滅烟塵。累社稷苦盡心。但愿吾父龍體好。滿斗

**烏盆計 行路遇雨投宿** 浜文庫/集 174/76

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 烏盆計 行路遇雨投宿 (封面記) 烏盆計/金鶴年真詞/校對無訛/北平打磨廠學古堂印行 (76) (卷尾記) (下接二本奇冤報) (上部欄外記) 烏盆計頭本 (本文卷頭) 《丑引生上唱西皮散板》一日離家一日深。好似孤雁宿寒林《白》卑人劉世

**奇冤報 堆鬼 公堂** 浜文庫/集 174/77

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 奇冤報 堆鬼 公堂 (封面記) 奇冤報/堆鬼公堂/金鶴年真詞/校對無訛/北平打磨廠學古堂印行 (77) (上部欄外記) 奇冤報 (本文卷頭) 《上丑白》呀。老天哪。老天。我想趙大與我一樣之人。爲何他就會發起

**逍遙津** 浜文庫/集 174/78

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 逍遙津 (封面記) 逍遙津/京詞二簧/校正真詞/北平打磨廠學古堂印行 (78) (上部欄外記) 逍遙津 (本文卷頭) 《兩旗牌引上張遼上》《引》腰懸昆吾劍。虎將血染衣。《定場》堂堂英雄氣。丈夫世間奇。安服天

**斷太后** 浜文庫/集 174/79

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 斷太后 (封面記) 天齊廟/包公斷后/名伶真本/京詞二簧/北平打磨廠學古堂印行 (79) (上

部欄外記) 斷太后 (本文卷頭 事略 11 行從略) 《四青袍上王超馬漢上淨上引》一片丹心保宋主。錦綉龍廷《白》嘩喇喇打

**雙斷橋/董家山 一名闖山** 浜文庫/集 174/80

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 梆子雙斷橋/名伶真本/真詞梆子/全本/北平打磨廠學古堂印行 (80)

- (卷首記) 雙斷橋 三頁 (上部欄外記) 雙斷橋 (本文卷頭) 《旦內》嘍嘍嘍《唱倒板》被天兵。殺得我。無處逃走《上前扑後唱見板古》止不住。淚珠兒。
- (卷首記) 董家山 一名闖山 五頁 (上部欄外記) 闖山 (本文卷頭) 《四下手旦上點絳唇白》家住董家山。吃糧不種田。打我山前過。留下買路錢。奴家。董金蓮。

**遊龍戲鳳 又名梅龍鎮** 浜文庫/集 174/81

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 遊龍戲[鳳] 又名梅龍鎮 (封面記) 遊龍戲鳳/名伶真本/京詞二簧/北平打磨廠學古堂印行 (81) (上部欄外記) 遊龍戲鳳 (本文卷頭) 《生扮正德帝上引》龍遊芳草地。鳳繞牡丹池。《詩》大明一統鎮山河。龍車鳳輦難快活。孤王離了

**罵閻羅 (一名胡迪罵閻)** 浜文庫/集 174/82

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 罵閻羅 (一名胡迪罵閻) (封面記) 胡迪罵[閻]/名伶秘本/校對無訛/北平打磨廠學古堂印行 (82) (上部欄外記) 罵閻羅 (本文卷頭 事略 9 行從略) 《生上引》十載寒窗。勸學業。苦讀文章《白》如今朝事太平。奸賊專權亂朝廷。可歎岳家三父子

**彩樓配/戲迷傳/花子拾金** 浜文庫/集 174/83

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 彩樓配/花子拾金 戲迷傳/名伶秘本/京詞二簧/北平打磨廠學古堂印行 (83)

- (卷首記) 彩樓配 四頁 (上部欄外記) 彩樓配 (本文卷頭) 《一丫孃引正旦上》《引》孝

子是王祥。烈女是孟姜《詩》閨中幼女不知愁。梳

- (卷首記) 時慧寶 演 戲迷傳 二頁 (上部欄外記) 戲迷傳 (本文卷頭) 《引》愛習迷傳。每日裏文武崑亂。《白》鄙人姓伍名音字六律自幼愛習
- (卷首記) 劉七 演 花子拾金 三頁 (上部欄外記) 花子拾金 (本文卷頭) 《西皮慢板》想當年。進中原。何等僥倖。不料那。偶然間。面南稱尊。

## 欠本 浜文庫/集 174/84

### 審頭刺湯/滑油山 浜文庫/集 174/85

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 審頭刺湯/樊金定罵城/校對無訛/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (85)

- (卷首記) 審頭刺湯 五頁 (上部欄外記) 審頭刺湯 (本文卷頭) 《生上引》身受皇恩祿。千鍾品爲尊。《白》自幼讀書貫古今。紫袍欽賜享太平。聖上寵愛嚴閣
- (卷首記) 滑油山 三頁 (上部欄外記) 滑油山 (本文卷頭 事略 4 行從略) 《老旦內白》苦哇。《唱二簧倒板》黑暗暗。霧茫茫。日月照恍。《大鬼內白》呔。拉着走哇。《

### 美人計 (又名迴荊州) 浜文庫/集 174/86

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 美人計 (又名迴荊州) (封面記) 迴荊州/蘆花蕩三氣周瑜/京調二簧/校正准詞/北平打磨廠學古堂印行 (86) (上部欄外記) 美人計 (本文卷頭) 《正旦上引》我兄一人鎮江南。奴爲郡主非等閑《詩》昨晚春風過池塘。荷花重開滿園香。燕子

### 走雪山/紡棉花 浜文庫/集 174/87

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 椰子走雪山/小馬五紡棉花/秦鳳雲准詞/金鋼鑽校正/北平打磨廠學古堂印行 (87)

- (卷首記) 走雪山 三頁 (上部欄外記) 走雪

山 (本文卷頭) 《大士上場》一言未盡。曹福來也《旦尖板》主僕們逃出了天羅網《生上唱》大

- (卷首記) 紡棉花 五頁 (上部欄外記) 紡棉花 (本文卷頭) 《旦上白》嘎哼。我們當家的不在家。終朝每日思想他。我王氏。配夫張

### 殺府逃國/秦瓊觀陣 浜文庫/集 174/88

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 殺府逃國/秦窮觀陣/真正椰子/京腔真調/北平打磨廠學古堂印行 (88)

- (卷首記) 殺府逃國 三頁 (上部欄外記) 殺府逃國 (本文卷頭) 《大板旦唱》娘懷兒。一個月。不知不覺。娘懷兒。兩個月。纔知其情
- (卷首記) 秦瓊觀陣 四頁 (上部欄外記) 秦瓊觀陣 (本文卷頭) 《生上唱倒板》登州城困住了。秦叔寶《慢板》遊來遊去好心焦。馬渴了去

### 殺狗勸妻 (一名忠孝圖) /拾萬金 望鄉台 浜

文庫/集 174/89

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 曹莊殺妻/椰子腔准詞/崔靈芝 善報莊/金鋼鑽 望鄉台/北平打磨廠學古堂印行 (89)

- (卷首記) 殺狗勸妻 (一名忠孝圖) 七頁 (上部欄外記) 殺狗勸妻 (本文卷頭) 《老旦上引》我兒山中去打柴。到叫爲娘掛心懷《白》老身今年七十多。好比路旁草一顆。今年
- (卷首記) 拾萬金 望鄉台 一頁 (上部欄外記) 拾萬金 (本文卷頭) 《旦上唱快板》經堂裏命喪了。三魂游渺赴陰曹。叫二鬼。你與我把路代。劉全又把紙燒。《

### 得意緣 交鏢下山 浜文庫/集 174/90

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 得意緣 交鏢下山 (封面記) 得意緣/真正二簧/京調准詞/頭本/北平打磨廠學古堂印行 (90) (上部欄外記) 得意緣 (本文卷頭) 《盧昆杰上引》濃陰草色照紗窗。風送外客寓他鄉。庭竹黃昏隨意願。子規啼上木蘭花《白》俺

**交鏢下山** 浜文庫/集 174/91

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 交鏢下山 (封面記) 交鏢下山/二本得意緣/校對無訛/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (91) (上部欄外記) 交鏢下山 (本文卷頭) 《哭介》《雲哭》噯呀算了罷。不用聽我哭了。你一定要走。只好跟你去就完了。《盧》這便

**雙官誥** 浜文庫/集 174/92

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 雙官誥 (封面記) 梆子雙官誥/校對無訛/京調梆子/北平打磨廠學古堂印行 (92) (上部欄外記) 雙官誥 (本文卷頭) 《生旦同上正生引》盤桃宴上從結果《正旦引》月出丹桂蓮花池《白》老爺請坐

**奇雙會(哭監寫狀三拉團圓)** 浜文庫/集 174/93

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 奇雙會(哭監寫狀三拉團圓) (封面記) 奇雙會 頭本/京調二簧/校對准詞/北平打磨廠學古堂印行 (93) (上部欄外記) 奇雙會 (本文卷頭) 《四小鬼二判官獄神上》《點絳》湛湛青天。神目如電。陰陽轉。誰能遲延。善惡頃刻現。《白》爲人

**奇雙會(二段)** 浜文庫/集 174/94

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 奇雙會(二段) (封面記) 奇雙會 二本/寫狀子/代團圓/北平打磨廠學古堂印行 (94) (上部欄外記) 奇雙會 (本文卷頭) 《桂枝白》相公快快搭救我爹爹才是。《哭趙寵白》夫人不必如此。待我看看令尊的招詳便知。來。

**虹霓關 又名替夫報仇/完璧歸趙** 浜文庫/集 174/95

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(封面記) 虹霓關/完璧歸趙/著名藝員校對/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (95)

• (卷首記) 虹霓關 又名替夫報仇 三頁 (上部欄外記) 虹霓關 (本文卷頭) 《四黑一丑上淨點白》昨天晚上落將星。吉凶二字尚未明。我今鎮守虹霓地。要把瓦崗一掃平

• (卷首記) 完璧歸趙 五頁 (上部欄外記) 完璧歸趙 (本文卷頭) 《生內倒板》適纔奉命。到西秦《旗牌龍套生上唱西皮原板》蘭相如。在馬上。暗自思忖。普天

**甘露寺 一名龍鳳配** 浜文庫/集 174/96

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 甘露寺 一名龍鳳配 (封面記) 甘露寺招親/又名龍鳳配/著名藝員校對/京調二簧/北平打磨廠學古堂印行 (96) (上部欄外記) 甘露寺 (本文卷頭) 《生內唱西皮倒板》劉玄德。在荊州。心中煩悶《四龍套生上唱原板》爲國家。晝夜裏。那得安

**頭本四進士 節義廉明** 浜文庫/集 174/97

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 頭本四進士 節義廉明 (封面記) 頭本四進士/節義廉明/北平打磨廠學古堂印行 (左右欄外記) 四進士頭本 (本文卷頭) 《宋士杰內白[嗯]眼上引》爲人多積善。天保福壽長《白》我勸世人休弄乖。各把門前雪掃開。積些陰

**二本四進士 節義廉明** 浜文庫/集 174/98

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 二本四進士 節義廉明 (封面記) 二本四進士/節義廉明/北平打磨廠學古堂印行 (左右欄外記) 四進士二本 (本文卷頭) 《丑允》《田唱搖板》有田氏。坐車輻。心神不定。罵一聲。楊素貞。無恥賤人。叫小兒。回家去。

**三本四進士** 浜文庫/集 174/99

北平 學古堂 鉛活字 七頁 (兩面印刷) 一冊 洋中

(卷首記) 三本四進士 (封面記) 四進士/三本 節義廉明/北平打磨廠學古堂印行 (99) (上部欄外記) 四進士 (本文卷頭) 《春白》南京水西門人氏《末》念你異鄉人。饒你四十板子。《春》叩謝大

人。《末》可有狀子。《春》有狀

星（本文卷頭）《二童同上二家將上白》志氣昂昂貫斗牛。《高》殺父冤仇幾時休。《石》狹路相逢難迴避

### 清官冊 浜文庫/集 174/100

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（卷首記）清官冊（封面記）清官冊/校對無訛/名伶秘本/北平打磨廠學古堂印行（100）（上部欄外記）清官冊（本文卷頭）《四青袍上老生上引》坐清官。民之父母。積陰功。留與兒孫。《白》讀詩書智廣才高。仲狀元清史

### 拜壽算糧 浜文庫/集 174/101

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（卷首記）拜壽算糧（封面記）拜壽算糧/名伶秘本/梆子真詞/北平打磨廠學古堂印行（101）（上部欄外記）拜壽算糧（本文卷頭）《老生上》我本是一朝忠宰。到做了列位三台。《院上》啓相爺。滿朝文武前來拜壽《老生》明

### 錯中錯/刺目勸學 浜文庫/集 174/102

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）錯中錯/梆子腔准詞/刺目勸學/小翠花真詞/北平打磨廠學古堂印行（102）

- ・（卷首記）錯中錯 六頁（上部欄外記）錯中錯（本文卷頭）《丑上白》買賣興隆通四海。財源茂盛達三江。我張和尚便是。只因自小不幸。我父親下世去了
- ・（卷首記）刺目勸學 二頁（上部欄外記）刺目勸學（本文卷頭）《生丑上生唱》恨爹娘。全無有父子情分。打的我遍體血。命見閻王。去荒郊遇大哥。感恩不

### 劍美案/雙觀星 浜文庫/集 174/103

北平 學古堂 鉛活字 七頁（兩面印刷） 一冊 洋中

（封面記）劍美案/雙觀星//北平打磨廠學古堂印行（103）

- ・（卷首記）劍美案 六頁（上部欄外記）劍美案（本文卷頭）《淨上引張龍趙虎全》忠心赤胆。扶宋室。錦繡江山。《白》鐵面無私做南衙。文臣武將胆戰麻
- ・（卷首記）雙觀星 二頁（上部欄外記）雙觀

## 第十三帙，以上 101 冊

（ほかに欠本 3 冊）

### 参考文献

- [1] 落石清編，濱文庫（中国戲劇關係資料）目録，福岡：九州大学附属図書館教養部分館，1987；1988，pp. 48-75.
- [2] 中里見敬・山根泰志編，“濱文庫所蔵唱本目録稿（一）”，言語科学（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）45，pp. 117-137，2010.
- [3] 中里見敬・山根泰志・威世雋編，“濱文庫所蔵唱本目録稿（二）”，言語科学（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）46，pp. 147-166，2011.
- [4] 中里見敬・山根泰志・威世雋編，“濱文庫所蔵唱本目録稿（三）”，九州大学附属図書館研究開発室年報（九州大学附属図書館）2010/2011，pp. 65-74，2011.
- [5] 中里見敬・山根泰志・威世雋編，“濱文庫所蔵唱本目録稿（四）”，言語科学（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）47，pp. 91-110，2012.
- [6] 中里見敬・山根泰志・李麗君，“濱文庫所蔵唱本目録稿（五）”，九州大学附属図書館研究開発室年報（九州大学附属図書館）2011/2012，pp. 51-60，2012.
- [7] 中里見敬・山根泰志・中尾友香梨，“濱文庫所蔵唱本目録稿（六）”，言語科学（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）48，pp. 95-119，2013.

### 謝辞

本稿作成にあたり，データの処理を九州大学附属図書館 e リソースサービス室リポジトリ係長の星子奈美氏にお願いした。また，濱文庫の閲覧および作業場の確保にあたって，それぞれ利用支援課サービス企画係，資料整備室図書目録係より格別のご配慮を賜った。図版の掲載に関しては，早稲田大学図書館および九州大学附属図書館よりご厚意を賜った。記して感謝したい。

本稿は日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C)「濱文庫所蔵唱本目録の作成」(2011～2015年度，課題番号：23520437)による成果の一部である。

濱文庫蔵本(左)と早稲田大学図書館風陵文庫蔵本(右)の比較

『天水關/龔雲甫陳德霖合唱母女會之唱詞/郭瑞卿任絳仙別皇宮之唱詞』北平 學古堂 鉛活字本

表紙の文字は同じだが、デザインと写真は異なる。1頁後から7行目、劉禪(小生)の唱詞、濱文庫本は「樂富太平」とするが、風陵文庫本の「樂享太平」が正しい。



図 1a 浜文庫/集 174/24 表紙



図 1b 風陵文庫 2157 (f0400 m0215) 表紙

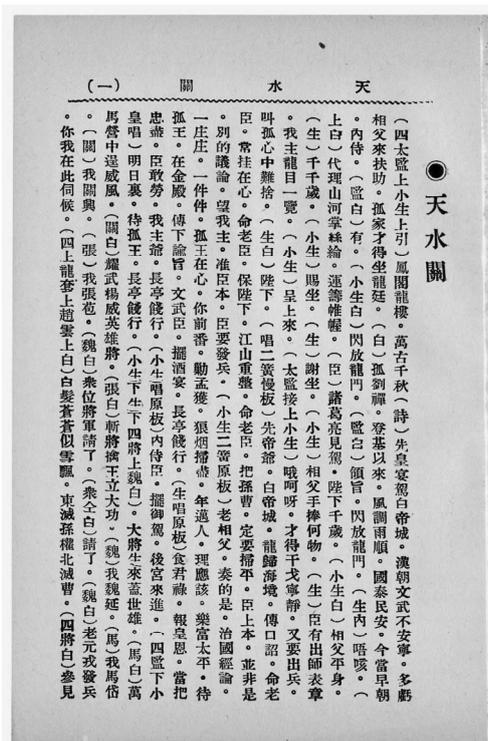


図 2a 浜文庫/集 174/24 第 1 頁

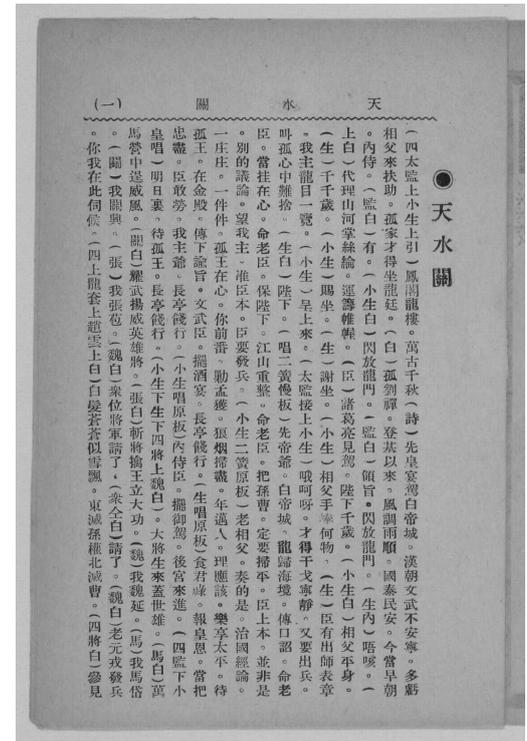


図 2b 風陵文庫 2157 (f0400 m0215) 第 1 頁

『女斬子/三世修 又名黃桂香研磨』北平 學古堂 鉛活字本

表紙の文字は同じだが、デザインと写真は異なる。1頁最終行の「旦」字が濱文庫本は転倒。



図 3a 濱文庫/集 174/28 表紙

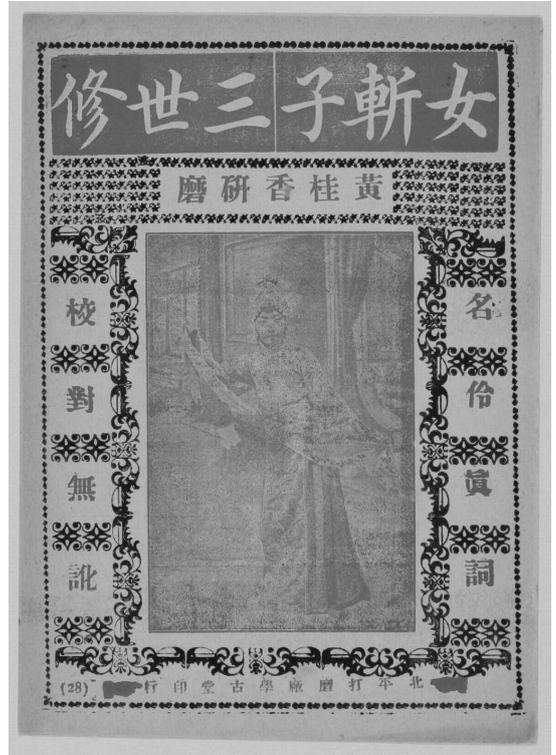


図 3b 風陵文庫 2359 (f0400 m0116) 表紙

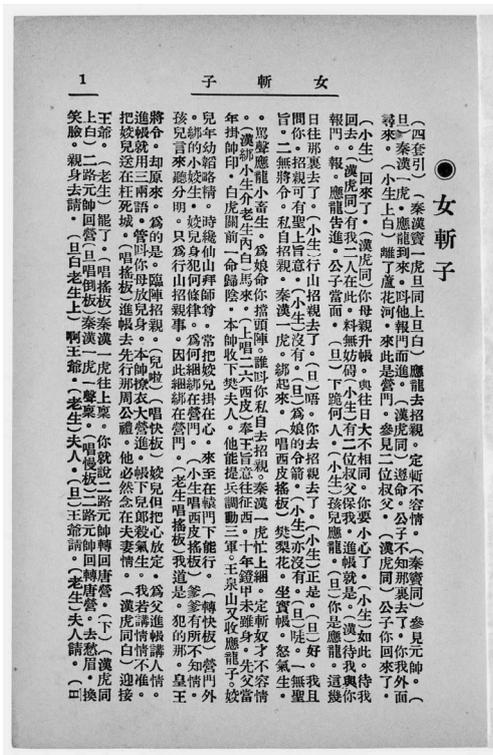


図 4a 濱文庫/集 174/28 第 1 頁

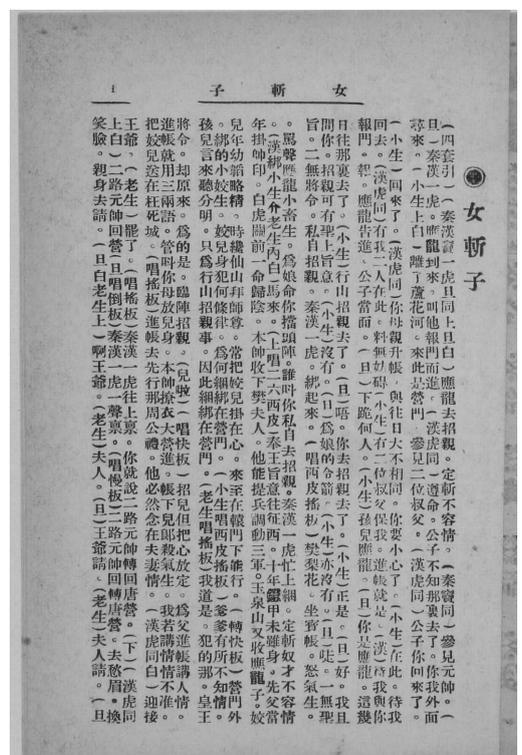


図 4b 風陵文庫 2359 (f0400 m0116) 第 1 頁

『二本四郎探母（過關見娘回令）』 北平（北京） 學古堂 鉛活字本

濱文庫本は句点「。」，風陵文庫本は読点「，」を用いる。表紙，濱文庫本は「北平」，風陵文庫本は「北京」に作る。国民政府南遷後の1928年以降は北平，日本占領下の1937年以降は北京と称したことを反映するか。



図 5a 浜文庫/集 174/40 表紙



図 5b 風陵文庫 2348 (f0400 m0095) 表紙

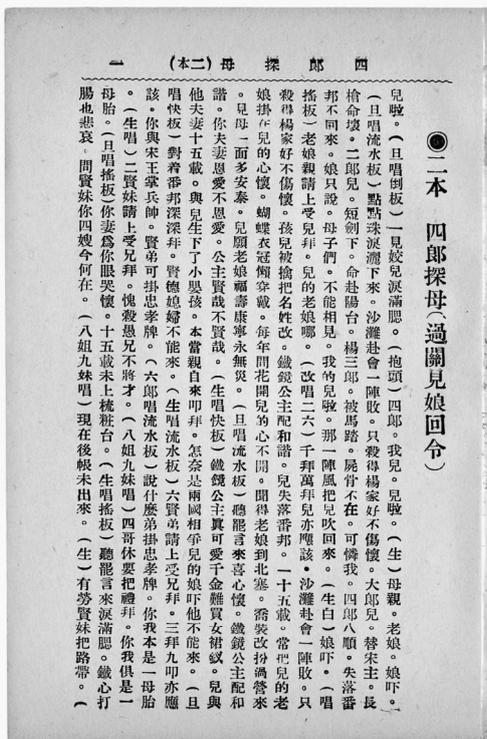


図 6a 浜文庫/集 174/40 第 1 頁

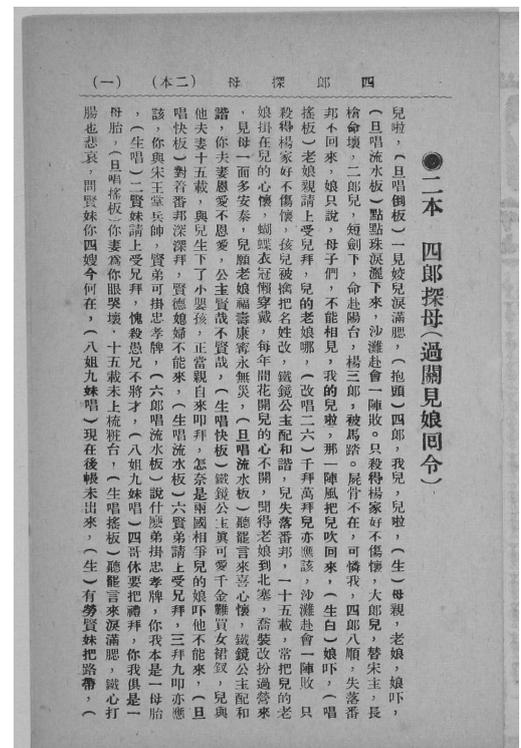


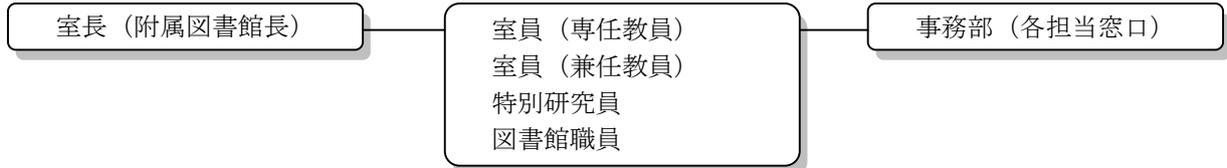
図 6b 風陵文庫 2348 (f0400 m0095) 第 1 頁

# 研究開発室の設置

## 1 設置の目的

九州大学附属図書館研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が指定する事項について研究開発を行い、もって高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

## 2 組織



## 3 名簿

### <平成24年度>

室長	
川本 芳昭	附属図書館長, 副学長
室員	
吉田 素文	附属図書館副館長, 医学研究院教授
馬場 謙介	附属図書館研究開発室准教授
石田 栄美	附属図書館研究開発室准教授
三輪 宗弘	附属図書館付設記録資料館教授
岡崎 敦	人文科学研究院教授
川平 敏文	人文科学研究院准教授
堀 賀貴	人間環境学研究院教授
中里見 敬	言語文化研究院准教授
荒木啓二郎	システム情報科学研究院教授
竹田 正幸	システム情報科学研究院教授
富浦 洋一	システム情報科学研究院教授
田中久美子	システム情報科学研究院教授
藤崎 清孝	システム情報科学研究院准教授
池田 大輔	システム情報科学研究院准教授
廣川佐千男	情報基盤研究開発センター教授
伊東 栄典	情報基盤研究開発センター准教授
井上 仁	情報基盤研究開発センター准教授
松原 孝俊	韓国研究センター教授
森 雅生	大学評価情報室助教
井上 創造	研究開発室特別研究員, 九州工業大学准教授
黒澤 節男	研究開発室特別研究員
南 俊朗	研究開発室特別研究員, 九州情報大学教授
Wolfgang Michel	研究開発室特別研究員

### <平成25年度>

室長	
川本 芳昭	附属図書館長, 副学長
室員	
吉田 素文	附属図書館副館長, 医学研究院教授
馬場 謙介	附属図書館研究開発室准教授
石田 栄美	附属図書館研究開発室准教授
三輪 宗弘	附属図書館付設記録資料館教授
岡田 義広	附属図書館付設教材開発センター教授
岡崎 敦	人文科学研究院教授
川平 敏文	人文科学研究院准教授
堀 賀貴	人間環境学研究院教授
中里見 敬	言語文化研究院准教授
荒木啓二郎	システム情報科学研究院教授
竹田 正幸	システム情報科学研究院教授
富浦 洋一	システム情報科学研究院教授
田中久美子	システム情報科学研究院教授
藤崎 清孝	システム情報科学研究院准教授
池田 大輔	システム情報科学研究院准教授
山田 政寛	基幹教育院准教授
廣川佐千男	情報基盤研究開発センター教授
伊東 栄典	情報基盤研究開発センター准教授
井上 仁	情報基盤研究開発センター准教授
松原 孝俊	韓国研究センター教授
森 雅生	大学評価情報室准教授
井上 創造	研究開発室特別研究員, 九州工業大学准教授
黒澤 節男	研究開発室特別研究員
南 俊朗	研究開発室特別研究員, 九州情報大学教授
Wolfgang Michel	研究開発室特別研究員

## 平成 24 年度における研究開発

### 1 統合移転後の新図書館計画に関する調査研究

室 員 堀 賀貴（人間環境学研究院教授）  
職 員 堀 優子（利用支援課サービス企画係長）  
担当窓口 松石 健祐（図書館企画課企画係長）

#### <研究開発の概要>

新中央図書館建設に向け、必要とされる図書館機能及びそれらを実現するための施設設備・サービスに関する調査研究を行う。

#### <研究開発の内容>

22年度より新中央図書館検討専門部会の下に設置された「新中央図書館基本計画検討ワーキンググループ」の座長を堀賀貴室員が務め、基本計画の策定を続けている。24年度は新中央図書館が備えるべき収蔵能力、座席数、および各階のゾーニング等について検討を行った。また、堀室員は新中央図書館が建設される伊都キャンパスの文系地区の基本設計計画の検討コアチームにもワーキンググループを代表として委員として参加し、地区の設計にあたり新中央図書館基本計画のコンセプトが適切に反映されるよう提言等を行った。

また、職員2名（松石、堀）が24年度に新たに開館した国内2大学（明治大学和泉図書館、立教大学池袋図書館）を視察し、各館の担当者と意見交換を行った。視察内容は平成24年度附属研究開発室活動発表会において報告された。

### 2 海外の大学図書館に関する調査研究

室 員 松原 孝俊（韓国研究センター教授）  
職 員 北島 光朗（利用支援課資料サービス係）  
担当窓口 松石 健祐（図書館企画課企画係長）

#### <研究開発の概要>

海外、特にアジア諸国の大学図書館との図書館間交流の推進についての調査研究を行う。

#### <研究開発の内容>

24年8月に韓国の全南大学校図書館の職員が来訪し、伊都図書館の施設見学を行うとともに両国における図書館サービスの現状等について意見交換を行った。また24年9月にはイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校と学術交流協定を締結した。協定の締結に先立ち、6月には図書館職員がイリノイ大学図書館を訪問し、業務上の協力体制について意見交換を行ったほか、7月にはイリノイ大学よりPaula Kaufman氏（アーバナ・シャンペーン校図書館長兼図書館部長）が来訪し、川本図書館長をはじめ業務担当者と意見交換を行った。その他、インディアナ大学図書館ブルーミントン校図書館部長の来訪があったほか、トロント大学図書館とは学術交流協定を延長し、引き続き密接な協力関係を継続する予定である。

### 3 図書館職員の専門性育成に関する調査研究

室員	石田 栄美 (附属図書館研究開発室准教授)
	岡崎 敦 (人文科学研究院教授)
	川平 敏文 (人文科学研究院准教授)
職員	古賀 香 (資料整備室図書受入係)
	山根 泰志 (資料整備室図書目録係)
	古賀 京子 (利用支援課資料サービス係)
担当窓口	久原 明美 (資料整備室長, 図書館専門員)
	諸岡 静児 (文系合同図書室長, 図書館専門員)

#### <研究開発の概要>

九州大学が所蔵するコレクションについて、その由来や内容、価値、目録形成等についての調査研究を行うとともに、その成果を共有化することにより、サブジェクトライブラリアンとしての職員の専門性育成を図っていく。

#### <研究開発の内容>

##### 1. 連続講演会「ライブラリーサイエンスの現在」の開催

23年4月に設置された大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻との共催による連続講演会「ライブラリーサイエンスの現在」を昨年度に引き続き開催した。この講演会は、図書、文献、記録情報の管理についての最新の動向を提供することで、本学の教職員・学生の研究、教育、業務運営の向上に資するとともに、図書館職員をはじめとする関係領域の職員の専門性の向上を図ることを目的とされた。24年度は8回開催し、参加者数は計264名、23年度から通算すると475名にのぼった。第15回の講演をもって連続講演会は終了となったが、講演会の動画は九州大学公式YouTubeで公開し、学内外へ広く発信している。

[第8回] 4/25 情報へのアクセスの高度化と自然言語処理

講師：富浦洋一 システム情報科学研究院教授

[第9回] 5/30 九州帝国大学法文学部の創設 ―大学文書館資料から見た―

講師：折田悦郎 大学文書館教授

[第10回] 6/27 太平洋戦争開戦経緯の研究をふり返って ―思索し、資料を探し求めて―

講師：三輪宗弘 記録資料館教授

[第11回] 8/21 歴史的公文書保存と人材育成の展望

講師：針谷武志 別府大学史学科教授

[第12回] 9/24 情報の法的取扱いとライブラリーサイエンス

講師：酒匂一郎 法学研究院教授

[第13回] 12/19 江戸版本書誌学の諸問題 ―本学所蔵書籍を中心に―

講師：川平敏文 人文科学研究院准教授

[第14回] 1/23 高等教育の電子教材における他人の著作物の利用と問題点

講師：吉田素文 医学研究院教授/附属図書館副館長

[第15回] 2/20 武雄市図書館問題から考える図書館の現在 ―指定管理者、個人情報・プライバシー保護をめぐって―

講師：湯浅壘道 情報セキュリティ大学院大学教授

##### 2. 雅俗文庫目録の公開

21年度に受け入れた中野三敏名誉教授の旧蔵書である「雅俗文庫」について、人文科学研究院の教員・大学院生とともに、24年度も継続して書誌情報の採取・データ入力を実施し、「九州大学所蔵コレクション目録データベース」で簡易目録を公開している。

分類については、中野名誉教授による分類名をもとに川平敏文室員が作成した分類表に基づき、請求記号の付番方針を決定した。今後配架場所等を検討し、図書館システムへの登録を順次進めて行く予定である。

### 3. 本学所蔵コレクションの調査研究

24年度は、本事項参加職員を中心に桑木文庫の調査・再整理を行った。桑木文庫は、近代日本を代表する物理学者であり、九大理学部の基礎を築いた工学部教授桑木或雄が、工学部数学物理学教室に蒐集した科学史文献を、理学部移管後に斯く称したものであり、国内有数の科学史コレクションとして広く知られている。遡及入力は完了しており、近年では数理学研究院により電子化も進められている。

その桑木文庫について、元々冊子体の目録に記載されていた図書や、手書きで追記された図書が、天文和算資料群や書庫の理学部エリアに入っているものがあることがわかり、調査の上、約50件につき桑木文庫に編入した。併せて桑木文庫の不明図書リストを作成し、不明図書の現状を把握した。これらの作業により、誤って不明扱いになっていた図書を復元することができた。

また、桑木文庫と複雑な関係にある理学部教授伊藤徳之助旧蔵本や、由来不明の梅田三郎和算書につき、調査を進めた。伊藤徳之助旧蔵本は、地球物理学関係の図書、特に江戸期の地震災害資料を多く含むことに特徴がある。梅田三郎は、陸奥中村藩和算家で二宮仕法により相馬を復興したことで知られる荒至重の門下であること、和算書中には至重の写本（『一千題之内丙之解』）やその師である内田五観の和算書の写本が含まれていること、日本学士院にも梅田三郎の和算書が所蔵されていること等が判明した。

## 4 学習・教育活動との連携に関する調査研究

室員	吉田 素文（附属図書館副館長、医学研究院教授）
	富浦 洋一（システム情報科学研究院教授）
	井上 仁（情報基盤研究開発センター准教授）
職員	堀 優子（利用支援課サービス企画係長）
	宮嶋 舞美（情報システム部情報基盤課デジタルライブラリ担当）
	大村 武史（伊都地区図書課企画運営係）
担当窓口	古賀 幸成（利用支援課長）

### <研究開発の概要>

大学における学習・教育活動と連携した新たな教育支援のあり方について調査研究を行う。

### <研究開発の内容>

#### 1. 「ICTによる自律的学習・教育体制の構築」の取り組み

「平成24年度九州大学教育の質向上支援プログラム（EEP）」において、「ICTによる自律的学習・教育体制の構築」の取組が平成23年度から継続して採択された。

本取り組みは、附属図書館とその付設教材開発センターおよび統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻が一体となって、理論に基づく教授方法を全学的に推進し、ICTと学術情報基盤を活用した教育の効果を最大限に発揮することにより、教育基盤の価値を生かした自律的学習者の養成とその自律的な学習学修を支援する教育方法を軌道に乗せることを目的とするものである。

2年目となる24年度の取り組み概要は、以下のとおりである。

##### 1) ニーズ調査

自律的学習者の育成という観点から、現在の教育環境やニーズを詳細に把握するため、教員や学生を対象にアンケート及び聞き取り調査を実施した。

##### 2) 職員研修

理論に基づく教授方法を推進していくための人材育成方策として、学外における教授技術に関する研修プ

プログラムへ本取組スタッフが積極的に参加した。また、学内図書館職員向けインストラクショナル・デザイン(I D)研修を企画・実施した。

### 3) 学生との協働

図書館における自主的な学びを促進する目的で、学部4年生および大学院生を図書館学習サポーター(Cuter)として雇用し、図書館職員との協働による学習支援プログラムを開発した。

### 4) 教材開発と利用促進

高い学習効果を上げ、かつ能動的学習者の養成を促進することを目的とするモデル的なeラーニングコンテンツを開発(Cute.Guides)し、さらに同教材のモバイル・デバイスでの利用を促進した。

以上は、23年度から継続した取り組みであるが、24年度は、様々な手法・アイデアを取り入れ、さらに新たな取り組みを企画・実施するなど、より発展させることができた。

また、24年度は、新たに以下の取り組みを行った。

### 5) 成果発信

EEPの取り組み成果を積極的に発信した。

#### ①ウェブサイトの活用

- ・インストラクショナル・デザイン研修のページを図書館ウェブサイトにて作成(学内限定)
- ・Cute.Guidesを図書館ウェブサイトの「学習」コンテンツからリンク

#### ②シンポジウムの開催

- ・MOOCsと電子図書館のための国際セミナーとワークショップを大学ICT推進協議会等と共催で開催(2/24)

#### ③学協会での発表

- ・情報メディア学会研究大会でパネルディスカッションに参加

「重なり合う実空間と電子空間：ラーニング・コモンズxディスカバリサービス」パネリスト 天野絵里子(7/7)

- ・24年11月17日(土)日本図書館情報学会研究大会(九州大学)で発表

吉田素文「電子教材作成支援は図書館情報学の範疇か? :他人の著作物を含む電子教材の作成支援における大学図書館の役割」(11/17)

- ・Q-Conference(場所:九州産業大学)にてCuterの活動を学生自らがポスター発表(3/2)

#### ④全教職員ならびに学外への冊子配付

報告書をiBook形式およびPDF形式でQR(九州大学学術情報リポジトリ)を通じて配信

#### ⑤その他

- ・附属図書館研究開発室年報に23年度の成果を掲載。

兵藤健志, 天野絵里子, 中園晴貴. 大学図書館活用セミナーをリデザインする:インストラクショナル・デザインを意識した図書館ガイダンスの取り組み. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2011/2012, p.24-31, 2012.7. <http://hdl.handle.net/2324/24952>

- ・LibGuidesの解説記事を国立国会図書館の刊行物に投稿。

天野絵里子. つながるLibGuides: パスファインダーを超えて. カレントアウェアネス-E. No.234, E1410, 2013.3.28. <http://current.ndl.go.jp/e1410>

### 6) 学内連携体制の整備

・大学評価情報室, 学務部および附属図書館研究開発室と, 学習成果と図書館利用との関連の検証などについて, 今後の連携について検討を進めた。

・ICTを活用した医学教育について, 医療系統合教育研究センターと教材開発センターの今後の連携が実現した。

以上の取り組みの成果は, 自律的学習者の学習成果となって最終的に現れることを期待したいが, 今後, これらの取り組みを推進していくためには, さらに多様な学内組織と, より深く連携することが必須であることが明らかになった。また, 26年度以降本格的に始まる基幹教育との協働も視野に入れ, 本取り組みで整備した体制をさらに活用し, 発展させる必要があると考える。

## 2. 初年次教育と連携した授業への取り組み

学生の読む力・伝える力の向上や, 興味・視点の拡大, 読書推進等を目的として, 附属図書館と初年次教

育を担当する教員、及び活字文化推進会議\*と連携した授業実践「よむつたえる」を企画し、以下の取り組みを実施した。

1) 一年生コアセミナーにおいてビブリオバトルの実践

法学部、農学部及び21世紀プログラムの各1クラスのコアセミナー(全学教育1年次前期必修科目)の授業でビブリオバトル\*\*の実践を行った。

2) よみサポプログラムに参加

より多くの若い人に新聞や活字に親しんでもらうことを目的に、読売新聞社が大学生に新聞を無償で提供する「よみサポプログラム」に九州大学として参加し、公募で選ばれた80名の九大生が半年間、毎朝新聞の届く生活を体験した。

3) 新聞を活用したゼミ

上記プログラムを利用し、21世紀プログラムでは新聞を活用したゼミを実施した。ゼミの前半では、読売新聞社から講師を招き、新聞の作られ方、記事の書き方などについてレクチャーを行った。

4) 公開授業として、フォーラムを開催

25年1月26日(土)、分かりやすいニュース解説でおなじみのジャーナリスト池上彰氏を招き、「何のために学び、何のために伝えるのか」と題した公開フォーラムを開催し、第1部の講演、第2部では、池上氏と21世紀プログラムの学生が、教養教育のあり方等についてディスカッションを行った。

以上が取り組み概要であるが、各取り組みに参加した学生及び実施教員に対して、アンケートやヒアリング等を実施し、検証を行った。(詳細については、本誌P. 34~43の事例報告を参照のこと。)

この検証結果を踏まえ、平成25年度は、目標設定をより明確にした授業に取り組みつつ、今後の九州大学の教養教育の改革を見据えた新たな教育との連携のあり方を検討していく。

\* 活字文化推進会議----読売新聞社が出版関係業界と協力して発足、本や新聞などの活字文化を守り育てるための「21世紀活字文化プロジェクト」を展開している。

<http://katsuji.yomiuri.co.jp/>

\*\* ビブリオバトル----「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」をコンセプトとした、本を用いて人と人を繋げ、人と知識を繋げる、知的遊戯。各人5分間で本を紹介したのち、2~3分間のディスカッションを行い、最後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

## 5 図書館マーケティングに関する研究開発

---

室員	馬場 謙介 (附属図書館研究開発室准教授)
	池田 大輔 (システム情報科学研究院准教授)
	伊東 栄典 (情報基盤研究開発センター准教授)
	南 俊朗 (附属図書館研究開発室特別研究員、九州情報大学教授)
職員	井川友利子 (利用支援課サービス企画係)
担当窓口	堀 優子 (利用支援課サービス企画係長)

### <研究開発の概要>

利用状況の分析を基にした図書館マーケティングと、それを活用したサービス・利用環境の改善、新たなサービスの創出に関する研究開発を行う。

### <研究開発の内容>

#### ○貸出データの解析

今年度も従来から進めてきた図書貸出記録の分析を継続した。特に貸し出された図書のNDC(日本十進分

類) カテゴリを利用した興味分野に関する学生や学部の特徴や相関の分析を行った。研究成果は3件の国際会議論文として発表した。

図書館データの解析手法を授業データに適用することで、新たに授業データの解析を開始した。出席や宿題を努力指標、試験の成績を成果指標とし、努力と成果の関連性を分析した。また、学生による自分自身や授業に関する評価アンケートの結果も合わせた分析も行った。今後は図書館データだけではなく授業データなども合わせて学生の学びへの姿勢を分析した結果を図書館の学生サービス向上につなげていく研究へと発展させていきたい。

## 6 学術情報リポジトリに関する研究開発

---

室員	馬場 謙介 (附属図書館研究開発室准教授)
	荒木啓二郎 (システム情報科学研究院教授)
	竹田 正幸 (システム情報科学研究院教授)
	富浦 洋一 (システム情報科学研究院教授)
	池田 大輔 (システム情報科学研究院准教授)
	廣川佐千男 (情報基盤研究開発センター教授)
	伊東 栄典 (情報基盤研究開発センター准教授)
	森 雅生 (大学評価情報室准教授)
職員	小柳 真弓 (eリソースサービス室リポジトリ係)
担当窓口	野原ゆかり (eリソースサービス室リポジトリ係長)

### <研究開発の概要>

学術情報リポジトリのコンテンツ拡充及び発信機能強化と教育研究活動への活用のため、機能の高度化、システム間連携、検索システム等に関する研究開発を行う。

### <研究開発の内容>

機関リポジトリに蓄積される学術論文、特に、学術雑誌や学術会議等のように査読を経て出版社から出版される論文の登録数を増やすことを目的として、「文献自動収集・登録ワークフローシステム」の開発を行った。このシステムは文献自動収集機能と登録ワークフロー管理機能の2つの機能を実現している。文献自動収集機能では、外部の学術論文データベースでの検索結果等に基づいて、著者へリポジトリへの登録依頼を行う。著者の自発的な登録を待つ代わりにリポジトリの管理者が登録の催促をするとともに、書誌情報の再利用によって登録作業の軽減を実現する。登録ワークフロー管理機能は、国内の複数研究機関に対する調査によって作成されたワークフローに基づいて、リポジトリ管理者の登録作業の進捗管理を行う。特に、時間を要する出版社の著作権ポリシーの確認については、外部データベースを用いて自動的にポリシーの確認を行う。また、九州大学において開発したシステムの試験運用を行った。このシステムの導入によって、文献自動収集機能については、学術雑誌・学術会議論文の登録数が著しく増加した。登録ワークフロー管理機能については、著者からの論文登録要請が大幅に増加したにもかかわらず、リポジトリ管理者の登録作業効率の顕著な悪化は見られなかった。

## 7 教員・学生のコミュニティ及びコンテンツ形成に関する研究

---

室 員 池田 大輔（システム情報科学研究院准教授）  
井上 創造（附属図書館研究開発室特別研究員，九州工業大学准教授）  
担当窓口 片岡 真（情報システム部情報基盤課デジタルライブラリ担当専門職員）

### <研究開発の概要>

学生や教員，または研究者同士のコミュニティを中心とした活発かつ効果的な教育研究のために，SNS（Social Networking Service）システムを基盤とした新機能の研究開発を行う。

### <研究開発の内容>

以前から，システム情報科学研究院において，コミュニティをベースにした情報共有基盤システム Magnet を構築し，部局内にて運用している。本年度は，様々な外部データベース（研究者情報DBやReaD等）と連携できることを目標として，データベースの形態や連携プロトコルの在り方など基礎的な検討をベースに，実際に動くプロトタイプを構築し，実運用における問題点の抽出を行った。

また，プロジェクト型学習（Project-based Learning: PBL）のためのコミュニティ支援Webシステムを以前から運用しているが，今年度は，複数のプロジェクトを一括して扱いやすくし，また相互のコメントが相互評価に直接つながり，成績付けにまで活用できる機能を一から作成した。これらのシステムは複数の講義で一年間運用され，講義運営の効率化ときめ細かい学生評価につながった。

## 8 RFIDおよびスマートセンサを使った図書館に関する研究

---

室 員 藤崎 清孝（システム情報科学研究院准教授）  
井上 創造（附属図書館研究開発室特別研究員，九州工業大学准教授）  
南 俊朗（附属図書館研究開発室特別研究員，九州情報大学教授）  
担当窓口 宮岡 大輔（伊都地区図書課利用サービス係長）

### <研究開発の概要>

図書館業務の効率化及び新たなサービスの創出のため，RFID（Radio Frequency Identification）を用いた図書館システムの調査や無線通信技術に関する評価を行うと共に，センサネットワークやスマートフォンなどの技術を用いたスマートセンサを組み合わせた新しい図書館システムの実現に向けた調査研究を行う。

### <研究開発の内容>

無線技術を用いたRFID (Radio Frequency IDentification) システムは，図書館業務の電子化，自動化やサービスの拡大に大きく寄与することが期待される。

今年度も，昨年度に引き続き，RFIDシステムの性能評価とその向上を目指した検討，スマートセンサを組み合わせた応用として行動センシングに関する研究並びに関連技術に関する調査を行った。

図書に貼付するタグは，サイズや厚さ，コストなど運用上の制約が大きく，タグの改良により性能向上を図ることは容易ではない。一方，リーダシステムについては，サイズや構造の変更は容易であり，自由度も大きい。まずは，既存の卓上リーダを用いて，放射される電磁界の広がりや強度，及び周りの環境が性能に与える影響を評価すべく，リーダを設置する台が金属板である場合の性能を評価した。その結果，リーダから放射される電磁界はリーダ中心部の読み取り性能を最大限にすべく，設計されていることが明らかになった。また，金属板上にリーダを設置した場合，その性能が大幅に低下すること。金属板とリーダの間に若干の空間を設けることで，性能はほぼ改善されることなどが明らかになった。この結果を電子情報通信学会九

州支部学生会講演会で報告し、学生会講演奨励賞を受賞した[1].

次に、スマートセンサの活用の一部として、携帯センサから在室状況を判別するアルゴリズムを開発した。スマートフォンなどの携帯センサを看護師に持ってもらい、加速度と音声を病棟で記録し、そのデータから看護師が病室に入室した時間帯を判定することができた。一方、病室に設置された騒音、照度、ベッドセンサから看護師の入室を判別するアルゴリズムも開発した。これらの技術は、図書館において利用者やスタッフの在室判定を行うことへの応用も可能となる。

今後も、卓上リーダやインテリジェント書架など、RFID技術の性能向上を目指した検討を遂行し、図書館に適したRFIDシステムの提案を目指す。更にスマートセンサ技術を適用した図書館システムを検討していく。

[1] 新美孟, 藤崎清孝, “図書管理用卓上型RFIDリーダの高性能化に関する研究1 –卓上型リーダの基本性能の評価–”, 2012年度電子情報通信学会九州支部学生会講演会, 長崎大学, 2012.9.26.

## 9 eリソース流通基盤に関する研究開発

---

室 員	馬場 謙介 (附属図書館研究開発室准教授)
	池田 大輔 (システム情報科学研究院准教授)
	伊東 栄典 (情報基盤研究開発センター准教授)
	南 俊朗 (附属図書館研究開発室特別研究員, 九州情報大学教授)
担当窓口	片岡 真 (情報システム部情報基盤課デジタルライブラリ担当専門職員)
	天野絵里子 (eリソースサービス室eリソースサポート係長)

### <研究開発の概要>

図書館サービスと大学の利用者認証基盤との連携や電子コンテンツ流通に関する研究開発を行う。

### <研究開発の内容>

#### 1. 研究者情報データベースと機関リポジトリ(QIR)との連携の検討

九州大学の研究者情報データベースを管理している大学評価情報室と協議を行い、研究者情報データベースと機関リポジトリとの連携を検討した。研究成果の研究者情報データベースへの登録と同時に機関リポジトリへの登録を可能にするために、著者・論文の同定方法や本文ファイル等の受け渡しについて意見交換を行い、大まかな枠組みを決定した。平成25年度にこの連携機能の実装を行う予定である。

#### 2. Shibboleth認証基盤を活用した図書館ウェブサイトでのeリソース利用環境の研究開発

これまで附属図書館では、Shibboleth認証基盤を活用し、EZproxyを通じての学外からのeリソースを利用するリモートアクセス環境の整備を進めてきた。「どこでもきゅうと」というサービス名称とともに、利用者にもある程度浸透したが、ウェブサイトの中で特定のページにアクセスし、リストの中からeリソースを選び出して使うという経路をたどらなければならない、そのサービスを知らない者にとっては利用されにくいという課題があった。

平成24年度を通じて開発を進め、平成25年3月に公開した新ウェブサイトでは、利用者が学外からアクセスしたときは、ウェブサイト全体に学生IDもしくはSSO-KIDでログインすることによって、特定のページではなく通常のeリソースのリストから使いたいリソースを選ぶだけでEZproxy経由の利用を可能とした。また、GakuNin (学術認証フェデレーション) を通じたeリソースプラットフォームへの直接のログインによるリモートアクセス利用も、ウェブサイト上でスムーズにナビゲートしている。

## 10 著作権問題に関する調査研究

---

室 員 黒澤 節男（附属図書館研究開発室特別研究員）  
担当窓口 中尾 康朗（利用支援課文献流通サービス係長）

### <研究開発の概要>

図書館サービス全般における著作権問題の解決を図るとともに、学術情報発信及び教材作成等における著作権問題について調査研究を行う。

### <研究開発の内容>

大学図書館で所蔵する資料の複製についての取り扱いは著作権法第31条に規定されているが、その法文だけでは一義的に判断できないことが多い。様々なかたちで公表された、著作物の利用について対応しなければならない担当窓口では利用者が求める複製行為が適法なのか違法なのか判断に迷うことが多い。また、著作権法を遵守することが、より手軽に広範囲な複製を希望する利用者とのトラブルの原因になることもある。最近では、このような複製問題以外にも、遠隔キャンパス間の文献の送受や機関リポジトリ導入に伴う新たな著作権問題も生じている。さらに著作権法の改正や、運用ガイドラインの公表等、図書館の著作権問題に変化がおこっている。

このような状況下において図書館員としてどのように対処するべきか、著作権法を十分に理解し、今後より多様化するであろう図書館サービスについて各自が適切な対応ができるよう様々な活動を行っている。

以下は本年度の主な活動である。

黒澤室員は、毎年5万部ほど作成し全国的に無料配布されている小冊子「図書館と著作権」（著作権情報センター）改定版を微修正の上刊行し、本学附属図書館職員等にも多数配布した。また、24年6月に著作権法の改正が行われ、国立国会図書館がデジタル化した絶版等一般に入手することが困難な資料等について大学図書館等でも複製サービスできることになったことに伴い小冊子のQ&Aの修正を行い、新年度に刊行の予定となっている。

また、5年前に発行した「機関リポジトリと著作権Q&A」（広島大学図書館）の改訂に取り組み、新たなQ&Aの追加や参照URLの変更など、その後の変化に対応した形での修正を行い「改定版」として刊行。学内外に配布した。

さらに、室員は、「著作権文献・資料目録2011」（著作権情報センター）を大家重夫久留米大学名誉教授と共同編集し、著作権情報センターのホームページのデータベースとして検索できるようにまとめあげた。

なお、今年度は、学内での個別の著作権問題は殆んど生じておらず、それぞれの部署で適切な対応ができているものと思われる。

## 11 貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する調査研究

---

室員	Wolfgang Michel (附属図書館研究開発室特別研究員) 田中久美子 (システム情報科学研究院教授) 中里見 敬 (言語文化研究院准教授)
職員	中尾 康朗 (利用支援課文献流通サービス係長) 山根 泰志 (資料整備室図書目録係) 宮嶋 舞美 (情報システム部情報基盤課デジタルライブラリ担当)
担当窓口	野原ゆかり (eリソースサービス室リポジトリ係長) 井ノ上俊哉 (医学図書館専門員)

### <研究開発の概要>

本学が所蔵する貴重資料等の調査を行うとともに、そのデータベース作成におけるコンテンツ形成及びシステム・インターフェース構築に関する調査研究を行う。

### <研究開発の内容>

#### 1. 濱文庫所蔵唱本目録作成

本研究班では、濱文庫所蔵唱本について詳細な冊子体目録を作成しながら、将来的に電子目録を公開できるよう、フォーマットに則りデータ等を蓄積している。その成果は紙媒体以外に、九州大学学術情報リポジトリでも公開し、学内外へ広く発信している。

今年度は、「濱文庫所蔵唱本目録稿(五)」を『九州大学附属図書館研究開発室年報』2011/2012に、「濱文庫所蔵唱本目録稿(六)」を『言語科学』第48号にそれぞれ掲載した。

#### 2. 国文学研究資料館への「総合目録画像データベースシステム」移植

九州大学附属図書館が開発した総合目録画像データベースシステムの利用について、平成24年11月、大学共同利用機関法人間文化研究機構国文学研究資料館と覚書を締結した。附属図書館が無償提供したソフトウェアにより、国文学研究資料館は「近世語彙カードデータベース」を構築し公開した。

## 12 資料保存に関する調査研究

---

室員	三輪 宗弘 (附属図書館付設記録資料館教授)
職員	香川 朋子 (図書館企画課企画係) 古賀 京子 (利用支援課資料サービス係) 大田 海 (利用支援課文献流通サービス係) 原賀可奈子 (資料整備室図書受入係) 羽賀真記子 (資料整備室図書目録係)
担当窓口	堀 優子 (利用支援課資料サービス係長)

### <研究開発の概要>

本学が所蔵する資料の保存・管理体制に関する調査研究を行う。

### <研究開発の内容>

#### 1. 生物被害の調査と対策

寄贈受入資料から虫害が発生したことに端を発し、生物被害を中心とした調査と対策を下記のとおり実施した。本事項と現場の職員との連携により実施方法や頻度・時期等を適切に設定することで、一過性の対策

に終わるのではなく、日常業務の中で継続的に実施できるようにし、長年の懸案であった、実質的継続的な資料保存対策の一步が踏み出せた。今後、全館で対策が進むよう、全学的な情報共有を図ることが必要である。

(詳細は、本年報の報告記事「中央図書館における生物被害とその対策についてーシバンムシ被害を中心としてー」を参照)

#### [調査]

##### ・トラップ調査 (虫害)

フェロモントラップ・ノンフェロモントラップを設置し、定期的な調査と交換を開始 (中央図書館: 6月より)。採取された虫のうち一部について、農学研究院昆虫学講座の教員に依頼し、同定作業を実施。

##### ・温湿度調査 (カビ)

データロガーを設置し、定点観測及び定期的なデータ回収を開始 (中央図書館・伊都図書館: 8月より)。

#### [対策]

##### <直接的な対策>

・虫害: 被害資料の隔離とくん蒸, 発生場所である資料修復室の殺虫処理 (薬剤散布)

・カビ: アルコールによる拭きとり (中央図書館保存書庫, 伊都図書館学位論文書庫)

##### <環境整備>

・書庫の定期的な清掃 (本の天や棚板の除塵, カビの除去, 床の清掃) を開始 (中央図書館保存書庫等: 10月より)

・清掃用品の整備 (レンタルモップの契約)

・除湿剤の設置 (中央図書館保存書庫等: 10月)

・貴重書室入口への粘着マット設置 (6月)

・室温上昇防止及び資料の日焼け防止策として, 書庫の窓の遮蔽 (中央図書館保存書庫)

#### 2. 田嶋記念財団への申請

「新中央図書館への移転に伴う資料保存対策及び環境整備事業」として, 特に緊急性が高くボリュームの大きい生物被害 (虫害・カビ) に焦点を絞って申請した (不採択)。

申請の際に, 移転対象館・室の生物被害状況調査, 必要な対策の洗い出しを行った。

#### 3. 新中央 (文系) 図書館建築計画への参画

現在九州大学で進行中の文系地区基本設計における新中央図書館のゾーン計画について, 資料保存の観点からの要求事項を文系地区基本設計コアチームへの要望に反映させて提出した。

#### 4. 修復実習の実施

図書館職員及び学生を対象として, 以下の資料の修復実習を実施した。

・初任者研修で講義と簡単な実習を担当

・九大インターンシップを受講した学生と職員を対象に修復実習を実施

#### 5. 今後の課題

・新中央図書館基本設計における資料保存の観点からの要件整理

・マイクロ資料の劣化対策

・トラップ調査及び温湿度調査のモニタリングとデータの整理・分析

# 平成25年度研究開発室研究開発事項

## 総 括

事 項	<b>研究開発の総括</b>
概 要	大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う学習・教育・研究支援活動の改善に関する事項のうち、九州大学附属図書館研究開発室において行う課題を指定し総括する。
室 長	川本芳昭（附属図書館長、副学長）
担当窓口	渡邊俊彦（図書館企画課長）

## I 図書館運営に関する分野

1	事 項	<b>情報専門職の育成に関する調査研究</b>
	概 要	図書館職員専門性のおよび次世代を担う情報専門職の育成をはかるための調査研究を行う。
	室 員	石田栄美（研究開発室） 岡崎敦（人文科学研究院）
	担当窓口	渡邊俊彦（図書館企画課長） 久原明美（資料整備室長）
2	事 項	<b>国内外の図書館間連携および新図書館計画に関する調査研究</b>
	概 要	研究・開発分野での大学図書館間の連携をすすめるとともに、新図書館に必要とされる図書館機能と、それを実現するための施設設備・サービスに関する調査研究を行う。
	室 員	吉田素文（副館長） 石田栄美（研究開発室） 堀賀貴（人間環境学研究院） 松原孝俊（韓国研究センター）
	職 員	北島光朗（利用支援課資料サービス係）
	担当窓口	松石健祐（図書館企画課企画係長）
3	事 項	<b>マーケティングおよび新サービスの創出に関する調査研究</b>
	概 要	利用状況の分析を基にした図書館マーケティングと、それを活用したサービス・利用環境の改善、新たなサービスの創出に関する調査研究を行う。
	室 員	馬場謙介（研究開発室） 池田大輔（システム情報科学研究院） 藤崎清孝（システム情報科学研究院） 伊東栄典（情報基盤研究開発センター） 森雅生（大学評価情報室） 南俊朗（特別研究員） 井上創造（特別研究員）
	職 員	井川友利子（利用支援課サービス企画係）
	担当窓口	堀優子（利用支援課サービス企画係長） 野原ゆかり（伊都地区図書館利用サービス係長）
4	事 項	<b>資料保存に関する調査研究</b>
	概 要	本学が所蔵する資料の保存・管理体制に関する調査研究を行う。
	室 員	三輪宗弘（付設記録資料館）
	職 員	中尾康朗（利用支援課文献流通サービス係長） 原賀可奈子（資料整備室図書受入係） 羽賀真記子（資料整備室図書目録係）
担当窓口	小柳貴俊（利用支援課資料サービス係長）	

## II 学習・教育活動との連携に関する分野

5	事 項	<b>学習・教育支援に関する調査研究</b>
	概 要	九州大学における学習・教育活動と連携した新たな教育支援のあり方について調査研究を行う。
	室 員	吉田素文（副館長） 富浦洋一（システム情報科学研究院） 池田大輔（システム情報科学研究院） 井上仁（情報基盤研究開発センター） 山田政寛（基幹教育院） 森雅生（大学評価情報室）
	職 員	堀優子（利用支援課サービス企画係長） 井川友利子（利用支援課サービス企画係） 北島光朗（利用支援課資料サービス係） 詫間沙由香（医学図書館受入目録係） 大村武史（伊都地区図書館企画運営係）
	担当窓口	渡邊由紀子（利用支援課長）
6	事 項	<b>教材開発および著作権処理に関する調査研究</b>
	概 要	インストラクショナルデザインに基づいた教材、教育方法の研究開発と、教材作成にかかる著作権処理問題について調査研究を行う。
	室 員	岡田義広（付設教材開発センター） 吉田素文（副館長） 井上仁（情報基盤研究開発センター） 黒澤節男（特別研究員）
	職 員	中尾康朗（利用支援課文献流通サービス係長）
	担当窓口	渡邊俊彦（図書館企画課長）

## Ⅲ コンテンツ形成および学術情報発信に関する分野

7	事項	<b>コンテンツ形成に関する調査研究</b>
	概要	九州大学が所蔵する貴重資料、コレクション等について、その由来や内容、価値等の調査を行うとともに、その画像及び書誌データベース作成についての調査研究を行う。
	室員	川平敏文（人文科学研究院） 中里見敬（言語文化研究院） Wolfgang Michel（特別研究員） 三輪宗弘（付設記録資料館）
	職員	中尾康朗（利用支援課文献流通サービス係長） 山根泰志（図書館企画課企画係） 相部久美子（医学図書館閲覧係） 梶原瑠衣（医学図書館参考調査係） 宮嶋舞美（情報システム部情報基盤課） 古賀京子（伊都地区図書館参考調査係）
担当窓口	久原明美（資料整備室長） 諸岡静児（文系合同図書室長） 井ノ上俊哉（医学図書館専門員） 星子奈美（eリソースサービス室リポジトリ係長）	
8	事項	<b>学術情報の流通および発信に関する調査研究</b>
	概要	九州大学が蓄積する学術情報資源をより効果的に発信するために、学術情報リポジトリ(QIR)等の発信機能の高度化、システム間連携、検索システムに関する研究開発を行う。
	室員	馬場謙介（研究開発室） 吉田素文（副館長） 荒木啓二郎（システム情報科学研究院） 竹田正幸（システム情報科学研究院） 富浦洋一（システム情報科学研究院） 池田大輔（システム情報科学研究院） 田中久美子（システム情報科学研究院） 廣川佐千男（情報基盤研究開発センター） 森雅生（大学評価情報室） 黒澤節男（特別研究員）
	職員	小柳真弓（eリソースサービス室リポジトリ係）
	担当窓口	星子奈美（eリソースサービス室リポジトリ係長）

## 沿革・会議日誌

- H8. 2. 20 評議会において「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」を決定
- H8. 3. 19 附属図書館商議委員会において、「九州大学附属図書館研究開発室要項」承認
- H8. 4. 1 研究開発室設置（5年期限）
- H9. 5 『附属図書館研究開発室の概要』発行開始
- H11. 7. 1 教官運用定員により、専任教官として南俊朗助教授着任
- H13. 3. 1 研究開発室業務成果報告会を開催し、評議会への報告を行った。この結果、さらに5年間の研究開発室の存続が承認
- H13.10. 1 南助教授が九州情報大学に転出、専任教官として喜田拓也講師着任
- H16. 4. 1 喜田講師が北海道大学に転出、専任教員として池田大輔助教授着任
- H17. 6. 1 『九州大学附属図書館研究開発室年報』発行開始
- H18. 2.17 将来計画委員会において研究開発室の常設化が承認
- H18. 8. 1 池田助教授がシステム情報科学研究院に異動
- H18. 10. 1 専任教員として井上創造助教授着任
- H21. 4. 30 井上准教授が九州工業大学に転出
- H21. 8. 1 専任教員として馬場謙介准教授着任
- H23. 4. 1 専任教員として石田栄美准教授着任
- H24. 4. 1 研究開発室員総長発令
- |       |                |                 |                          |
|-------|----------------|-----------------|--------------------------|
| 吉田素文  | 副館長・医学研究院教授    | 池田大輔            | システム情報科学研究院准教授           |
| 馬場謙介  | 附属図書館研究開発室准教授  | 廣川佐千男           | 情報基盤研究開発センター教授           |
| 石田栄美  | 附属図書館研究開発室准教授  | 伊東栄典            | 情報基盤研究開発センター准教授          |
| 三輪宗弘  | 附属図書館付設記録資料館教授 | 井上 仁            | 情報基盤研究開発センター准教授          |
| 岡崎 敦  | 人文科学研究院教授      | 松原孝俊            | 韓国研究センター教授               |
| 川平敏文  | 人文科学研究院准教授     | 森雅生             | 大学評価情報室助教                |
| 堀 賀貴  | 人間環境学研究院教授     | 井上創造            | 研究開発室特別研究員<br>・九州工業大学准教授 |
| 中里見敬  | 言語文化研究院准教授     | 黒澤節男            | 研究開発室特別研究員               |
| 荒木啓二郎 | システム情報科学研究院教授  | 南 俊朗            | 研究開発室特別研究員<br>・九州情報大学教授  |
| 竹田正幸  | システム情報科学研究院教授  | Wolfgang Michel | 研究開発室特別研究員               |
| 富浦洋一  | システム情報科学研究院教授  |                 |                          |
| 田中久美子 | システム情報科学研究院教授  |                 |                          |
| 藤崎清孝  | システム情報科学研究院准教授 |                 |                          |
- H24.6.18 研究開発室会議（平成24年度第1回）
- H25.2.27 研究開発室活動発表会

## 論文・発表・関連講演会等

平成 24 年度（第 17 年次：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

### 原著論文

- 
- H24.8 中里見敬, 中尾友香梨, 山根泰志, 濱文庫の概要と現状：1930 年代を中心とする中国演劇資料の宝庫, 九州大学附属図書館研究開発室年報, 2011/2012, pp. 14-23, 2012.8.
- H24.9 Kensuke Baba and Masao Mori, Simultaneous Registration of Scholarly Papers to a Researcher Database and a Repository, Proc. the International Conference on E-Learning and E-Technologies in Education, pp. 200--203, IEEE, 2012.9.
- H24.9 Koji Sakaguchi, Satoshi Nakayama, and Kensuke Baba, Formalization of the Paper Registration Process to Institutional Repositories, Proc. 2012 IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics, pp. 14--18, IEEE, 2012.9.
- H24.9 Toshiro Minami and Kensuke Baba, Investigation of Interest Range and Earnestness of Library Patrons from Circulation Records, Proc. 2012 IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics, pp. 25--29, IEEE, 2012.9.
- H24.9 Masao Mori, Toshie Tanaka, and Kensuke Baba, Connecting an Institutional Repository with a Researcher Database, Proc. 2012 IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics, pp. 190--192, IEEE, 2012.9.
- H24.10 Kensuke Baba and Masao Mori, Paper Registration to Repository from Researcher Database, International Journal of Digital Information and Wireless Communications, vol. 2, no. 4, pp. 1--6, SDIWC, 2012.10.
- H24.10 中里見敬, 文体としての風景：中国伝統小説における「風景」の発見以前, 言語文化論究, vol. 29, pp. 69-89, 2012.10.
- H24.11 中里見敬, 林訳『巴黎茶花女遺事』の語りと文体（下）：作中人物の話法の形式, 東北大学中国語学文学論集, vol. 17, pp. 75-90, 2012.11.
- H25.3 南俊朗, 大浦洋子, 授業データ解析による授業改善策発見を目指して－努力・成果・評価の関連性からのアプローチ－, 九州情報大学研究論集, 第 15 巻, pp.1-16, 2013.3.

### 学会発表等

- 
- H24.5 Toshiro Minami and Yoko Ohura, Toward Learning Support for Decision Making -- Utilization of Library and Lecture Data --, Proc. 4th International Conference on Intelligent Decision Technologies (KES-IDT'2012), Springer Smart Innovation, Systems and Technologies 16, pp.137-147, 2012.5.
- H24.5 中里見敬, 林訳『巴黎茶花女遺事』の語りと文体：「風景」の発見との関連において, 平成 24 年度（第 60 回）九州中国学会, 2012.5.13.

- H24.5 井上創造: Mobile Activity Recognition and Healthcare Application, Proceedings of International Conference on Informatics, Electronics & Vision, 2012.5.18.
- H24.7 田中 翔太, 中村 優斗, 服部 祐一, 井上 創造, "ウェアラブルセンサの加速度データによるセンサ間の時刻同期手法 (Method of Time Synchronization Between the Sensors of Acceleration Data by Wearable Sensors) ", マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウム(DICOMO2012)予稿集, pp. 8 pages, Ishikawa, Japan.2012.7.4.
- H24.7 河口 信夫, 渡辺 穂高, Tianhui Yang, 小川 延宏, 岩崎 陽平, 梶 克彦, 寺田 努, 村尾 和哉, 羽田 久一, 井上 創造, 川原 圭博, 角 康之, 西尾 信彦, "大規模人間行動センシングコーパス HASC2012corpus の概要とその応用", マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウム(DICOMO2012)予稿集, pp. 7 pages, Ishikawa, Japan.2012.7.4.
- H24.7 李 林, 外園 裕隆, 服部 祐一, 井上 創造, "データ解析型プロジェクトにおける差分処理を考慮した並列分散処理 (Differential Processing for Data-analytic Projects with Parallel and Distributed Processing} ) ", マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウム(DICOMO2012)予稿集, pp. 7 pages, Ishikawa, Japan.2012.7.4.
- H24.9 Toshiro Minami and Kensuke Baba, Investigation of Interest Range and Earnestness of Library Patrons from Circulation Records, Proc. International Conference on e-Services and Knowledge Management (ESKM 2012), as a part of the 1st IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI 2012), IEEE CPS, DOI 10. 1109/IIAI-AAI2012, pp. 25-29, 2012.9.
- H24.9 井上 創造, " (招待) バングラデシュと日本におけるヘルスケアセンシング", 情報科学技術フォーラム (FIT) イベント「スマートフォン実世界センシング × コンピューティング」, to appear, Tokyo, 2012.9.4.
- H24.9 井上 創造, " (招待) サイバーフィジカルヘルスケア", 電子情報通信学会ソサイエティ大会「CPSを支える/CPSが変えるインターネットアーキテクチャ」, to appear, Fukuoka.2012.9.19.
- H24.9 李 林, 井上 創造, "Dependency Management System with Hadoop Streaming for Data-analytic Projects", Korea-Japan Joint Workshop on ICT, pp. 4 pages, Pohang, Korea.2012.9.21.
- H24.9 戸田 隆道, 今永 友里子, 江島 潤, 定 亮佑, 西尾 治果, 保田 周二, 服部 祐一, 井上 創造, "音声認識によるモテ声診断手法 〇〇", 電気関係学会九州支部連合大会, pp. 1 page, Nagasaki.2012.9.24.
- H24.9 新美孟, 藤崎清孝, "図書管理用卓上型 RFID リーダの高性能化に関する研究 1 -卓上型リーダの基本性能の評価-", 2012 年度電子情報通信学会九州支部学生会講演会、長崎大学、2012.9.26.
- H24.10 服部 祐一, 右田 尚人, 田中 翔太, 井上 創造, "Activity Sharing System with Windows Phones and Motion Data", Microsoft Research Asia Faculty Summit, pp. 1 page, Tianjin, China.2012.10.27.
- H24.11 野原 康伸, 井上 創造, 中島 直樹, 上田 修功, 喜連川 優, "Large-scale Sensor Dataset in a Hospital", International Workshop on Pattern Recognition for Healthcare Analytics, pp. 4 pages, Tsukuba.2012.11.11.
- H24.11 服部 祐一, 田中 翔太, 井上 創造, "Hierarchical Annotation Management Method for Activity Information Collecting System", International Workshop on Network Traffic Control, Analysis and Applications (NTCAA-2012), pp. 662-667, Victoria, Canada.2012.11.12

- H24.12 Toshiro Minami and Yoko Ohura, An Attempt on Effort-Achievement Analysis of Lecture Data for Effective Teaching, Proc. The 2012 International Conference on Database Theory and Application (DTA 2012), T.-h. Kim et al. (Eds), EL/DTA/UNESST 2012, CCIS 352, Springer, Heidelberg, pp. 50-57, 2012.12.
- H24.12 Toshiro Minami and Yoko Ohura, Towards Development of Lecture Data Analysis Method and its Application to Improvement of Teaching, Proc. 2nd International Conference on Applied and Theoretical Information Systems Research (2ndATISR 2012), 14pp., 2012.12.
- H24.12 井上 創造, " (招待) ヘルスケアにおける大規模センシングとプロセス改善に向けて", 日本 OR 学会九州支部講演会, to appear, Fukuoka, 2012.12.1.
- H24.12 戸田 隆道, 李 林, 井上 創造, "データ解析型プロジェクトにおける並列分散処理フローの設計 (Design of Parallel and Distributed Processing Flow for Data-Analytic Project) ", 日本知能情報ファジィ学会九州支部学術講演会予稿集, pp. 2, Saga.2012.12.8.
- H24.12 右田 尚人, 服部 祐一, 田中 翔太, 井上 創造, "モーションデータと加速度データによる行動情報共有システムの開発 (Activity Information Sharing System with Acceleration Data and Motion Data) ", 日本知能情報ファジィ学会九州支部学術講演会予稿集, pp. 4 pages, Saga.2012.12.8.
- H24.12 林田 興祐, 中村 優斗, 井上 創造, 野原 康伸, 中島 直樹, "入院病棟における看護師と患者のセンサデータの分析(Analysis of the Sensor Data of Nurses and Patients in a Hospital Ward)", 日本知能情報ファジィ学会九州支部学術講演会予稿集, pp. 2, Saga.2012.12.8.
- H25.2 中里見敬, 日本と中国における『椿姫』の翻訳: 同時代東アジアの文脈から見た林訳小説, 第 264 回文芸座談会, 2013.2.2.
- H25.3 Toshiro Minami, Interest Area Analysis of Person and Group Using Library's Circulation Records, IADIS International Conference on Information Systems 2013 (IS 2013), 8pp., 2013.3
- H25.3 中村 優斗, 井上 創造, 野原 康伸, 中島 直樹, "看護師モバイルセンサからの看護行動区間の推定(Finding Nursing Interval from Mobile Sensors Attached to Nurses)", 情報処理学会ユビキタスコンピューティングシステム(UBI)研究会, to appear, Tokyo.2013.3.14.
- H25.3 中村 優斗, 井上 創造, 野原 康伸, 中島 直樹, "Finding Nursing in the Room from Accelerometers and Audio on Mobile Sensors", IUI Workshop on Location Awareness for Mixed and Dual Reality (LAMDa), pp. 4 pages, Santa Monica, USA.2013.3.19.

#### 総説・論評・解説・書評・報告書等

---

- H24.6 馬場 謙介, 文献自動収集・登録ワークフローシステムの開発, 平成 23 年度 CSI 委託事業報告交流会, 2012.6.13.
- H24.8 中里見敬, 山根泰志, 李麗君, 濱文庫所蔵唱本目録稿 (五), 九州大学附属図書館研究開発室年報, 2011/2012, pp. 51-60, 2012.8.
- H25.2 中里見敬, 山根泰志, 中尾友香梨, 濱文庫所蔵唱本目録稿 (六), 言語科学, vo. 48, pp. 95-119, 2013.2.
- H25.3 リディア・H・リウ著, 中里見敬, 清水賢一郎訳, 個人主義という言説, 言語文化論究, vol. 30, pp. 119-143, 2013.3.

## 学会活動

平成 24 年度（第 17 年次：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

### 学協会役員等への就任

---

井上創造	情報処理学会データベースシステム研究会 運営委員
中里見敬	2012.4～2013.3, 日本中国学会, 評議員.
中里見敬	2011.5～2014.4, 九州中国学会, 理事.

### 学会・研究会における座長等

---

南俊朗	ESKM 2012 (3rd IIAI International Conference on e-Services and Knowledge Management)
南俊朗	The Fifth International Conference on Information, Process, and Knowledge Management (eKNOW 2013)
井上創造	マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO)シンポジウム Chair (2012 年 7 月)
井上創造	IEEE International Conference on Computer and Information Technology (CIT'12) Track Chair (2012 年 10 月)
井上創造	情報処理学会 WebDB Forum Chair (2012 年 11 月)

### 学会誌・雑誌・著書の編集への参加状況

---

中里見敬	2011.05～2014.04, 『九州中国学会報』, 編集委員.
井上創造	情報処理学会論文誌データベース(TOD) 編集委員 (2012 年 4 月)
井上創造	情報処理学会論文誌「デジタルプラクティス」 ゲストエディタ (2013 年 1 月)

### 学術論文等の審査

---

南俊朗	KES-IDT 2012 (4th International Conference on Intelligent Decision Technologies), Program Committee Member.
南俊朗	PKAW 2012 (The 2012 Pacific Rim Knowledge Acquisition Workshop), Program Committee Member
南俊朗	ESKM 2012 (3rd IIAI International Conference on e-Services and Knowledge Management), Program Committee Member
南俊朗	MySec2012 (The 6th Malaysian Software Engineering Conference 2012), Program Committee Member.
南俊朗	ADMA2012 (The 8th International Conference on Advanced Data Mining and Applications), Program Committee Member.
南俊朗	DTA2012 (The 2012 International Conference on Database Theory and Application), Program Committee Member.

- 南俊朗 ATISR 2012 (International Conference on Applied and Theoretical Information Systems Research), Paper Reviewer.
- 南俊朗 PAKDD 2013 (The 17th Pacific-Asia Conference on Knowledge Discovery and Data Mining), Program Committee Member.
- 南俊朗 ACIIDS 2013 (The 5th Asian Conference on Intelligent Information and Database Systems), Program Committee Member
- 南俊朗 Information 2013 (The Sixth International Conference on Information), Program Committee Member
- 井上創造 情報処理学会論文誌「グループウェアとネットワークサービス」特集号 査読 (2012年4月)
- 井上創造 International Conference on Informatics, Electronics & Vision (ICIEV12) プログラム委員 (2012年5月)
- 井上創造 International Workshop on Sensing, Networking, and Computing with Smartphones (PhoneCom2012) <http://phonecom.org> プログラム委員 (2012年6月)
- 井上創造 マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO)シンポジウム 評価委員 (2012年7月)
- 井上創造 IIAI International Conference on e-Services and Knowledge Management (IIAI ESKM 2012) プログラム委員 (2012年9月)
- 井上創造 情報処理学会 WebDB Forum プログラム委員 (2012年11月)
- 井上創造 情報処理学会 WebDB Forum 学生奨励賞審査員 (2012年11月)
- 井上創造 Pervasive and Mobile Computing, Elsevier 査読 (2013年2月)
- 井上創造 情報処理学会「インタラクション」シンポジウム プログラム委員 (2013年2月)
- 井上創造 電気学会論文誌C 査読 (2013年3月)
- 井上創造 JAMI 医療情報学 査読 (2013年3月)

## 調査・視察等

平成24年度 (第17年次:平成24年4月～平成25年3月)

- H24.11.12-14 山根泰志 東京大学「鷗外文庫プロジェクト」およびデータベースについての調査 (東京)
- H24.11.21-22 原賀可奈子 第14回図書館総合展 (パシフィコ横浜) 参加 (神奈川)
- H24.11.30 南俊朗 中村学園大学図書館見学 (福岡)
- H25.3.14 南俊朗 National Library of Portugal 見学 (ポルトガル)

### 九州大学附属図書館規則

平成16年度九大規則第139号

施行：平成16年4月1日

最終改正：平成25年3月19日

(趣旨)

第1条 この規則は、九州大学学則（平成16年度九大規則第1号。以下「学則」という。）第10条第2項の規定に基づき、附属図書館の内部組織その他必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 附属図書館は、図書館資料を収集管理し、九州大学（以下「本学」という。）の職員及び学生の調査・研究に資することを目的とする。

(館長)

第3条 学則第25条の規定により、附属図書館に、館長を置く。

2 館長は、総長が指名する副学長をもって充てる。

(副館長)

第4条 学則第25条の規定により、附属図書館に、副館長を置く。

2 副館長は、本学の教授のうちから、館長の推薦により、総長が任命する。

3 副館長の任期は、2年とする。ただし、当該副館長への就任時における館長の任期の終期を超えることはできない。

4 副館長は、再任されることができる。

(分館)

第5条 附属図書館に、分館として、病院地区に医学図書館を、大橋地区に芸術工学図書館を、筑紫地区に筑紫図書館を、伊都地区に伊都図書館を置く。

(分館長)

第6条 分館に、分館長を置く。

2 医学図書館の分館長（「医学図書館長」と称する。）は、病院地区に置かれた部局の教授をもって充てる。

3 芸術工学図書館の分館長（「芸術工学図書館長」と

称する。）は、大橋地区に置かれた部局の教授をもって充てる。

4 筑紫図書館の分館長（「筑紫図書館長」と称する。）は、筑紫地区に置かれた部局の教授をもって充てる。

5 伊都図書館の分館長（「伊都図書館長」と称する。）は、伊都地区に置かれた部局の教授をもって充てる。

6 分館長は、館長の統轄のもとに、分館の事務を掌理する。

(研究開発室)

第6条の2 附属図書館に、研究開発室を置く。

2 研究開発室の業務及び組織に関し必要な事項は、総長の承認を経て、館長が定める。

(部局図書室)

第7条 附属図書館に、次の部局図書室を置く。

(1) 文系合同図書室

(2) 別府病院図書室

(記録資料館)

第8条 附属図書館に、記録資料館を付設する。

2 記録資料館の組織、運営等に関し必要な事項は、総長の承認を得て、館長が定める。

(教材開発センター)

第8条の2 附属図書館に、教材開発センターを付設する。

2 教材開発センターの組織、運営等に関し必要な事項は、総長の承認を得て、館長が定める。

(商議委員会)

第9条 附属図書館に、図書館に関する重要事項を審議するため、商議委員会を置く。

2 商議委員会の組織、議事の手続その他必要な事項は、総長が別に定める。

(分館運営委員会)

第10条 分館に、分館の運営等を審議させるため、分館運営委員会を置く。

2 各分館運営委員会の組織、議事の手続その他必要な事項は、当該分館が置かれた地区の部局の意見を聞いて、館長が定める。

(運営)

第11条 この規則に定めるもののほか、附属図書館の運営等に関して必要な規則は、総長の承認を得て、館長が定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成16年度九大規則第227号)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年度九大規則第16号)

この規則は、平成17年10月1日から施行する。

附 則 (平成17年度九大規則第88号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年度九大規則第127号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する

附 則 (平成20年度九大規則第105号)

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成22年度九大規則第152号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 (平成23年度九大規則第7号)

この規則は、平成23年6月1日から施行し、平成

23年4月1日から適用する。

附 則 (平成24年度九大規則第56号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

## 九州大学附属図書館研究開発室規程

平成17年度九大規程第54号

施行：平成18年4月1日

最終改正：平成23年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、九州大学附属図書館規則(平成16年度九大規則第139号)第6条の2の規定に基づき、研究開発室の業務及び組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 研究開発室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 九州大学(以下「本学」という。)の研究成果、貴重資料等の電子化及び発信に係るシステム等の研究開発
- (2) 情報リテラシー教育に関する研究開発及び支援
- (3) 電子図書館システムの整備及びIT技術を活用した図書館利用に関する研究開発
- (4) 伊都キャンパス新図書館計画策定のための調査研究
- (5) 国際連携の推進に向けた外国大学図書館等に関する調査研究
- (6) 地域貢献の推進に向けた展示会及び講演会の企画及び実施
- (7) 図書館業務に関し高度な専門知識を有する図書

館職員の養成

(8) その他図書館サービスの改善に関する研究開発

(組織)

第3条 研究開発室は、室長及び室員をもって構成する。

(室長)

第4条 室長は、附属図書館長をもって充てる。

2 室長は、研究開発室の業務を掌理する。

(運営委員会)

第5条 研究開発室に、研究開発室の重要事項を審議するため、研究開発室運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) 附属図書館副館長
- (3) 研究開発室に所属する教員
- (4) その他室長が必要と認めた者 若干人

- 3 前項第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前項の委員は、再任されることができる。
- 5 運営委員会に委員長を置き、室長をもって充てる。
- 6 委員長は、運営委員会を主宰する。

(室員)

第6条 室員は、研究開発室に所属する教員並びに次条及び第8条に規定する者をもって充てる。

2 室員は、室長の命を受け、研究開発室の業務を行う

(兼任の教員)

第7条 研究開発室に、兼任の教員を置くことができる。

2 兼任の教員は、本学の教員のうちから附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。

3 兼任の教員の任期は、兼任の教員となった日の属する年度の末日までとし、再任を妨げない。

(研究開発室特別研究員)

第8条 附属図書館長は、研究開発室の業務を推進するため、学外有識者を研究支援者として委嘱することができる。

2 前項の研究支援者を研究開発室特別研究員と称する。

3 研究開発室特別研究員の任期は、研究開発室特別研究員となった日の属する年度の末日までとし、再任を妨げない。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、研究開発室の業務等に関し必要な事項は、室長が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年度九大規程第8号)

1 この規程は、平成20年6月12日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に委嘱される研究開発室特別研究員の任期は、この規程による改正後の九州大学附属図書館研究開発室規程第7条第3項の規定にかかわらず、平成21年3月31日までとする。

附 則 (平成22年度九大規程第23号)

この規程は、平成22年7月21日から施行し、平成22年7月1日から適用する。

附 則 (平成22年度九大規程第171号)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

## 九州大学附属図書館研究開発室運営委員会要項

(平成8年3月19日附属図書館商議委員会承認)

(平成18年3月10日附属図書館長伺定)

(趣旨)

第1条 この要項は、九州大学附属図書館研究開発室規程第5条に規定する研究開発室運営委員会(以下「運営委員会」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 研究開発室の教員人事に関すること。
- (2) 教員の研究業務に係る重要事項に関すること。
- (3) 研究開発室内の諸規則等の制定改廃に関すること。
- (4) 研究開発室の自己点検・評価に関すること。
- (5) その他研究開発室の管理運営に関すること。

2 前項第1号に掲げる事項のうち、教員の選考のための資格審査については、原則として、研究開発室に設置する教員選考委員会において行うものとする。ただし、必要に応じて研究開発室の教育研究に係る部局の教授会において行うことができる。

(議事)

第3条 運営委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(意見の聴取)

第4条 運営委員会において、委員長が必要と認める

ときは、委員以外の者に出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務)

第5条 運営委員会に関する事務は、図書館企画課において処理する。

(雑則)

第6条 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、室長が定める。

附 記

この要項は、平成23年6月6日から実施し、平成23年4月1日から適用する。

## 九州大学附属図書館研究開発室要項

---

(平成8年3月19日附属図書館商議委員会承認)

(平成18年3月10日附属図書館長伺定)

(趣 旨)

1 この要項は、九州大学附属図書館研究開発室規程(平成17年度九大規程第54号)第9条の規定に基づき、九州大学附属図書館研究開発室(以下「研究開発室」という。)の業務等に関し必要な事項を定めるものとする。

(研究開発)

2 附属図書館長は、研究開発事項及び期間を定め、研究開発事項に適した者を室員として選抜するものとする。

(総長への室員の推薦)

3 附属図書館長は、総長に室員を推薦するにあたり、室員が所属する部局等の長の承諾を得るものとする。

(研究開発成果等の報告)

4 研究開発室長は、研究開発の成果及び進捗状況を適宜商議委員会等に報告するものとする。

(運営経費)

5 研究開発室の運営に関する経費は、附属図書館の予算上可能な範囲で支弁するものとする。

(その他)

6 この要項に定めるもののほか、研究開発室の運営については、研究開発室長の定めるところによる。

附 則

この要項は、平成8年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成13年7月16日から実施し、平成13年7月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成18年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成23年7月25日から実施し、平成23年4月1日から適用する。

## 九州大学附属図書館研究開発室年報 編集規定

---

(目的)

1 本誌は、本学附属図書館研究開発室の年間の活動状況を報告することを主たる目的とし、併せて、本学附属図書館研究開発室員及び本学図書館職員

の研究活動成果としての論文、報告記事等を掲載することを目的とする。

(編集委員会)

- 2 編集委員会を本学附属図書館研究開発室に置く。  
編集委員会は、館長、副館長、研究開発室専任室員、  
事務部長から構成する。

(論文・記事の投稿)

- 3 投稿原稿は、投稿規定に従い、下記編集事務局へ  
送付または持参する。投稿原稿は、上記編集目的に  
沿った未発表原稿であること。

<投稿先>

附属図書館図書館企画課企画係

(編集事務)

- 4 編集事務は、附属図書館図書館企画課企画係にお  
いて処理する。

(校正)

- 5 初校及び再校は、投稿者の責任において行う。

## 九州大学附属図書館研究開発室年報 投稿規定

- 1 原稿は横書きとし、下記指定文字数で作成する。  
本文及び図・表・図版(写真)も含め、原則とし  
て、刷り上り(横書き2段組み)10ページ以内  
とする。記述に関しては、指定のテンプレートフ  
ァイルを用いて作成すること。

1行24字・48行(2304字)

- 2 原稿は電子メールでの投稿を原則とする。本文  
はMS-Word形式、TeX形式、一太郎形式のいづれ  
かとし、図はgif、jpeg、tiff、ai、bmp、pict、eps形式と  
する。

- 3 原稿は次の順に記載する。

- 1) 文献種別 2) 標題(和文) 3) 執筆者名  
(和文) 4) 抄録(和文) 5) キーワード(和  
文) 6) 標題(欧文) 7) 執筆者名(欧文)  
8) 本文 9) 引用文献、参考文献

なお、執筆者の所属・職名・住所・連絡先は1ページ  
目下部に、注記については各ページの下部に記載す  
ることとする。

- 4 表記は次のとおりとする。

- 1) 表記は常用漢字、現代かなづかいに従う。  
2) 数字は算用数字を用いる。  
3) フォントは和文ではMS明朝、欧文では  
Times New Romanを使用する。

- 4) フォントサイズは以下の通りとする。

- ・ タイトル：16pt
- ・ サブタイトル：14pt
- ・ 執筆者名：12pt
- ・ 欧文タイトル：16pt
- ・ 欧文サブタイトル：14pt
- ・ 欧文執筆者名：12pt
- ・ 段落みだし：10.5pt(太字)
- ・ 本文、抄録・キーワード：10pt

- 5) 句読点は全角コンマ及び全角ピリオドを  
使用すること。
- 6) 引用文献、参考文献の記載は、科学技術情  
報流通技術基準SIST-02-2007「参照文献の  
書き方」に従うこと。
- 7) 表・図・図版については、投稿時に挿入位  
置に貼り付け、キャプションをつけること。  
また、別途原図を提出すること。キャプシ  
ョンは表については上部に、図・図版につ  
いては下部に配置する。どちらもセンタリ  
ングすること。キャプションのフォントサ  
イズは9ptとする。

- 5 本誌に掲載された著作物の著作権は著者に帰属  
する。ただし、本誌は冊子で発行するとともに、  
電子版を公開するため、本誌に掲載される研究活  
動報告並びに投稿された著作物については、電子  
化の許諾をしたものとみなす。

---

**九州大学附属図書館研究開発室年報 2012/2013**

ISSN 1881-3542

2013年9月発行

九州大学附属図書館研究開発室

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

電話 092 (642) 4264

印刷 (株)ミドリ印刷

---

九州大学附属図書館研究開発室年報 2012/2013

ISSN 1881-3542

2013年9月発行

九州大学附属図書館研究開発室

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

電話 092 (642) 4264

印刷 (株)ミドリ印刷

